

2015（平成27）年度

教育と研究

久留米信愛女学院短期大学

目次

教授

関 聡	・・・3
安保 康治	・・・11
阿久根 政子	・・・19
江越 和夫	・・・25
岡部 千鶴	・・・33
椎山 克己	・・・41
藤村 やよい	・・・49
山下 浩子	・・・59
石井 妙子	・・・69
原 浩美	・・・77
樫山 フミエ	・・・87
森光 義昭	・・・93

准教授

重永 茂	・・・99
進藤 務子	・・・105
山村 涼子	・・・113
眞部 眞紀子	・・・123
池田 可奈子	・・・131

講師

大塚 史典	・・・139
生地 篤	・・・147
生地 暢	・・・153
渡邊 由恵	・・・161
西田 明紀	・・・171

助手

岡 輝美	・・・179
眞谷 智美	・・・183
高松 幸子	・・・187

教員研究会資料	・・・191
---------	--------

学生の授業評価に基づく優秀科目	・・・195
-----------------	--------

所属学科	職名	氏名
幼児教育	教授	関 聡
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
モンテッソーリ教育法Ⅰ	幼児教育学科2年	保育士選択必修
モンテッソーリ教育法Ⅱ	幼児教育学科2年	保育士選択必修
研究分野		
<p>1、教育哲学の分野 修士論文いらいの生涯のテーマである教育活動及び教育学の独自性に関する研究である。教育という人間の営みについて、その領域独自の論理があるという仮説に基づき、教育的思考・教育的関係・教育的価値等について研究している。</p> <p>2、保育者養成の分野 保育士及び幼稚園教諭の養成に関して、カリキュラム論を中心に研究している。本学の保育者養成に資すること、地域の保育の質の向上につながることを念頭に置いて研究を進めている。</p> <p>3、カトリック保育の分野 カトリック保育とはなにか。その理念・実践・保育者養成について、カトリック短期大学で保育者養成に携わる者として研究を進めている。「信愛保育の創造」をテーマにしたい。</p> <p>4、モンテッソーリ教育の分野 モンテッソーリ教育に関する理論的研究。モンテッソーリ教育法について、その成立過程、教育理論、教育方法、現職教育などについて研究を行っている。</p> <p>5、保育現場との共同研究の分野 平成23年度から信愛幼稚園教育において、年長クラス男児に剣道の指導を行っている。小学生以上の少年剣道の指導に関しては、いくつかの先行研究及び指導書があるが、幼稚園児指導の研究は見当たらない。信愛幼稚園との共同研究を進めたい。</p> <p>6、大学教育の分野 大学教育の改革について文部科学省のプロジェクトに沿って研究を行なっている。これまで、「地域参画型短期大学教育」「卒業生のマンパワーを活用したキャリア教育」「10年間継続した就業力育成教育」等について研究と実践を行ない、平成24年度～平成26年度は「産業界のニーズに対応した授業改善・充実体制整備事業」における「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」に取り組み、「キャリア教育の開発」について研究・実践を行ってきた。</p> <p>7、カトリック教育の分野 高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んでいきたい。設立母体である「シヨファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の理解とともに、学生への信愛教育のあり方を省察しながら実践したい。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. モンテッソーリに関する研究

モンテッソーリ教育の成立過程について研究した。とくに、①理論と実践の関係について、②現場保育者の力量の向上について論じ、その研究をもとに、現場のモンテッソーリ教師の講習・リカレント教育を進めた。また、入門書の書評を書いてモンテッソーリ教育の普及にも努めた。

2. 現場との共同研究

久留米信愛女学院幼稚園において実施している年長クラス男児の剣道指導について、今後の研究の基礎研究を進めた。

3. 保育者養成に関する研究

日本幼児教育学会のシンポジウムを総括し、養成校からの視点・保育現場からの視点・保護者からの視点の3つの視点から保育者養成の今後の課題を明らかにした。

4. 子育て支援に関する研究

地域に密着した子育て支援に関する研究を行い、その成果を久留米市子ども未来部及び「ファミリーサポートくるめ」の活動に反映させた。

平成 27 年度の研究の成果

(書評)

1. 『知っておくべき世界の偉人⑱ モンテッソーリ』岩崎書店 平成 28 年 3 月 『モンテッソーリ教育第 48 号』日本モンテッソーリ協会 (学会)

(報告)

1. 「保育者養成校における課題－養成校、保育現場、保護者の視点から－」共同 平成 27 年 4 月 『幼児教育研究第 22 号』(53～54)

(司会)

1. 「研究発表」平成 27 年 8 月 日本モンテッソーリ協会 (学会) 全国大会 研究発表・司会
2. 「研究発表」平成 27 年 10 月 日本幼児教育学会全国大会 研究発表・司会

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「カトリック保育研究V－本学における保育者養成の課題－」共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 35 号』(1～16)
2. 「教員免許状の更新講習の役割」共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 35 号』(41～50)
3. 「教職における実践的力量形成のための授業実践」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』(59～68)

(報告)

1. 「新しい子ども、新しい教師、新しい教育」共同 平成 26 年 3 月 『モンテッソーリ教育 第 46 号』(27～29) 日本モンテッソーリ協会(学会)全国大会シンポジウム・司会
2. 「保育者養成校と実習園の関係の在り方を考える」単独 平成 26 年 4 月 『幼児教育研究第 21 号』(40～46)
3. 「総括」「おわりに」単独 平成 27 年 3 月 『学生の積極的参加を促す授業改善事例集』地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト (136～137)

(司会)

1. 「研究発表」平成 25 年 8 月 日本モンテッソーリ協会(学会)全国大会 研究発表・司会
2. 「新しい子ども、新しい教師、新しい教育」共同 平成 25 年 8 月 日本モンテッソーリ協会(学会)全国大会シンポジウム・司会

3. 「保育者養成における課題」共同 平成26年7月 日本幼児教育学会全国大会シンポジウム・司会	
本教員の主たる研究の成果（5編以内）	
（著書）	
1. 『新しい世界のための教育』 M. モンテッソーリ著 エンデルレ書店 単独翻訳 平成3年3月 2. 『保育原理』 共著 法律文化社 平成2年4月 3. 『教育方法技術』 共著 八千代出版 平成5年3月 4. 『教育原理』 共著 保育出版 平成12年4月 5. 『モンテッソーリ教育用語辞典』 共著 学苑社 平成18年10月	
所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本幼児教育学会	学会誌『幼児教育研究』の編集委員を務めている。 平成27年度は全国大会（於：東京保育専門学校）に参加し、研究発表の司会を務めた。
日本モンテッソーリ協会（学会）	教会（学会）理事を務めている。 学会誌『モンテッソーリ教育』の編集委員を務めている。 「K. ルーメル学術奨励賞」の選考委員を務めている。 平成27年度は全国大会（於：奈良）に参加し、研究発表の司会を務めた。
日本カトリック教育学会	全国大会に参加した。
日本教育学会	大会等是不参加であった。
平成28年度 研究計画	
1. 教育哲学に関する研究 西洋教育思想について研究を行う。コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ・オーウェン・フレーベル・ヘルバルト・ケイ・モンテッソーリ・デュイイについてその業績をまとめ、その成果を『新・教育学のグランドデザイン』（共著）八千代出版、第2章「教育の諸理論」にて発表する。	
2. モンテッソーリ教育に関する研究 ①理論研究 モンテッソーリ教育の成立過程について研究する。とくにモンテッソーリ用語の発現・展開の経緯に注目し、モンテッソーリ教育の日本化・現代化の道を探りたい。	
②実践研究 現場保育者の力量の向上について論じ、その研究をもとに、現場のモンテッソーリ教師の講習・リカレント教育を進める。	
3. 現場との共同研究 久留米信愛女学院幼稚園において実施している幼稚園剣道の指導について研究を進める。先行研究を精査するとともに、資料的な発表から始める。竹刀操作の技能向上だけでなく、年長児の集中力・随意運動・忍耐力など心身の両面から少年剣道の意義を探りたい。	
4. 子育て支援に関する研究 子育て支援についての研究を行う。とくに現代の育児に必要な子ども観の形成、ファミリーサポート事業に必要とされる人権意識、カトリックに基づいた人間観を論じ、その成果を「ファミリーサポートセンターくるめ」による活動に生かす。	
5. カトリック教育の分野 高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んでいきたい。設立母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の理解とともに、学生への信愛教育のあり方を省察しながら実践したい。	

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>学生の積極的学修を促進する。</p> <p>「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」の質問項目の平均評価を 4.6 以上にする。</p>	<p>○「モンテッソーリ教育法Ⅰ」問 2 4.3</p> <p>○「モンテッソーリ教育法Ⅱ」問 2 4.0</p> <p>「M 教育法Ⅰ」よりも「M 教育法Ⅱ」の値が低いのは問題である。</p> <p>授業以外の学修時間の確保が必要である。学習意欲を喚起する工夫が求められる。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
モンテッソーリ教育法Ⅱ	2 年全（選択）	平成 27 年 12 月 22 日（火）

自己評価	他者評価
<p>【本授業について】</p> <p>本科目は少人数で行なう授業（選択授業で興味のある学生しか履修しない）のため、雰囲気作りが容易であり、①理解度の確認、②質問の奨励、③発問や指示、④授業態度の注意、⑤双方向的やりとりなどが行ないやすい。当該授業においても概ね評価できるものであった。</p> <p>【他の授業を参観して】</p> <p>自分の板書の字の下手さと誤字の多さを反省する機会となった。</p>	<p>・本時間のテーマがはっきり示されていた。</p> <p>・学生がのびのびと発言していた。</p> <p>・双方向的授業が成立していた。</p> <p>・集中して学生が参加していた。</p> <p>・板書の仕方が上手だった。</p> <p>・雰囲気づくりが上手だった。</p> <p>・学生中心の授業だった。</p> <p>・聞き取りやすいが時に早口になった。</p>
	<p>参加教員</p> <p>山下浩子教授 山村涼子准教授 渡邊由恵講師</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

<p>○「モンテッソーリ教育法Ⅰ」総合評価 4.7</p> <p>「熱意をもって授業した」4.9 「愛情と尊敬の念をもって授業した」4.9</p> <p>○「モンテッソーリ教育法Ⅱ」総合評価 4.7</p> <p>「居眠り・私語・メールをしなかった」4.8 「熱意をもって授業した」4.7</p> <p>【課題】</p> <p>本年度の F D 宣言で「学生の積極的学修を促進する」とし、「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」の質問項目の平均評価を 4.6 以上にすることを目標としたが達成できなかった。</p> <p>「私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した」の項目は、「M 教育法Ⅰ」で 1.1、「M 教育法Ⅱ」で 1.4 である。学科平均を下回るのはこの 2 項目だけである。M 教育法Ⅰを M 教育法Ⅱが上回ったのはかろうじて評価できる。</p> <p>授業以外の学修時間の確保が必要である。学習意欲を喚起する工夫が求められる。</p>
--

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>学生の積極的学修を促進する。</p> <p>「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」の質問項目の平均評価を 4.4 以上にする。</p> <p>27 年度の平均評価が「M 教育法Ⅰ」で 4.3、「M 教育法Ⅱ」で 4.0 であることから到達目標を 4.4 に定めた。</p>	<p>授業以外の学修時間の確保が必要である。学習意欲を喚起する工夫が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問のしやすい雰囲気づくり。 ・授業以外の学修方法の説明。 ・M 園への就職の勧誘。 ・M 教具への興味の刺激。 ・関連書の紹介。

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
人間形成に最も大切なモンテッソーリ教育	平成 27 年 5 月 9 日	熊本信愛女学院幼稚園	同左
子どもを見る目	平成 27 年 6 月 9 日	ファミリーサポート久留米	くるるん
子どもを見る目・子どもの人権	平成 27 年 9 月 17 日	久留米市子ども未来部	くるるん
子どもを見る目・子どもの人権	平成 28 年 2 月 9 日	久留米市子ども未来部	くるるん

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米市学術研究都市づくり推進協議会 委員 高等教育コンソーシアム久留米 理事 九州地区私立短期大学協会 理事 福岡地区私立短期大学協会 理事 久留米市剣道連盟 監事 COC 外部評価委員	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	久留米市 コンソーシアム久留米 九短協 福期協 久留米市剣道連盟 和歌山信愛女子短期大学

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
教育学	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 9 月 31 日	八女筑後看護高等専門学校

その他特記事項

内容	年 月 日
○少年剣道指導 久留米市スポーツ少年団指導 久留米信愛女学院幼稚園指導	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日

平成 28 年度 社会的活動計画

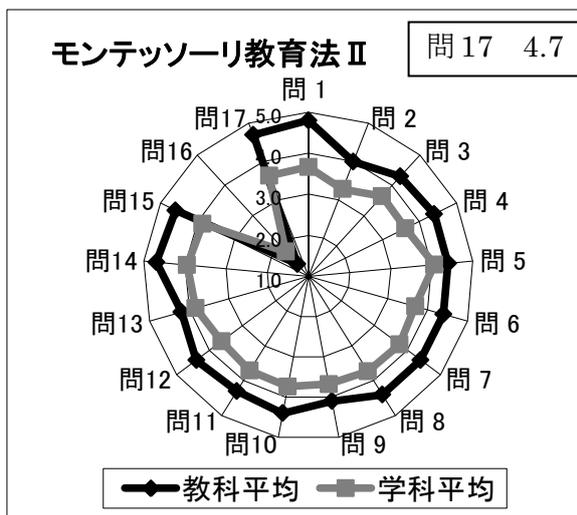
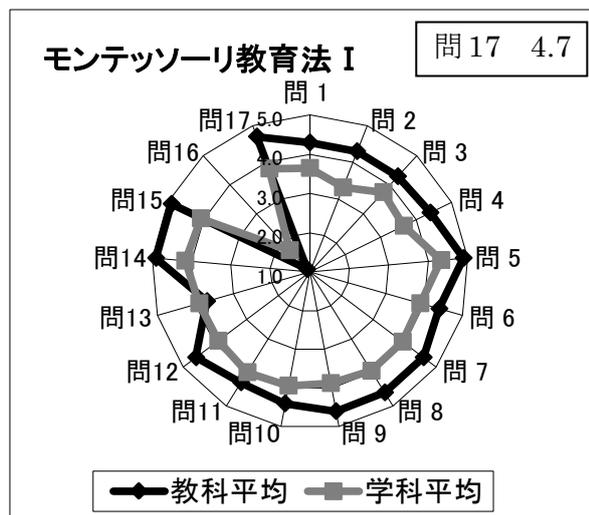
- 講演等
久留米市子ども未来部の依頼によるもの。3回程度
モンテッソーリ教育に関する現職研修会。2回程度
モンテッソーリ教育に関する保護者への講演。2回程度
- 他団体等への協力
久留米市学術研究都市づくり推進協議会 委員
高等教育コンソーシアム久留米 理事
九州地区私立短期大学協会 監事
久留米市剣道連盟 監事
和歌山信愛女子短期大学 COC 外部評価委員
- 他大学への非常勤
八女筑後看護高等専門学校
- 少年剣道指導
久留米市スポーツ少年団指導
久留米信愛女学院幼稚園指導

平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）



科目名	対象	必修・選択	教員コメント
モンテッソーリ教育法Ⅰ	幼教２年	選択必修	<p>実質的には選択科目ですし、時間割上も不便なところに置かれている科目を、わざわざ履修していただいている学生には感謝しています。</p> <p>授業アンケートによれば、授業時間以外の学修時間が確保されていないようです。授業以外の時間でも演習室は開放していますので、ぜひ申し出てください。</p>
モンテッソーリ教育法Ⅱ	幼教２年	選択必修	<p>モンテッソーリ園に就職を希望する方はぜひ履修してください。履修登録していない学生が、以降にモンテッソーリ園に就職が内定した場合等は、履修届を出してなくても授業に参加して結構です。</p> <p>モンテッソーリ園への就職を迷っている学生やモンテッソーリ園を探している学生は遠慮なく相談してください。</p> <p>モンテッソーリ園に就職が内定した学生は、授業時間以外での学修時間の確保の意味でも、就職準備のためにも、モンテッソーリ演習室を授業時間外でもご使用ください。</p>

所属学科	職名	氏名
ビジネス キャリア学科	教授	安保 康治
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
情報科学Ⅰ 情報科学Ⅱ マルチメディア演習 カラーコーディネーション 生活と環境 卒業研究セミナー	ビジネスキャリア学科 1年 ビジネスキャリア学科 1年 ビジネスキャリア学科 2年 ビジネスキャリア学科 2年 3学科合同 1年 ビジネスキャリア学科 2年	卒業必修・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択必修 卒業選択必修 卒業必修
研究分野		
<p>1. 生命科学の分野 「ノリ糸状体の DNA の解析」について、現在 12 年間継続して研究を行っている。</p> <p>2. 色彩学の分野 「カラーリーダーによるリンゴの品種別の色調」について、現在 3 年間継続して研究を行っている。</p> <p>3. 担当科目の内容充実とテキスト・プレゼン化 担当科目の内容の充実と学生の理解度を深めるための研究として、担当科目を暫時まとめてテキストの出版および新しい情報に改訂を加えること、また、理解難な部分について視聴を利用したプレゼンの作成等の研究を行っている。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 生命科学の分野

研究テーマ「ノリ糸状体の DNA の解析」の一部「アマノリ属の DNA 切片の解析」について、学会審査要求事項の追試験を行い、マリンバイオテクノロジー学会に再投稿し、受理された。

2. 色彩学の分野

「カラーリーダーによるリンゴの品種別の色調について（第 2 報）」を本学研究紀要第 38 号に掲載することができた。また、この一連の研究において作成した数種の統計ソフトを統合して開発したソフトを「C 言語による簡易統計処理ソフトの開発」として本学研究紀要第 39 号に投稿することができた。

3. 担当科目の内容充実とテキスト・プレゼン化

平成 24 年度に「情報科学 I・II」の内容充実のため、テキストの全面改定を行い『情報リテラシー』を出版した。その理解度向上のために授業で用いるプレゼンはハードウェアとネットワークの部分であったので、ソフトウェアの部分を追加作成し授業に供した。

平成 27 年度の研究の成果

(論文)

1. 「カラーリーダーによるリンゴの品種別の色調について（第 2 報）」共著 平成 27 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（41～46）

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「カラーリーダーによる板海苔の品質評価（第 4 報）」共著 平成 25 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』（17～20）
2. 「C 言語による相関分析のコンピュータプログラム開発（第 2 報）」単著 平成 25 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』（51～54）
3. 「カラーリーダーによるリンゴの品種別の色調について」共著 平成 26 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』（1～5）

本教員の主たる研究の成果（5 編以内）

1. Isozymes from Conchocelis of *Porphyra* Species "Fisheries Science" 61(2) 1995
2. Isozymes from Conchocelis and Leafy Thalli of *Porphyra* Species "Fisheries Science" 62(3) 1996
3. 『現代人のための生活と環境』（共著）平成 22 年 3 月 開成出版（29～69）
4. 『マルチメディアコンピューティング』（共著）平成 23 年 2 月 開成出版（1～111）
5. 『情報リテラシー』（単著）平成 25 年 3 月 開成出版（1～165）

所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
マリーンバイオテクノロジー学会 情報文化学会	なし なし
平成 28 年度 研究計画	
<p>1. 色彩学の分野</p> <p>『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 39 号』に投稿中の「C 言語による簡易統計処理ソフトの開発」の検討を行い、視覚的効果を追加し『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 40 号』に投稿する。</p>	

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言

自己評価

学生の理解度を向上させる。
 (「情報科学 I・II」で用いる作成プレゼンが現在 2 点であるが、これにソフトウェアの部分を追加作成し、授業で使用する。)

「情報科学 I・II」のテキストの補足プレゼン(ソフトウェアの部分)を追加作成し授業に供した。学生からは口頭ではあるが、プレゼンの授業は分かりやすかったと評価された。

公開授業とその評価

公開授業の科目名

学年・クラス

実施日時

情報科学 II

ビジネスキャリア学科 1 年

平成 28 年 1 月 21 日

自己評価

他者評価

「情報科学 I・II」は情報リテラシーの知識を学ぶ科目であり、国家試験の範囲にそってテキストを編纂している。その内容は 10 章より成り、9 章まではコンピュータに関することであるが、10 章は企業と経営であり、それは基礎知識に限定されている。また、本学科は現代経済論や簿記等のカリキュラムがあり、どの程度の内容で講義するか難しい。よって、会計と財務についてテキスト範囲で授業を行い、国家試験過去問を実施し、理解度を把握する試みを行った。

大多数の学生が過去問に正解したので、理解はできたと判断し、今後もこれにそって授業を行う。

1. 過去問を取り入れているので、わかりやすい授業であった。
2. 学生は、ほぼ理解できているように思われた。
3. 過去問を解く時間が学生により差があるので、時間設定等に工夫が必要と思われる。

参加教員

江越教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

情報リテラシーの講義科目である「情報科学 I・II」は、総合評価が昨年度 4.0、3.8 から今年度 3.7、3.4 とやや低下した。この科目は原理的な内容であるので、小テストの実施やプレゼンの視覚的授業を試み、学生の理解度の向上を目指してきたことで成績自体は毎年上昇してきたが、学生の興味の向上には至らなかった。(27 年度をもって廃止される科目)

パソコンの演習科目である「マルチメディア演習」は総合評価が昨年度 3.8 から今年度 4.1 と向上した。項目別でも 4.0~4.3 とバラつきは小さい。昨年度はカリキュラム改正で「マルチメディア演習 I・II」の 2 科目が「マルチメディア演習」の 1 科目に統合し内容をコンパクトにしたため、作品作りの簡便化とその時間短縮があったが、今年度は操作方法の確認と作品作りの時間のバランスを再調整したためと判断する。来年度は、その点をさらに向上させる。

「生活と環境」は、昨年度は履修者がなく不開講であったが、今年度はカリキュラム改正により、フードデザイン学科のみ 18 名で開講された。総合評価は 3.5 で、特に問 4「この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」が 3.2、問 9「板書の仕方や視聴覚機器の利用が効果的であった」が 3.3 と低かったことより、授業ガイダンスの充実による興味の向上およびプレゼンの導入を行う。

「カラーコーディネーション」は検定対策のコース選択必修科目であり、総合評価が昨年度 4.7 (履修者 3 名) から今年度 5.0 (履修者 1 名) と同程度に高い値であった。履修者が少ないため授業の雰囲気や学生に左右されていると推察される。今後は活発な議論ができる雰囲気を作ることでさらなる向上を目指す。

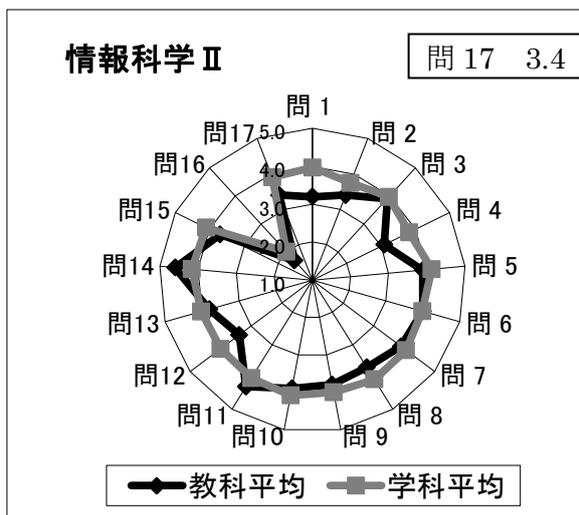
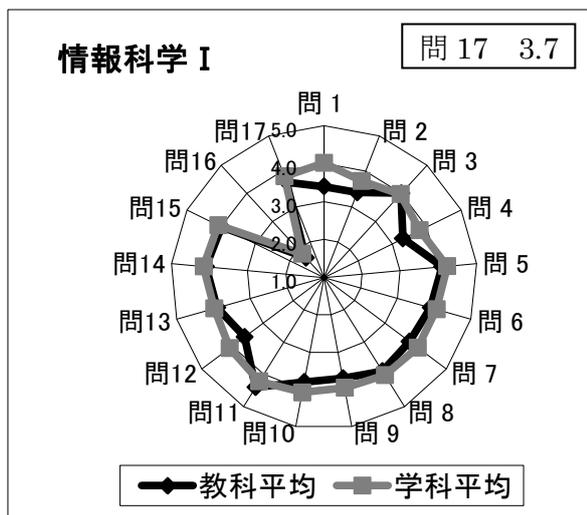
平成 28 年度 教育活動計画			
平成 28 年度の F D 宣言		平成 28 年度の教育力向上のための計画	
学生の理解度を向上させる。		新しくフードデザイン学科の「フードマネジメント」の 7 回で色彩について担当することとなった。学生の理解度を向上するため、また、教育力向上のためテキストの補足資料およびプレゼンの充実を図る。	
平成 27 年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
なし			
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
平成 27 年度第三者評価評価員の実施	平成 27 年 6 月～10 月	一般財団法人短期大学基準協会	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
なし			
その他特記事項			
内容		年 月 日	
コンソーシアム久留米高等教育連携部会委員 短期大学基準協会第三者評価評価員		平成 26 年 4 月より 平成 25 年 4 月より	
平成 28 年度 社会的活動計画			
コンソーシアム久留米高等教育連携部会委員 短期大学基準協会第三者評価委員会委員			

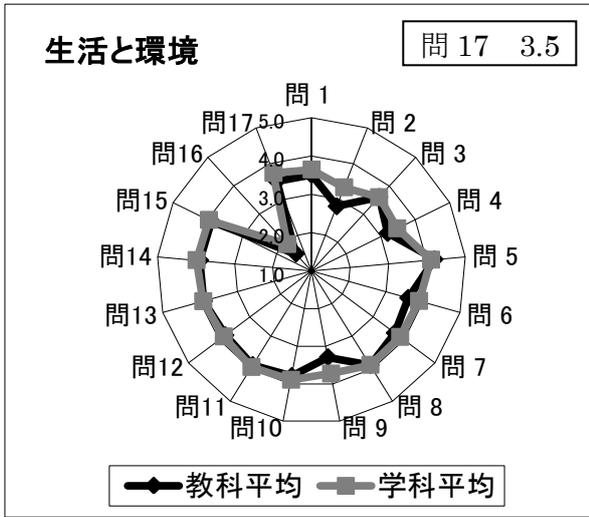
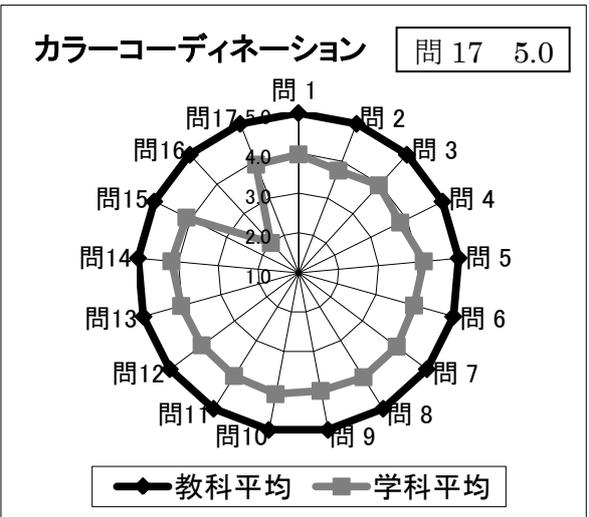
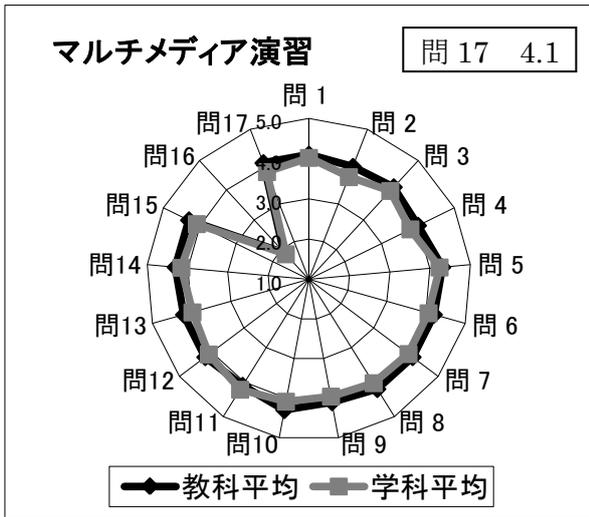
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
情報科学Ⅰ	ビジネスキャリア学科 1年前期	卒業必修 資格必修	原理的な内容であるのでオリジナル教科書やプレゼンを使い、また小テストを実施して理解度は徐々に向上してきたが、「さらに進んだ勉強をしたいと思う」は3.3程度を推移したのが残念であった。(27年度をもって廃止される科目)
情報科学Ⅱ	ビジネスキャリア学科 1年後期	卒業選択 資格必修	「情報科学Ⅱ」と同様、原理的な内容であるのでオリジナル教科書やプレゼンを使い、また小テストを実施して理解度は徐々に向上してきたが、「さらに進んだ勉強をしたいと思う」は3.1程度を推移したのが残念であった。(27年度をもって廃止される科目)
マルチメディア演習	ビジネスキャリア学科 2年前期	コース選択必修 資格必修	総合評価が4.1、項目別も4.0～4.3とバラつきは小さかったことを受け、授業内容はほぼ習得できたと理解した。この技術を今後の仕事の場で活かしてほしい。

カラーコーディネーション	ビジネスキャリア学科 2年後期	コース選択必修	総合評価および全項目とも 5.0 であったことを受け、授業内容は十分理解できたと考える。「色彩検定」を受験し、合格を期待している。
生活と環境	フードデザイン学科 1年前期	卒業選択必修	「この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」が 3.2、「板書の仕方や視聴覚機器の利用が効果的であった」が 3.3 と低かったことを受け、授業ガイダンスの充実による興味の向上およびプレゼンの導入を行う。

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	教授	阿久根 政子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
英語 Ⅰ・Ⅱ 英語 Ⅲ・Ⅳ キリスト教と人間 信愛教育Ⅲ・Ⅳ 幼児問題研究セミナー	幼児教育学科 1年 幼教・フード・ビジ 2年 ビジネス 2年 全学科・全学年全クラス 幼児教育学科 2年	卒選必・免許・資格選必修 卒選必・免許・資格選必修 選択 卒業必修 選択
研究分野		
<p>1. イギリス文学の分野 イギリス文学に現れたキリスト教的要素及び聖書的イメージに関する研究を行い、作品における作者の宗教性についての研究を行う。</p> <p>2. カトリック教育の分野 カトリック学校の立場からカトリック教育はいかにあるべきか、大学における教育者のあるべき姿を模索研究。</p> <p>3. 絵本・民話と宗教（特にキリスト教）の分野 絵本や民話の中に描かれた宗教性の研究及び子どもの宗教教育の研究。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

チャールズ・ディケンズの作品における聖書の役割 (継続)

平成 27 年度の研究の成果

なし

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「カトリック保育研究Ⅳ—本学における保育者養成の課題—」 共著 平成 25 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学紀要第 36 号』(1-16)
2. 「『信愛教育Ⅰ～Ⅳ』アンケート調査の分析に基づく考察」 共著(筆頭) 平成 26 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学紀要第 37 号』(7-16)

(研究ノート)

1. 「建学の精神の具現化に向けての「信愛教育Ⅰ～Ⅳ」の取り組み」共著 平成 25 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学紀要第 36 号』(83-92)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 『ニューマンの思想と活動』L.F. バーマン著 単独翻訳 中央出版社 平成 6 年 4 月
2. 「『The Selfish Giant』における聖書的イメージ」
単著 『キリスト教文学 4 号』昭和 59 年 6 月
3. 「『獄中記』におけるワイルドのキリスト像」
単著 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 33 号』平成 22 年 9 月
4. 「ワイルドと聖書 — 『獄中記』におけるワイルドの福音書注解」
単著 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 34 号』平成 23 年 9 月
5. 「『信愛教育Ⅰ～Ⅳ』アンケート調査の分析に基づく考察」
共著(筆頭) 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 37 号』平成 26 年 7 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
大学英語教育学会	全国大会参加
日本カトリック教育学会	全国大会参加
日本キリスト教文学会	全国大会参加

平成 28 年度 研究計画

1. Charles Dickens 作品研究
『The Life of Our Lord』について
2. 絵本と宗教教育 — 外国(英米)の絵本と日本の絵本の比較を通して、その宗教性をさぐる。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 常に、学生のレベルに合わせた授業を行う</p> <p>【成果の指標】 アンケート項目問⑧「話し方は明瞭で、聞き取りやすい」を意識した授業を行う。</p>	<p>【目標】「学生のレベル」に合わせた授業を行うことは、非常に難しく至難の業であった。「英語」という科目は入学の時点で個人差が大きく、「学生のレベル」の焦点をどこに置くべきか、毎年、頭の痛い問題である。しかし、難しいからこそ、「学生のレベル」に合わせて授業を行うことが必要であろう。28年度も続行すべき目標である。</p> <p>【成果の指標】アンケート項目問⑧「話し方は明瞭で、聞き取りやすい」を意識した授業を行うでは、「2.4」という低い評価が、後期には「3.1」と「+0.7」となり、クラス全体の成績も大きく向上した。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
英語 II	幼児教育学科 1年 Aクラス	平成 27 年 1 月 30 日 (月) 4 限目

自己評価	他者評価
<p>平常通りの授業を行い、参観された先生方の評価を素直に受け止め、今後に生かしていきたい。</p> <p>「話し方は明瞭で、聞き取りやすい」を意識した授業を行う点では、「分かりやすい、明瞭、聞き取りやすい」等の先生方の評価に現れ、努力の成果が少しずつ実ってきている。さらなる努力を重ねたい。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 丁寧に板書され、分かりやすく説明されていた。 2. 英語も日本語も後方まで明瞭に聞こえていた。 3. 板書により、理解への補足に役立っていた。 4. 質問の投げかけによって、双方向の授業が成り立っていた。 5. 「英語の発音・音読等の機会を作る」とよいとのアドバイスがあった。
	参加教員
	多田内幸子教授・重永茂准教授・生地暢講師

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

「英語Ⅰ」（前期）の総合評価は（3.6）であったが、「英語Ⅱ」（後期）では（3.3）と（-0.3）下がった。他方、「英語Ⅰ」（前期）の総合評価が（2.4）のクラスでは、「英語Ⅱ」（後期）で（3.0）と（+0.6）上がった。このクラスは小テスト毎に成績も向上し、「予習・復習」の時間数も60分以上の学生が1/3となり、「予習・復習」の時間数と正比例している。

「英語Ⅲ」（前期）の総合評価は（4.5）で、「英語Ⅳ」（後期）の総合評価は（4.6）と（+0.1）上向きであった。

全体的に、「英語Ⅰ・Ⅱ」は、総合評価は低いが、「英語Ⅲ・Ⅳ」は選択科目であり、編入を目的としている学生と英語が得意な学生に絞られているために総合評価もかなり良い。

28年度は「英語Ⅰ・Ⅱ」の授業の速度を下げ、学生たちの理解度を確認しながら、授業を進めるように改善したい。

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】 常に、学生のレベルに合わせた授業を行う</p> <p>【成果の指標】 アンケート項目問⑧「話し方は明瞭で、聞き取りやすい」を意識した授業を行い、ゆっくりと話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の理解度を確認しながら授業を行う。 ・ 板書して、繰り返し、説明をする。 ・ 話し方を明瞭にするために、分かりやすい、やさしい言葉を用い、ゆっくり話すように心がける。

平成 27 年度 社会的活動報告

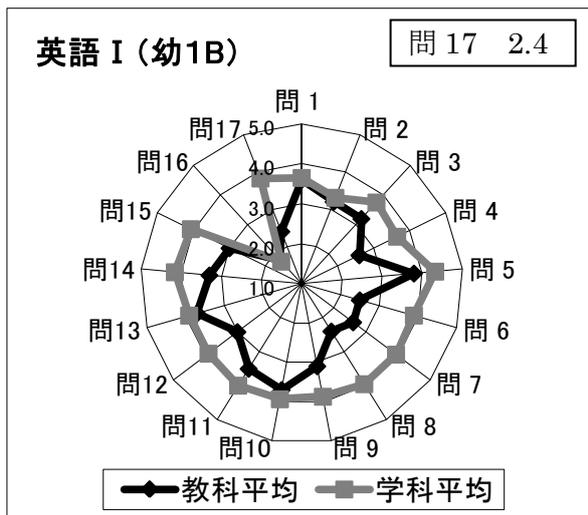
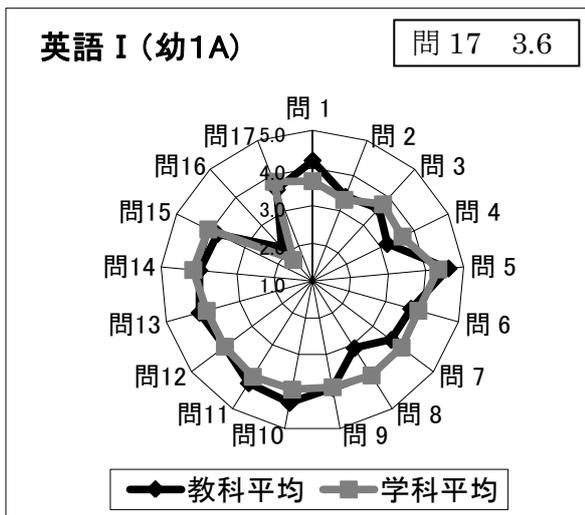
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
その他特記事項			
内容		年 月 日	
平成 28 年度 社会的活動計画			

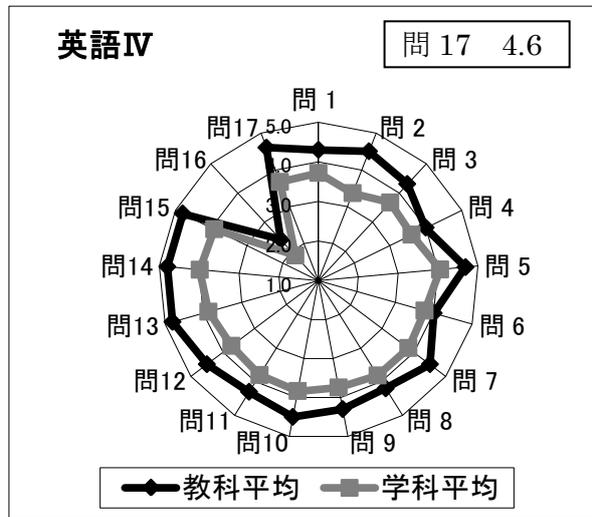
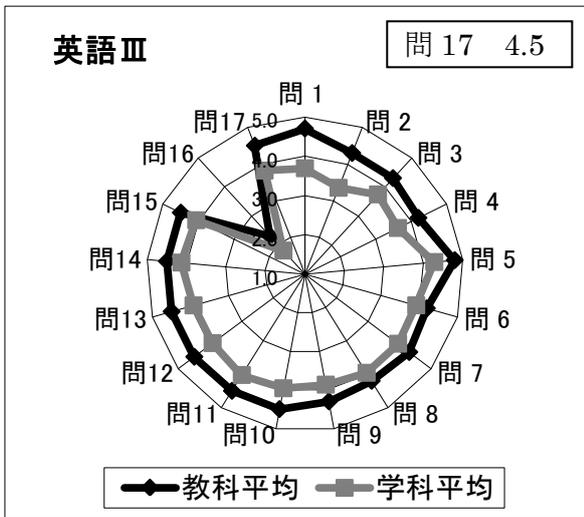
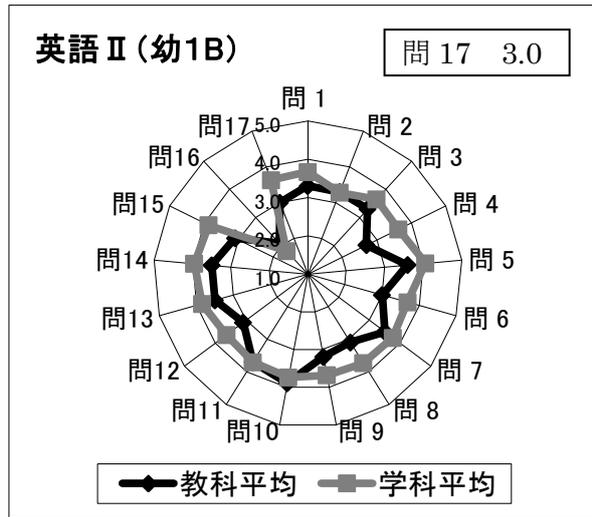
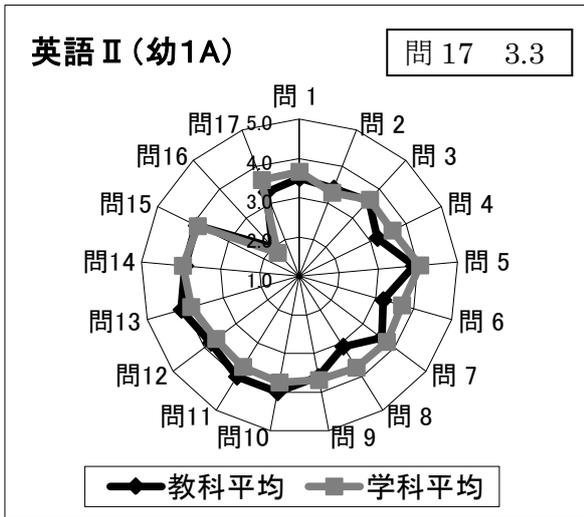
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
英語Ⅰ	幼教1年	卒選必 免許・資格 選必	英語が苦手な学生にも「分かりやすい説明」をとの要望に応じて、特に「英語Ⅰ」では、授業をなるべくゆっくりと進めるようにしたい。分からないときは質問してください。
英語Ⅱ	幼教1年	卒選必 免許・資格 選必	(4.3)の数値の結果を見て、「復習プリント」の利用が効果的であったことを示している。このプリントの復習時間数と成績向上は結果的に正比例していました。頑張ってください。
英語Ⅲ	幼教2 フード2	卒選必 免許・資格 選必	「話し方」「説明の仕方」の数値(4.2)という結果を受けて、他の項目の数値(4.5)と同じくらいになるように工夫したい。復習・予習時間も作りましょう。
英語Ⅳ	幼教2 フード2	卒選必 免許・資格 選必	「説明の仕方」の数値(4.0)という結果を受け、分かりやすい説明を行い、学生の理解を確認しながら授業を進めていきたい。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	江越 和夫
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
食品学総論	フード1年	卒業必修・免許必修
食品学各論	〃	卒業選択・免許必修
食品学実験	〃	卒業選択・免許必修
食品衛生学	〃	卒業必修・免許必修
食品衛生学実験	〃	卒業選択・免許必修
栄養士基礎演習（3回担当）	〃	卒業必修
食品加工学実習	フード2年	卒業選択・免許必修
栄養士総合演習Ⅰ（6回担当）	〃	卒業選択
医療秘書実務実習（学外実習）	〃	卒業選択・資格必修
卒業セミナー	〃	卒業選択
研究分野		
<p>1. 食品衛生学分野</p> <p>変異原性物質は、高タンパク質食品を加熱すると発生し（焼肉・焼き魚）、健康な人の血液から検出される。本物質による危害の軽減を目指して、「抗変異原性を有する食品の検索」、「食物繊維や乳酸菌による変異原性物質の吸着」に関する研究を行っている。</p> <p>さらに、「身体の黄色ブドウ球菌分布」及び「ジャガイモのクロロフィル含量とソラニン・チャコンニン量との関連性」を調べている。</p> <p>2. 食品学分野</p> <p>「食と健康」の観点から、各種食品中の機能性成分（メラトニン、EPA、DHA、ポリアミン等）を分析している。</p> <p>3. 食品加工学分野</p> <p>「衛生的な乳加工品」の製法を確立するべく検討している。</p> <p>4. 栄養士養成研究</p> <p>基礎学力の向上および栄養士としての意識の高揚を目指して、フードデザイン学科全教員でFD活動を行っている。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 食品衛生学分野

フードデザイン学科 1 年生 3 4 名を対象に黄色ブドウ球菌検査を行った。検出率は 31% で昨年 (17%) よりも高かった。黄色ブドウ球菌検査については、過去の結果をまとめ研究紀要 (第 39 号) に投稿した。

2. 食品学分野

平成 27 年度の研究計画は、①穀類メラトニン量の測定、②EPA,DHA 及びポリアミン定量方法の確立であった。

① コメのメラトニン定量法(2012 年日本食品科学工学会誌に投稿)を利用し、ソバのメラトニン量を分析した。妨害成分が多く、正確なメラトニン量は測定できなかった。抽出方法の検討が必要と考えられた。

② 検討しなかった。

③ 研究計画には挙げなかったが、「蛍光標識した納豆アミノ酸の分析法」について検討した。

3. 食品加工学分野

平成 27 年度福岡県製品開発プロジェクト研究会事業「ココナッツの有効成分を利用した健康食品の開発」研究会に係る「菓子(キャラメル、ケーキ)のレシピ開発」を行った。

4. 栄養士養成の分野

フードデザイン学科全教員で共同研究を行っている。本年度は、「学生の生活実態と学習成果との関連性」について検証を試みた(研究紀要第 38 号)。

5. その他

平成 26 年度作成の教材(食品学実験、食品衛生学実験、食品加工学実習:計 78 頁)を授業で使用し、不都合な箇所等を修正した。

平成 27 年度の研究の成果

(論文)

1. 「高速液体クロマトグラフィーによる果実中メラトニンの定量分析(共著)」平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 38 号(1~6)
2. 「栄養士養成研究(3)生活実態が学習支援効果に及ぼす影響(共著)」平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 38 号(25~33)

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「大腸菌群陰性の自家製アイスクリームに関する食品加工研究(共著)」平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 36 号(21~26)
2. 「米のメラトニン含量(共著)」平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 37 号(17~22)
3. 「栄養士養成研究(2)学習支援に対する効果(共著)」平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 37 号(41~47)

(その他)

1. 「栄養士養成研究(1)栄養士としての資質向上に向けての取り組み(共著)」平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要』 第 36 号(103~107)

本教員の主たる研究の成果(5 編以内)

1. 「Adsorption of Heterocyclic Amines by Low Molecular Weight Cellulose(共著)」『食品衛生学雑誌』, 1997 年 12 月
2. 「ラット排泄物中での Trp-P1 及びその代謝物の挙動(共著)」『食品衛生学雑誌』, 2001 年 7 月
3. 「HPLC による生乳中メラトニンの定量(共著)」『日本食品科学工学会誌』, 2007 年 3 月
4. 「ラットにおける Trp-P1 の代謝排泄に及ぼすゴボウとキャベツ粉末の影響(共著)」『日本食品科学

工学会誌』, 2009年4月

5. 「高速液体クロマトグラフを用いた米飯中メラトニンの定量法 (共著)」『日本食品科学工学会誌』, 2012年3月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
1. 日本食品衛生学会	不参加
2. 日本食品科学工学会	不参加

平成 28 年度 研究計画

1. 「女子短期大学生における黄色ブドウ球菌の分布」について紀要に投稿する。
2. FD 活動として、学科で共同研究している「栄養士養成研究」について紀要に投稿する。
3. 「ココナッツオイル抽出残渣の有効利用」に関する産学官共同研究を継続する。
4. 「アイスクリームの気泡の大きさと滑らかさ」について検討する。
5. 薄層クロマトグラフィーによる EPA, DHA 分析方法を検討する。
6. ジャガイモのソラニン量とクロロフィル量との相関について調べる。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価												
<p>目標：学生の理解を確認しながら授業をすすめる。</p> <p>指標：問 3 = 授業内容を理解できた、問 1 6 = 総合評価</p>	<p>栄養士必修の講義 3 科目では、授業の最初に前回からの流れを、最後に重要事項を説明し、学生からの質問にはかなり対応した。学生の理解度を確認するために、学んだ内容について、○×式の質問を行った。学生は、質問に答えてくれるが、全員正解とはならず、理解できていない者もみられた。以下に、講義 3 科目の平成 26、27 年度の授業評価 (H26 → H27) を示した。3 科目全て、問 3、問 16 の評価が前年度よりも低くなった。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">食品学総論</th> <th style="text-align: center;">食品衛生学</th> <th style="text-align: center;">食品学各論</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問 3 (授業内容理解)</td> <td style="text-align: center;">3.6 → 3.5</td> <td style="text-align: center;">3.7 → 3.3</td> <td style="text-align: center;">3.7 → 3.4</td> </tr> <tr> <td>問 1 6 (総合評価)</td> <td style="text-align: center;">4.1 → 3.7</td> <td style="text-align: center;">4.2 → 3.5</td> <td style="text-align: center;">4.0 → 3.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記 3 科目は記憶する内容が多く、学習意欲を高く維持することが必要である。「学習意欲が低くなると授業に興味を持てず、内容を理解できないので居眠りするか私語をする」といった者もみられた。「学習意欲をいかに維持させるか」を検討することが必要である。</p>		食品学総論	食品衛生学	食品学各論	問 3 (授業内容理解)	3.6 → 3.5	3.7 → 3.3	3.7 → 3.4	問 1 6 (総合評価)	4.1 → 3.7	4.2 → 3.5	4.0 → 3.5
	食品学総論	食品衛生学	食品学各論										
問 3 (授業内容理解)	3.6 → 3.5	3.7 → 3.3	3.7 → 3.4										
問 1 6 (総合評価)	4.1 → 3.7	4.2 → 3.5	4.0 → 3.5										

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
食品学実験	フードデザイン学科 1 年	5 月 22 日

自己評価	他者評価
<p>本授業は、同時期に開講している講義科目「食品学総論」で学んだことを自ら実験でデータを出して確認し、内容を理解させることを一つのねらいとしている。最初に、「班全員で打ち合わせして、実験を分担するように」と指導している。理解せずに実験すると失敗するので班の中で実験する者が限定される。当該授業では、説明中に居眠りする学生がみられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の質問に対応していた。 ・居眠りする学生が見受けられた。 ・関心度の低い学生は関与に消極的であった。 ・模範実験は、学生の集中度・関心度が高まる。 ・話し方は、明瞭で聞き取りやすかった。
	参加教員
	<p>山下浩子教授、檜山フミエ教授、生地暢講師</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

担当 6 科目 (輪講の 2 科目を除く) の平成 26 年度の総合評価の平均は 4.1 で、平成 27 年度の目標は「6 科目の評価が 4 以上を維持する」であった。しかし、平成 27 年度の担当 6 科目の総合評価の平均は 3.7 に下がった。また、平成 26 から 27 年度にかけて、問 1 4 (熱意) 評価の 6 科目平均は 4.2 から 4.0 へ、問 1 5 (愛情) の評価平均は、4.1 から 3.9 へと低下した。

次年度は、問 1 4 及び問 1 5 の評価を上げるように検討する。

	総合評価 (平成 26 年度)	平成 27 年度)
食品学総論	4.1	3.7
食品学各論	4.0	3.5
食品衛生学	4.2	3.5
食品学実験	4.1	3.5
食品衛生学実験	4.1	3.7
食品加工学実習	4.3	4.0
平均	4.1	3.7

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p><目標> 授業に対する熱意、学生に対する愛情を持って（初心に帰って）授業に臨む。</p> <p><成果の指標> 問 1 4（熱意）及び問 1 5（愛情）の評価を指標とする。</p>	<p>昨年同様、以下の 6 項目を実施する。</p> <p>① 授業の最後 5 分間ほど、重要事項を確認する。 ② 実験・実習レポートはコメントや評点を記入し、速やかに返却する。 ③ 重要事項は、管理栄養士国家試験問題等で解説する。 ④ 授業中に、質問の時間（5 分程度）を設定する。 ⑤ 視覚的な授業を行う。 ⑥ 学会誌等から得た新知見を紹介する。</p>

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
平成 27 年度福岡県製品開発プロジェクト研究会事業	平成 27 年 10 月～28 年 3 月	福岡県	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
その他特記事項			
内容		年 月 日	
コンソーシアム久留米広報交流部会委員		平成 27 年 4 月～28 年 3 月	
平成 28 年度 社会的活動計画			

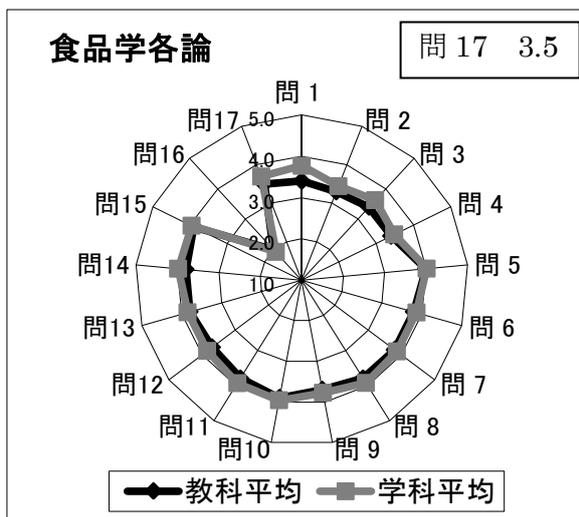
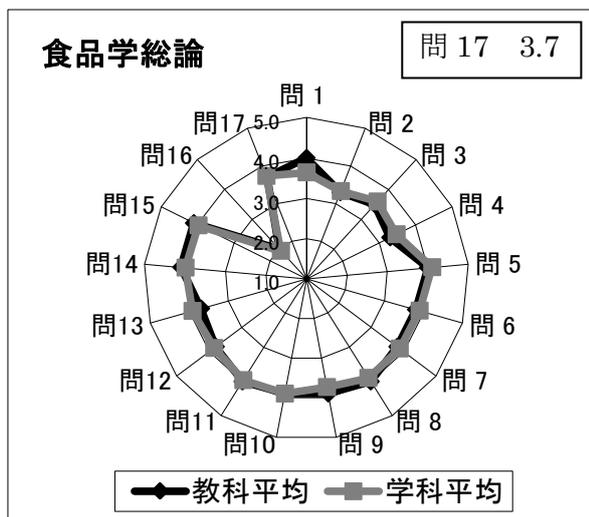
- ・平成 28 年度福岡県製品開発プロジェクト研究会事業
- ・コンソーシアム久留米広報交流部会委員

平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

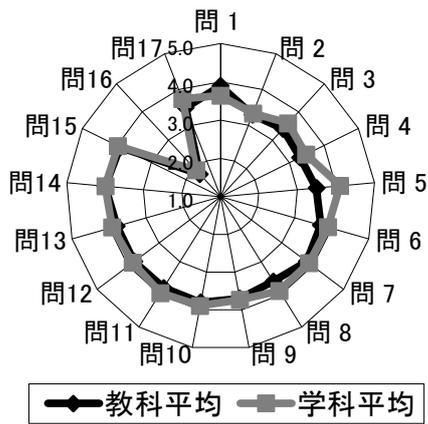
- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）



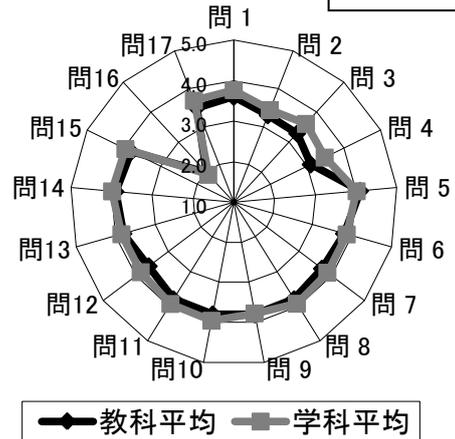
食品学実験

問 17 3.5



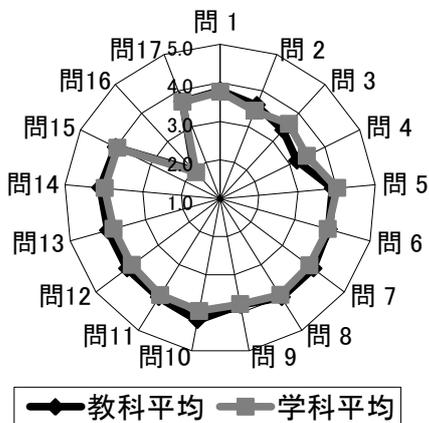
食品衛生学

問 17 3.5



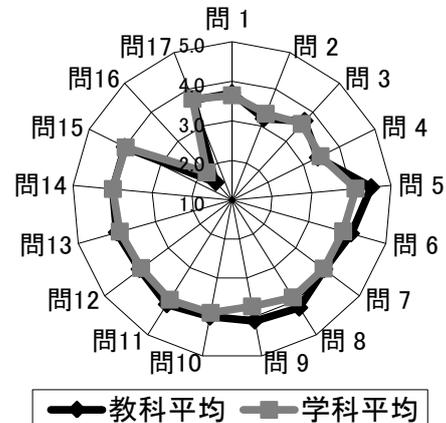
食品衛生学実験

問 17 3.7



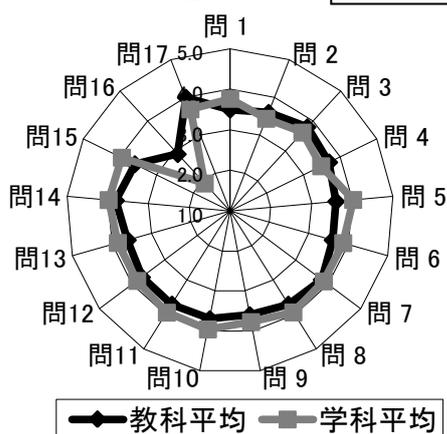
栄養士基礎演習

問 17 3.7



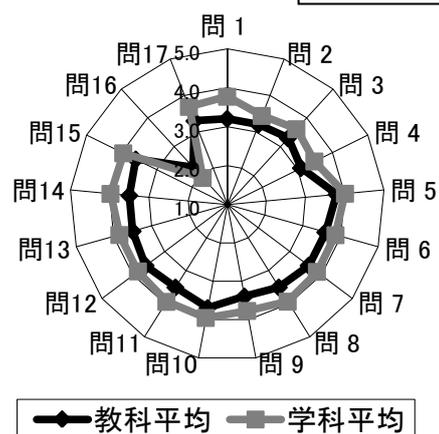
食品加工学実習

問 17 4.0



栄養士総合演習 I・II

問 17 3.3



科目名	対象	必修・選択	教員コメント
食品学総論	フードデザイン学科1年	卒業必修・免許必修	問2（質問）の評価3.3を受け、授業中に質問しやすい雰囲気作り（授業中に質問時間を設定等）を検討する。不明な点をそのままにしておく、学習意欲が低下するので積極的に質問してほしい。
食品学実験	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修	問3（理解）の評価3.4より、理解せずに実験すると「レポートの結果や考察」が書けないので配布資料をよく読んで取りかかることが重要である。食品学総論と関連付けると理解が深まる。
食品学各論	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修	問4（さらに）の評価3.4を受けて、授業への興味を持たせるようなテーマ（注目されている食品の機能性成分等）と関連付けながら講義をすすめていきたい。
食品衛生学	フードデザイン学科1年	卒業必修・免許必修	問4（さらに）の評価が3.1と低い。本科目で学んだ内容は、同時期に開講している食品衛生学実験で確認することにより、理解が深まり興味が出てくると思われる
食品衛生学実験	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修	問4（さらに）の評価が3.2と低い。授業内容を理解できず、学ぶ意欲が低下している学生が見受けられる。いかに、興味を持たせるか検討したい。
食品加工学実習	フードデザイン学科2年	卒業選択・免許必修	問15（愛情）の評価3.6を受け、今後は熱意と愛情を持って授業を行うつもりである。実習レポートを書くときは、食品学総論・各論を復習すると理解が深まると思われる。
栄養士基礎演習	フードデザイン学科1年	卒業必修	問3（理解）の評価3.7を受け、授業のねらいが7割程の学生に伝わっていたと思われる。学んだことを食品学実験でいかしていくことを期待したい。
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ	フードデザイン学科2年	卒業選択	問16（予習・復習）の評価が2.3と低い。今年度は、「学生各自に問題を与え、勉強させ、次の授業で発表させる」方式を検討する。

所属学科	職名	氏名
ビジネス キャリア	教授	岡部 千鶴
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
対人関係論 現代社会論 ジェンダー論（不開講） ライフデザイン論 卒業研究セミナー 家庭支援論 在宅保育論	ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年	卒業選択、資格必修 卒業必修、資格必修 卒業選択必修 卒業選択必修 卒業必修 卒業選択、資格必修 卒業選択、資格必修
研究分野		
<p>1. 家族関係学の分野</p> <p>(1) 困難を抱える女性に対する支援及び政策に関する研究</p> <p>①「ひとり親家庭」への支援に関する研究</p> <p>②ドメスティックバイオレンスの防止に関する研究</p> <p>(2) 子育て支援全般に関して、「家庭支援」という視点から研究を行い、保育士および幼稚園教諭の養成に資する。</p> <p>2. 生活学研究の分野</p> <p>現代社会論、ライフデザイン論の内容充実のため、「よりよく生きるとは」という観点から生活のあり方についての研究を行っている。</p> <p>3. 地域参画活動推進に関する分野</p> <p>学生による地域参画を活動推進するための有効な手法について、産・官・学連携の立場から実践的な活動と研究を行っている。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 家族関係学に関する研究

ドメスティックバイオレンスに関する資料収集及び研究を行い「家庭支援論」の講義において反映。

2. 生活の質向上に関する研究

生活の質向上に関する資料の収集等を行い、「現代社会論」「ライフデザイン論」の講義において反映。

3. 地域参画活動推進に関する研究

学生との共同による産学官連携地域イベントを行い、その効果について研究を継続している。

平成 27 年度の研究の成果

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「産学官連携地域イベントにおける誘客方策に関する一考察」 共著 平成 26 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』(49-57)

(報告)

1. 「実践型授業展開の成果と課題」 共著 平成 25 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』(93-101)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 『ライフデザインのすすめ』(共著) 平成 5 年 4 月 ダイヤモンド社
2. 『図説 家族問題の現在』(共著) 平成 7 年 6 月
3. 『生活文化の世界ー人生の四季に寄せてー』(共著) 平成 9 年 9 月 酒井書店育英堂
4. 『祖母・母たちの子ども時代ー庶民生活史の一つの試みー』(共著) 平成 11 年 9 月
クレス出版
5. 『21 世紀の生活経営～自分らしく生きる』(共著) 平成 19 年 4 月 同文書院

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本家政学会	第 67 回全国大会参加。本部理事
日本家政学会家族関係学部会	支部セミナー参加
日本家政学会九州支部	支部研究大会参加。九州支部長及び福岡 1 区常任幹事
生活社会科学研究会	研究会不参加

平成 28 年度 研究計画

1. 家族関係学に関する研究

(1) 困難を抱える女性に対する支援及び政策に関する研究

- ① 「ひとり親家庭」への支援に関する研究
② ドメスティックバイオレンスの防止に関する研究

(2) 困難を抱える家族に対する「家庭支援」という視点からの研究

- ① 子どもの最善の利益という視点からの研究

2. 地域参画活動推進に関する研究

学生の地域参画活動推進のための有効な手法について、産・官・学連携という観点から実践的な活動を行い、その効果についての検証をする。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 学生の理解度を確かめながら双方向の講義を行う。</p> <p>【成果の指標】授業評価アンケートの「問 2：わからないときは質問した」「問 3：理解することができた」「問 4：さらに進んだ勉強をしたい」の項目に関して、その評価を向上させる。</p>	<p>講義の際提示するパワーポイントの画面を各回 8 枚以内とした。提示する文章も箇条書きとし、ゆっくり説明することを心がけた。学生の理解力に配慮し、なるべく平易な言葉で説明した。一方的な講義スタイルに陥りがちなので、ビデオ視聴後等に質問や感想を書いてもらい、次回の授業の始めに、寄せられた質問や感想に対するコメントを述べ、授業が双方向性であることを学生に伝えた。これらの取組に対する学生からの評価は以下である。</p> <p>現代社会論 「問.2」平成 26 年度 3.2 平成 27 年度 3.4 「問.3」平成 26 年度 3.6 平成 27 年度 3.8 「問.4」平成 26 年度 3.6 平成 27 年度 3.8 「問 17 総合評価」平成 26 年度 4.6 平成 26 年度 3.8</p> <p>家庭支援論 「問.2」平成 26 年度 3.0 平成 27 年度 2.8 「問.3」平成 26 年度 3.6 平成 27 年度 3.2 「問.4」平成 26 年度 3.6 平成 27 年度 3.2 「問 17 総合評価」平成 26 年度 3.8 平成 27 年度 3.3</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
在宅保育論	幼児教育学科 2 年	平成 27 年 10 月 27 日 (火)

自己評価	他者評価
<p>ベビーシッター資格の必修選択科目であるためか、学生の受講態度は真面目であり、授業はスムーズに進行した。質問等が出ないのは残念である。発言を引き出すための工夫が必要であると痛感している。</p>	<p>前科の授業から今回の授業のつながりの説明が丁寧。ビデオ視聴後の感想文提出がよかった。配布資料が久留米地域のもので参考になった。話し方が聞き取りやすい</p> <p>参加教員 山村涼子准教授 大塚史典講師 西田明紀講師</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

総合評価は「対人関係論」(4.0→前年比 0.4 ポイント低下)、「現代社会論」(3.8→前年比 0.8 ポイント低下)、「ライフデザイン論 (旧：生活文化論)」(5.0→前年比 0.2 ポイント上昇)、「家庭支援論」(3.3→前年比 0.5 ポイント低下)、「在宅保育論」(3.7→前年比 1.1 ポイント低下)であった。全体的に評価は低下し、特に「在宅保育論」の評価は低下が著しい。この科目は輪講制なので、至急、他の担当者との協議を行い後期の開講までに改善策を検討したい。

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】 学生の理解度を確かめながら双方向の講義を行う。</p> <p>【成果の指標】授業評価アンケートの「問 2：わからないときは質問した」「問 3：理解することができた」「問 4：さらに進んだ勉強をしたい」「問 17：総合評価」の項目に関して、その評価を向上させる。</p>	<p>①質問を引き出す、あるいは理解度を確認するための手段としてコメントカードを活用する。</p> <p>②授業の開始時に講義内容の概略を伝え、終了時に重要な箇所のまとめと確認を行なう。</p> <p>③見やすさと書き取りやすさに配慮したパワーポイント画面を作成する。</p>

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
「キャリア形成を考える」	平成 27 年 6 月 1 日	久留米東ロータリークラブ	ホテル ニュープラザ
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
<ul style="list-style-type: none"> ・久留米市教育委員（特別職非常勤職員） ・久留米市伝統的町並み保存審議会委員 ・久留米市都市計画審議会委員 ・久留米広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会副座長 ・久留米市住生活基本計画検討委員会委員 ・久留米市中心市街地活性化協議会 ・高等教育コンソーシアム久留米 運営委員及び地域支援部会委員 	<p>27 年 4 月 1 日～ 28 年 3 月 31 日</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>同上</p>	<p>久留米市</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>久留米商工会議所</p> <p>コンソーシアム久留米</p>	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
<p>「消費科学」</p> <p>「ジェンダー論」</p> <p>「生活経営学」</p> <p>「消費生活論」</p> <p>「文化と生活」</p>	<p>27 年 4 月 1 日～9 月 30 日</p> <p>同上</p> <p>27 年 10 月 1 日～3 月 31 日</p> <p>同上</p> <p>同上</p>	<p>九州女子大学</p> <p>帝京大学福岡キャンパス</p> <p>九州女子大学</p> <p>同上</p> <p>八女筑後看護専門学校</p>	

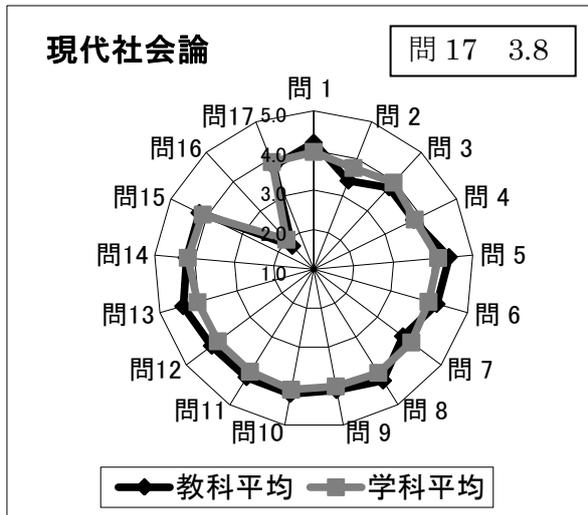
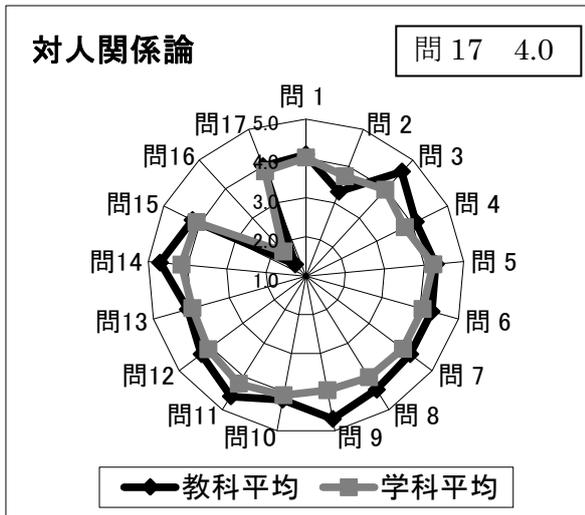
その他特記事項	
内容	年 月 日
日本家政学会本部理事及び九州支部長	27年4月1日～28年3月31日
平成28年度 社会的活動計画	
<p>(他団体等への協力)</p> <p>「久留米市教育委員（特別職非常勤職員）」</p> <p>「久留米市伝統的町並み保存審議会委員」</p> <p>「久留米市都市計画審議会委員」</p> <p>「久留米市中心市街地活性化推進協議会委員」</p> <p>「高等教育コンソーシアム久留米 運営委員及び地域支援部会委員」</p> <p>「久留米学術研究都市づくり推進協議会幹事」「久留米市住生活基本計画検討委員会委員」</p> <p>「久留米市一番街多目的ギャラリー指定管理者候補者選定委員会委員」</p> <p>(他大学への非常勤)</p> <p>帝京大学福岡キャンパス医療技術学部「ジェンダー論」</p> <p>九州女子大学「消費科学」</p> <p>八女筑後看護専門学校「文化と生活」</p> <p>(その他特記事項)</p> <p>日本家政学会本部理事</p> <p>日本家政学会九州支部長及び福岡1区常任幹事</p> <p>福岡市長村教育委員会女性教育委員研修会役員</p>	

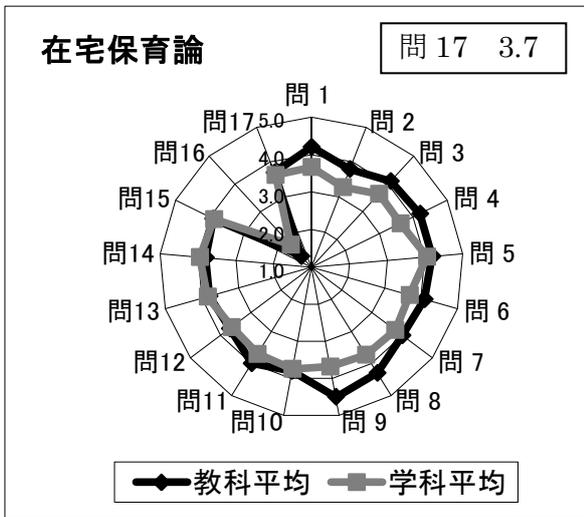
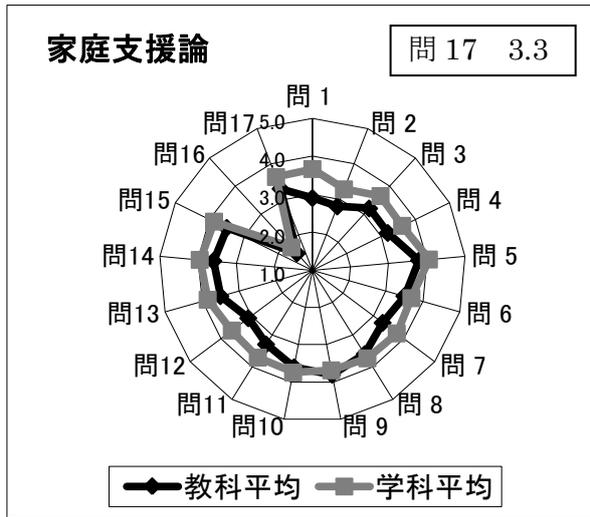
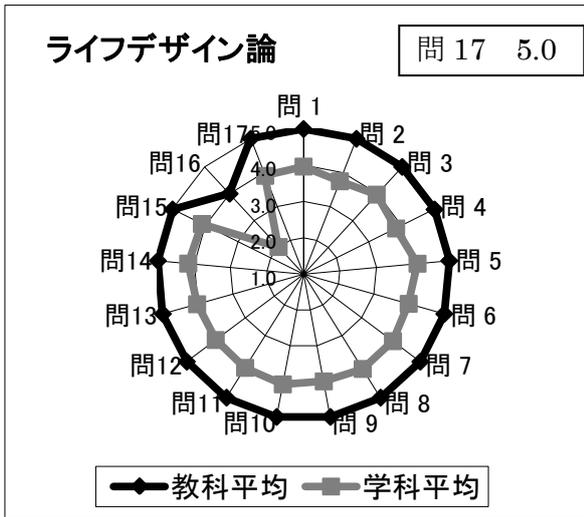
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
対人関係論	ビジネスキャリア 学科1年生	卒業選択 資格必修	授業評価において、総合評価は4.0だが、「問3. 理解することができた」(4.6)、「問14. 先生は熱意を持っていた」(4.7)と高評価であったことはうれしく思う。
現代社会論	ビジネスキャリア 学科1年生	卒業必修 資格必修	総合評価は3.8. 上記の対人関係論と履修者が同じであるが、この科目の評価は全体的に低い。座学が中心で一方通行型の授業であったことを反省している。グループワークなどの手法を取り入れたい。
ライフデザイン論	ビジネスキャリア 学科1年生	コース 選択必修	非常に高い評価であるが、これは受講生が1名だったからと思われる。
家庭支援論	幼児教育 学科2年生	卒業選択 資格必修	総合評価は3.3. 期末試験においても多くの不合格者が出た。学生との意思の疎通を図ることが難しく、私語をしている学生への指導も適切に行なえなかったことが原因の一つかと思う。

在宅保育論	幼児教育 学科2年 生	卒業選択 資格必修	総合評価は3.7。昨年に比べて大幅に低下した。 学生の授業に対する要望を適宜受け付けたく思 うので、コメントカードへの記入を促したい。
-------	-------------------	--------------	---

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	教授	椎山克己
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
器楽合奏 音楽表現 保育・教職実践演習（幼稚園） 保育内容 表現 音楽保育 幼児問題研究セミナー	幼児教育学科 2年 幼児教育学科 2年 幼児教育学科 2年 幼児教育学科 1年 幼児教育学科 2年 幼児教育学科 2年	卒業必修 卒業選択、免許必修、資格選択必修 卒業選択、免許・資格必修 卒業選択、免許・資格必修 卒業選択、資格選択必修 卒業選択、資格選択必修
研究分野		
<p>1. 音楽教育の分野</p> <p>① 幼児期の音楽教育についての研究。幼稚園教育要領・保育指針に示される領域「表現」の観点から、教育実践のプログラム研究を行っている。</p> <p>② 吹奏楽を通じた生涯教育としての音楽教育の研究。スクールバンドを主体としたコミュニティーによる吹奏楽活動を通して、生涯教育における音楽教育の在り方、吹奏楽指導法について研究を行っている。</p> <p>2. 保育者養成の分野</p> <p>保育士および幼稚園教諭の養成に関する研究。カトリック保育について、並びに、子育て支援の活動に対する保育者養成校が果たす役割・課題について研究を行っている。</p> <p>3. 演奏の分野</p> <p>クラリネットの演奏法についての研究。演奏活動を通してクラリネットの奏法、クラリネット作品の研究を行っている。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 音楽教育に関する研究

久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団の活動を通して、生涯教育における吹奏楽活動に関する実践研究ならびにマーチング指導に関する実践研究を行った。

2. 子育て支援活動における「信愛つどいの広場」事業の現状分析を実施した

3. 保育者に対するリカレント教育について、信愛保育研究会の活動や教員免許状講習の実施を通して基礎研究を行った

平成 27 年度の研究の成果

(指揮)

1. 「久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」 単独 平成 27 年 8 月 久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団 石橋文化ホール
2. 「マーチング イン 福岡 2015」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞） 共同 平成 27 年 9 月 福岡マーチングバンド・バトントワーリング協会 福岡国際センター
3. 「マーチング イン 九州 2015」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞） 共同 平成 27 年 10 月 九州マーチングバンド・バトントワーリング協会 島原復興アリーナ
4. 「第 15 回マーチングステージ全国大会」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（優秀賞受賞） 共同 平成 28 年 2 月 日本マーチングバンド協会 神奈川県民ホール

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. カトリック保育研究Ⅴ - 本学における保育者養成の課題 -」 共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』(1~15)

(指揮)

1. 「久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」 単独 平成 25 年 8 月 久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団 石橋文化ホール
2. 「マーチング イン 福岡 2013」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞） 共同 平成 25 年 9 月 福岡マーチングバンド・バトントワーリング協会 福岡国際センター
3. 「マーチングイン九州 2013」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞） 共同 平成 25 年 10 月 九州マーチングバンド・バトントワーリング協会 鹿児島アリーナ
4. 「第 13 回マーチングステージ全国大会」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（優秀賞受賞） 共同 平成 26 年 2 月 日本マーチングバンド協会 よこすか芸術劇場
5. 「久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」 単独 平成 26 年 8 月 久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団 石橋文化ホール
6. 「マーチング イン 福岡 2014」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞） 共同 平成 26 年 9 月 福岡マーチングバンド・バトントワーリング協会 福岡国際センター
7. 「マーチング イン 九州 2014」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞） 共同 平成 26 年 11 月 九州マーチングバンド・バトントワーリング協会 島原復興アリーナ
8. 「第 14 回マーチングステージ全国大会」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（優秀賞受賞） 共同 平成 27 年 2 月 日本マーチングバンド協会 神奈川県立劇場

本教員の主たる研究の成果（5編以内）

1. 「日本の幼児教育における音楽教育の方向性についてーアメリカにおける音楽教育からの一考察ー」（単著） 『国際幼児教育研究第6号』
2. 『芸術のコミュニケーション・テクノロジー』（共著） 創言社 平成13年9月
3. 『保育にいかす器楽合奏』（単著） 権歌書房 平成16年2月
4. 『保育にいかすマーチング曲集』（単著） 権歌書房 平成17年2月
5. 『保育にいかす編曲法』（単著） 権歌書房 平成18年3月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
国際幼児教育学会	常任理事会・支部会に出席、常任理事・九州・沖縄・山口支部支部長
日本音楽教育学会	大会等不参加
日本管打・吹奏楽学会	大会等不参加

平成28年度 研究計画

1. 幼児教育における音楽教育の研究
国際幼児教育学会、日本音楽教育学会に所属し、より幅広い研究に取り組めるよう大会・研究会に参加する。また、国際幼児教育学会九州・沖縄・山口支部の会員での共同研究を進める。
2. 保育者養成に関する研究
保育・教職実践演習（幼稚園）に関する共同研究を行う。また、保育者養成のための音楽のテキストを作成する。
3. 吹奏楽指導法の研究
「スクールバンドを主体としたコミュニティー吹奏楽団の運営」についての実践研究を継続する。また、マーチング作品の創作を行うと共に、指導法について研究を行う。
4. 子育て支援に関する研究
本学で行っているつどいの広場での活動を基に、子育て支援に関する共同研究を継続して行い、発表する。
5. クラリネット奏法の研究
グループ“春の声”コンサート、久留米連合文化会コンサート等にて演奏発表を行う。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
学ぶ意欲を引き出す講義	器楽合奏 問 2 3.9→3.6 -0.3
	問 4 4.0→3.5 -0.5
	音楽表現 問 2 3.9→3.5 -0.4
	問 4 4.1→3.5 -0.5
	保育・教職実践演習（幼稚園） 問 2 3.9→3.8 -0.1
	問 4 4.1→4.0 -0.1
	保育内容 表現 問 2 3.3→3.0 -0.3
	問 4 3.6→3.4 -0.2
	音楽保育 問 2 4.3→3.8 -0.5
	問 4 4.5→4.8 +0.3
音楽保育ではある程度達成できたが、その他の科目については 28 年度の課題としたい。	

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
保育・教職実践演習（幼稚園）	幼児教育学科 2 年 A クラス	平成 27 年 12 月 16 日 II 校時

自己評価	他者評価
<p>学生の学習意欲をどのように引き出すかを課題としているが、模擬保育において、指導案作成や実際の指導を行う場面においてはその成果が見られるが、相互評価の場面では簡単な評価で終わる学生が多く、自分の課題として捉える視点を養っていくことが足りていない。ロールプレイを用いているが、役割を演じていない場面も見られ、今後の改善点である。</p>	<p>授業のテーマや目的が分かりやすく説明されていた。学生が主体的に授業に取り組んでいた。双方向授業への取り組みに改善の余地がある。学生の意欲によって学びの差が大きい。個別指導が行われ、学生の成長に効果的である。</p>
	<p>参加教員</p> <p>関聡教授、山下浩子教授、池田可奈子准教授</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

<p>今年度は昨年度に比べ下記に示す通り、各科目とも総合評価が下がった。</p> <p>器楽合奏 4.2→3.8 音楽表現 4.1→3.7</p> <p>保育内容表現 4.0→3.5 音楽保育 4.8→4.4</p> <p>保育・教職実践演習（幼稚園） 4.2→3.8</p> <p>音楽保育は 4 点半ばであるが、他の科目は 3 点台に下がった。改善策として授業内容・授業方法等の再点検を行い、学生が意欲的に取り組む授業にできるよう改善を図る。</p>

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>学生の学習意欲を高める工夫を行い、総合評価をどの科目も 4.0 以上にする。</p>	<p>質問しやすい雰囲気を作り、課題に取り組む意欲を喚起して行く。</p> <p>保育現場を意識した授業内容を組み、学生のさらに学びたいという意欲を引き出す。</p>

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
国際幼児教育学会常任理事, 九州・沖縄・山口支部長 久留米市社会福祉審議会委員長、同審議会児童福祉 専門部会会長 久留米市社会教育委員 久留米市障害者問題啓発事業選考委員 久留米市子ども・子育て会議委員（会長） 高等教育コンソーシアム久留米小中高連携部会委 員 福岡マーチングバンド協会監事	平成 27 年 4 月～28 年 3 月 同上 同上 同上 同上 同上 同上	国際幼児教育学会 久留米市 久留米市 久留米市 久留米市 高等教育コンソーシ アム久留米 福岡マーチングバン ド協会
特定非営利活動法人 久留米音楽協会理事	同上	特定非営利活動法人 久留米音楽協会（
久留米吹奏楽連盟常任理事	同上	久留米吹奏楽連盟
久留米連合文化会洋楽部部長	同上	久留米連合文化会
久留米児童吹奏楽団団長・指揮者	同上	久留米児童吹奏楽団

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 28 年度 社会的活動計画

○他団体への協力

国際幼児教育学会常任理事、同学会九州・沖縄・山口支部長、久留米市社会福祉審議会委員長、久留米市社会教育委員、久留米市子ども・子育て会議委員（会長）、高等教育コンソーシアム久留米小中高連携部会委員、久留米音楽協会（NPO）理事、久留米吹奏楽連盟常任理事、福岡マーチングバンド協会監事、久留米連合文化会洋楽部部長、久留米児童吹奏楽団団長

○吹奏楽指導

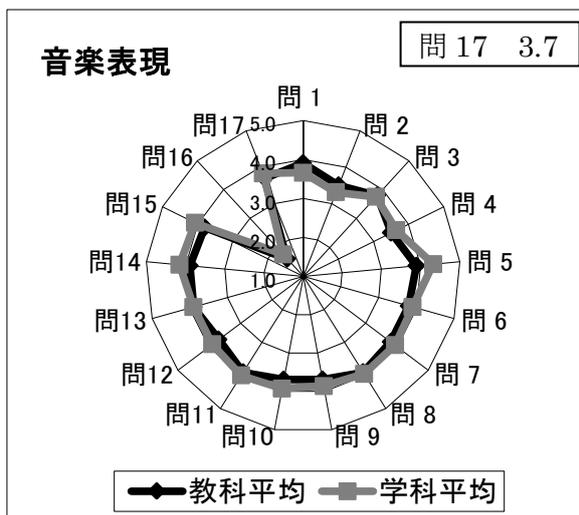
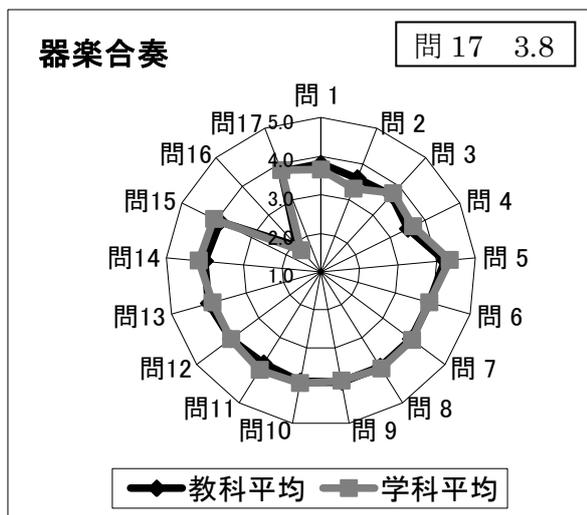
久留米信愛女学院吹奏楽部（中学・高校・短大）、久留米児童吹奏楽団の指導・指揮

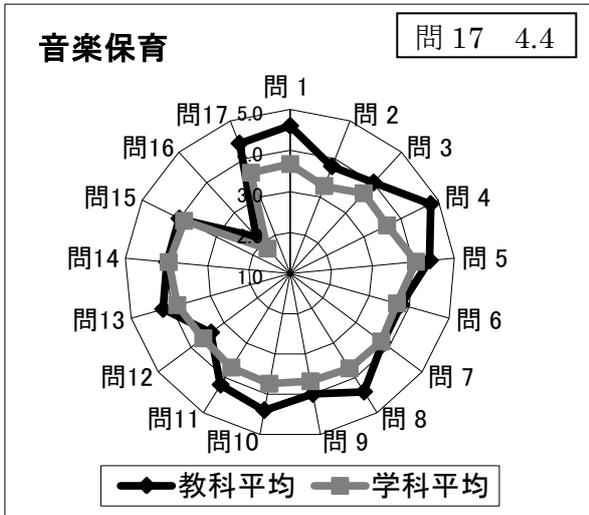
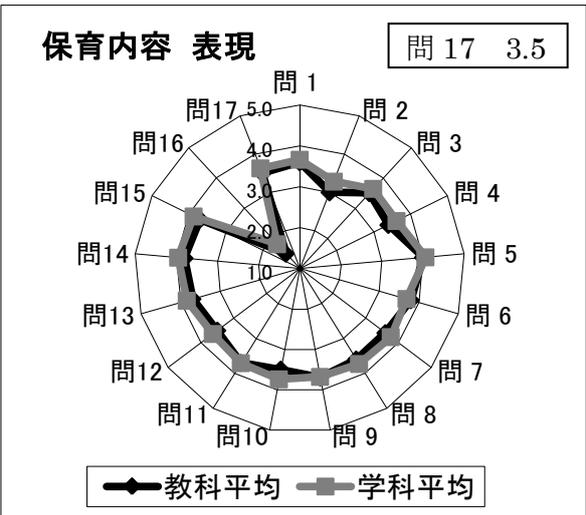
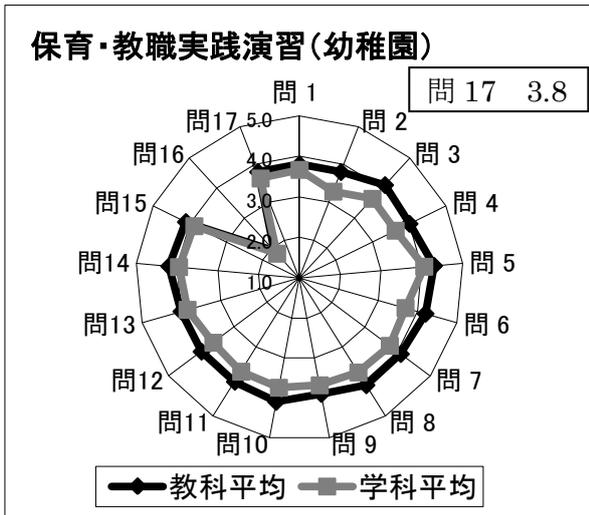
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
器楽合奏	幼児教育 学科 2年	卒業必修	カラーガードの練習時間がもっと欲しいとのコメントを受けたので、授業予定を組み替えて対応する。「さらに進んだ勉強をしたい」の評価が3.5と低いので、学生が興味を持って授業に取り組める工夫を行いたい。
音楽表現	幼児教育 学科 2年	免許必修	授業評価で「質問したり自分で調べたりした」「さらに進んだ勉強をしたい」の2項目の評価が3.5と低い。質問しやすい雰囲気を作り、個別の事前・事後指導に力を入れたい。学生も積極的に質問してほしい。
保育・教職実践演習 (幼稚園)	幼児教育 学科 2年	免許・資格 必修	「わからない時に質問をしたり、自分で調べたりした」の評価が3.8であるので、学生が質問しやすい雰囲気を作ると共に、参考文献等を積極的に提示して行く。
保育内容表現	幼児教育 学科 1年	免許・資格 必修	テキストの説明が中心の講義であったので「わからない時に質問したり自分で調べた」が3.0と特に低いので、演習の要素を増やし、学生が意欲的に取り組める内容となるよう工夫を図る。

音楽保育	幼児教育 学科 2 年	資格選択 必修	「さらに進んだ勉強をしたい」が 4.8 と高評価であるが、一方で「学生が質問したり意見を述べられるように配慮していた」は 3.4 であり、学生の主体的な意見を取り入れ双方向の授業を行いたい。
------	----------------	------------	---

所属学科	職名	氏名
ビジネスキャリア学科	教授	藤村 やよい
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
ビジネス実務総論Ⅰ ビジネス実務総論Ⅱ ビジネス実務演習Ⅰ ビジネス実務演習Ⅱ ビジネス実務演習Ⅲ ビジネス実務演習Ⅳ 秘書学概論 秘書実務Ⅰ 秘書実務Ⅱ キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 卒業研究セミナー 信愛教育Ⅰ(3回)	ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科2年 幼児教育学科1年・フードデザイン学科1年	卒業必修・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業必修・資格必修 卒業必修・資格必修 卒業必修・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択・資格必修 卒業選択 卒業選択 卒業必修 卒業必修
研究分野		
<p>1. 接遇教育の分野 接遇教育の実践的教授法に関する研究。接遇教育をわかりやすく教え、学生に興味や関心をもたせるために開発した実践的教授法「起業方式」について、総合的な関連づけを行う研究をしている。</p> <p>2. 秘書教育の分野 秘書に関する研究。秘書の養成および秘書を取り巻く環境の変化に対応した秘書の専門性について研究している。</p> <p>3. ビジネス実務の分野 ビジネス実務に関する研究。経営環境の変化に伴う仕事・能力の変化とビジネス教育について研究している。</p> <p>4. 人材育成の分野 人的資源に関して、雇用の流動化や雇用形態の変化など経営環境の変化に対応した人材開発の必要性について研究している。</p> <p>5. キャリアガイダンスについて キャリアガイダンスの授業を通して、学生の就業力育成について研究している。また、授業の内容を接遇教育やビジネス実務などの授業とも関連させながら研究を進めている。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 3. ビジネス実務に関する研究

経営環境の変化に伴うビジネス実務の内容の変化について研究を進め、その成果を著書『ビジネス実務—信頼を得ることの大切さ—』を編著者として執筆した。本の中では「はじめに、第Ⅰ～Ⅲ部の前書き」および「第Ⅰ部信頼される職業人(ビジネスパーソン)を目指して」で、第1章職業意識、第2章ビジネス活動について、第3章組織の人間関係、第4章信頼を得ることの大切さ、第5章仕事をする上での心構え、第6章仕事の基本、「第Ⅱ部社員の言動で会社のイメージが決まる」で、第3章電話応対を担当した。

2. 接遇教育の実践的教授法「起業方式」に関する研究

接遇教育をわかりやすく教え、学生に興味や関心をもたせるために開発した実践的教授法「起業方式」についての研究を進めた。特に実技指導に関する論文「接遇教育の実践的教授法—「起業方式」の開発と評価」としてビジネス実務学会論文集に発表していた。その後、約10年間、本教授法を授業の中で接遇教育時に実施してきたが、本教授法が現在も「学生がわかりやすく感じているか」「教授法が現在も効果的で有効であるか」を再度、検証した。その成果を『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第38号』に発表した。

3. 秘書に関する研究

秘書を取り巻く環境の変化に対応した秘書の専門性について研究を進めた。

4. ビジネス実務と秘書実務に関する研究

ビジネス実務と秘書実務の相違についての研究を進めた。

5. キャリアガイダンスの授業について

学生の就業力育成のために、どのような内容の授業を行うとよいかなどの研究を行った。

平成 27 年度の研究の成果

(著書)

1. 「ビジネス実務—信頼を得ることの大切さ—」編著 樹村房 平成 27 年 12 月 (3-4、13-41、66-81、105)

(論文)

1. 「接遇教育における授業のわかりやすさについて—実践的教授法「起業方式」の再評価—」単著 平成 27 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』(47～52)

(審査)

1. 日本秘書協会主催「第 23 回学生のためのエッセイ・コンテスト」審査員、平成 27 年 6 月 (その他)

1. 「ヒューマンスキルを育て広げる」単著 平成 27 年 6 月『設立 20 周年記念 秘書サービス接遇教育学会 設立からのあゆみ』(62)

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「実技指導の授業形態に関する一考察」単著 平成 25 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』(63～67)

(審査)

1. 日本秘書協会主催「第 21 回学生のためのエッセイ・コンテスト」審査員、平成 25 年 6 月
2. 日本電信電話ユーザ協会主催「第 51 回電話応対コンクール筑後地区大会」審査員、平成 25 年 9 月
3. 日本秘書協会主催「第 22 回学生のためのエッセイ・コンテスト」審査員、平成 26 年 6 月
4. 日本電信電話ユーザ協会主催「第 52 回電話応対コンクール筑後地区大会」審査員、平成 26 年 9 月

本教員の主たる研究の成果（5編以内）

1. 『ビジネスパーソンのためのビジネス実務の基礎』（共著）学文社 平成15年4月
2. 『現代中小企業経営論』（共著）税務経理協会 平成18年2月
3. 『秘書概論—これからの企業秘書・国際秘書へ向けて—』（共著）樹村房 平成24年4月
4. 「接遇教育の実践的教授法—「起業方式」の開発と評価—」（単著）『日本ビジネス実務学会ビジネス実務論集第23号』平成17年3月
5. 「接遇教育におけるビジネス実務実習室のレイアウトが及ぼす効果—仮想オフィス「一の字型」と「L字型」の比較—」（単著）『日本ビジネス実務学会ビジネス実務論集第25号』平成19年3月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本ビジネス実務学会	全国大会参加（副座長）、九州・沖縄ブロック研究会参加（10月座長・2月）・運営委員
日本秘書協会	全国秘書会議参加・理事
日本秘書サービス接遇教育学会	研究大会参加、秘書ビジネス実務担当者地方研修会参加
日本国際秘書学会	大会等不参加
日本経営学会	大会等不参加
日本中小企業学会	大会等不参加
日本インターンシップ学会	大会等不参加
日本カトリック教育学会	大会等不参加
日本医療秘書実務学会	大会等不参加

平成28年度 研究計画

1. ビジネス実務の分野
経営環境の変化に伴うビジネス実務内容の変化についての研究を進める。
2. 接遇教育における実践的教授法「起業方式」に関する研究
接遇教育をわかりやすく教え、学生に興味や関心をもたせるために開発した実践的教授法「起業方式」の研究をさらに深める。
3. 秘書に関する研究
秘書を取り巻く環境の変化に対応した秘書の専門性について研究を進める。また日本国際秘書学会全国大会（10月1日（土））のシンポジウムにてパネリストを務める。
4. ビジネス実務と秘書実務に関する研究
ビジネス実務と秘書実務の相違についての研究を進める。
5. キャリアガイダンスの授業について
学生の就業力育成のために、どのような内容の授業を行うと良いかなどの研究を行う。また、授業の内容を接遇教育やビジネス実務などの授業とも関連させながら研究を進める。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
目標として「授業内容に興味や関心をもたせる」。また、成果の指標として「問 4. 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」の項目の評価を向上する。	授業評価の「問 4. 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」が「ビジネス実務総論Ⅰ」(+0.2)、「ビジネス実務総論Ⅱ」(+0.2)、「ビジネス実務演習Ⅲ」(+0.6)、「ビジネス実務演習Ⅳ」(+0.4)を達成できた。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
ビジネス実務演習Ⅳ	ビジネスキャリア学科 2 年	12 月 15 日 10 : 40 ~ 12 : 10

自己評価	他者評価
ビジネス実務演習Ⅳは、「知っている」だけでなく、「できる」ことを目標にしている。ビジネスの現場を知らない学生にビジネス実務の重要性をわからせるために、模擬会社ごとに役割分担を決めて、ロールプレイングを行う。機敏な対応が求められ、緊迫したビジネスの現場となる。来客対応中に電話がなったり、複数のお客様が重なったり、緊迫した状況の中で営業やクレーム対応にどう機転利かして主体的に取り組むかである。多忙な中でも美しい言葉遣いや立ち居振る舞い出来るかなどが課題である。訪問者は訪問の内容を自分たちで考え、小道具なども使い、臨場感のある授業を展開させる。このようにわかりやすく教え、興味や関心をもたせる授業を行った。他者評価で良い評価をいただいたので、今後もわかりやすい授業になるよう熱意をもって授業を行いたい。	<ul style="list-style-type: none"> 授業のテーマや目的は、大変わかりやすかった。 話し方は、非常に明瞭で聞き取りやすく話され、大きな声で必要な指示ができていた。 学生のロールプレイングの実技では、実習室の設備を充分活用して臨場感があり、よく指導されている。 双方向の授業については、1 グループのロールプレイングが終わったら、担当学生の反省及び見学者の意見さらに教科担当者の意見等の機会を設定し、双方向の授業を実施されている。 ほとんどの学生は、普段は見られない表情で、ロールプレイングを一生懸命にこなしていた。 本人の振り返りさせるのはよかった。見学している学生にも質問されているのは良かった。「注意すること」「ほめること」をジャストタイミングで示すことが、大きく学生の成長に繋がることを再認識した。
	参加教員
	安保康治教授、樫山フミエ教授、原浩美教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

総合評価が上がった科目は、「ビジネス実務総論Ⅱ」(+0.2)、「ビジネス実務演習Ⅲ」(+0.7)、「ビジネス実務演習Ⅳ」(+0.2)、「秘書学概論」(+0.2)、「秘書実務Ⅰ」(+0.4)、「秘書実務Ⅱ」(+0.2)、「キャリアガイダンスⅠ」(+0.5)。下がった科目は、「ビジネス実務総論Ⅰ」(-0.3)、「ビジネス実務演習Ⅰ」(-0.3)、「ビジネス実務演習Ⅱ」(-0.1)、「キャリアガイダンスⅡ」(-0.3)であった。総合評価が下がった科目については、授業改善に取り組む。26 年度から新たに「秘書学概論」が加わり、27 年度は秘書をアップさせると書いていたとおり 27 年度は秘書に関しては 3 科目アップさせた。
--

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
27 年度に引き続き、「授業内容に興味や関心をもたせる」。また、成果の指標として「問 4. 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」の項目の評価を向上する。	ビジネス実務の授業をわかりやすく指導するためのテキストを執筆したが、完成が遅れたため 27 年度は利用できなかった。28 年度には、この執筆したテキストを使用し、興味や関心をもたせる工夫を再度行う。

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
平成 27 年度第 1 回福岡県幼稚園新規採用教員研修会「社会人としての自覚」 「面接マナー講座」3 年生	平成 27 年 4 月 2 日	福岡県教育委員会	福岡県庁講堂
「感じのよい礼儀マナー」2 年生	平成 27 年 8 月 5 日	久留米信愛女学院 高等学校	久留米信愛女学院 短期大学
	平成 27 年 8 月 21 日	同上	同上

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
一般社団法人 日本秘書協会 理事 秘書の会「福岡女性秘書研究会」代表 「久留米市勤労青少年ホーム運営委員会」委員長 国際ロータリー第 2700 地区 博多イブニングロータリークラブ「青少年奉仕委員会」委員長	平成 27 年度 平成 27 年度 27.7/1～28.6/30 27.7/1～28.6/30	久留米市教育委員会

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
ビジネス実務 I (前期)・II (後期)	平成 27 年度	九州情報大学
オフィスコミュニケーション(前期)・ビジネス文書作成(後期)	平成 27 年度	筑紫女学園大学
ビジネス実務演習 I (前期)・II(後期)	平成 27 年度	久留米大学

その他特記事項

内容	年 月 日
<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人日本秘書協会発行『秘書』7月号 No.489、「新理事・監事ご紹介」(p.5) 全国大学実務教育協会「マナーインストラクター認定大学」試験審査員(「マナーインストラクター認定試験に関する規定」第6条第1項第1号教員(平成23年2月～)) 	

平成 28 年度 社会的活動計画

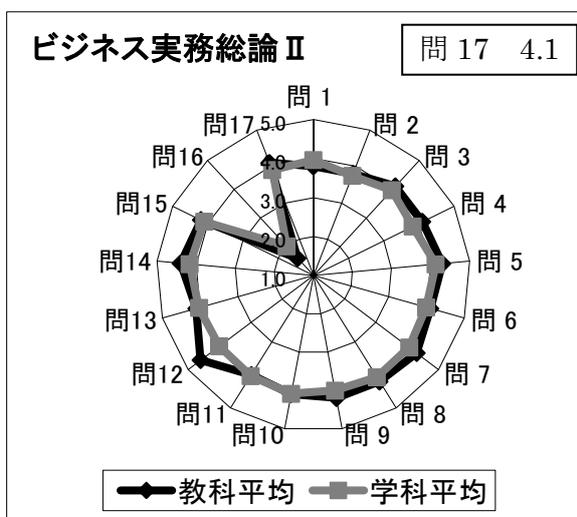
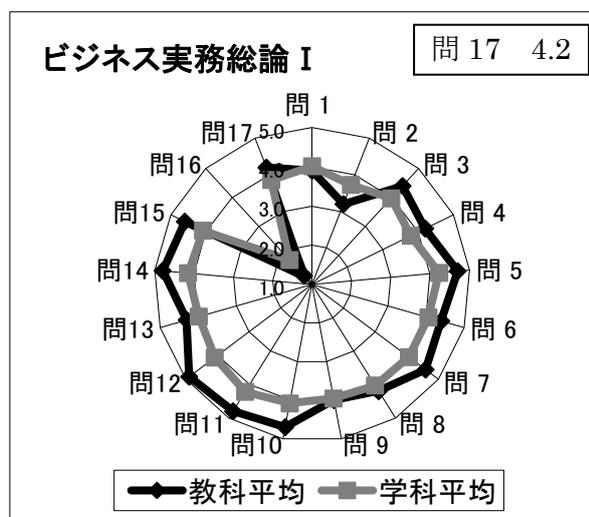
<ul style="list-style-type: none"> 講演等 福岡県教育委員会主催「平成 28 年度第 1 回福岡県幼稚園新規採用教員研修会」講師 他団体等への協力 一般社団法人 日本秘書協会 理事・九州支部長 日本ビジネス実務学会「九州・沖縄ブロック研究会」運営委員 秘書の会「福岡女性秘書研究会」代表 久留米市教育委員会主催「久留米市勤労青少年ホーム運営委員会」委員長 国際ロータリー第 2700 地区 博多イブニングロータリークラブ 理事・副会長 (次年度会長) 他大学への非常勤等 九州情報大学、筑紫女学園大学、久留米大学
--

平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

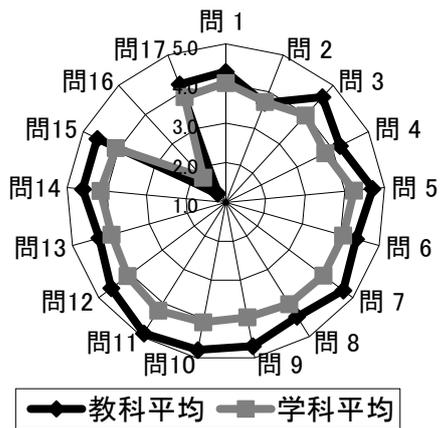
- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）



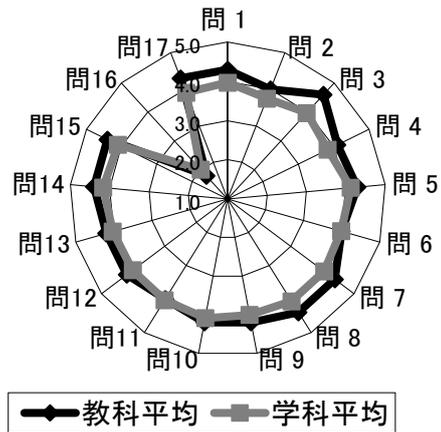
ビジネス実務演習 I

問 17 4.2



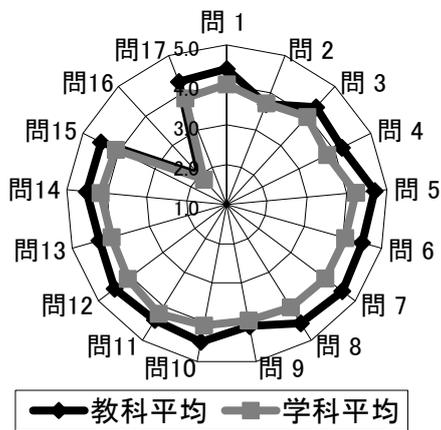
ビジネス実務演習 II

問 17 4.3



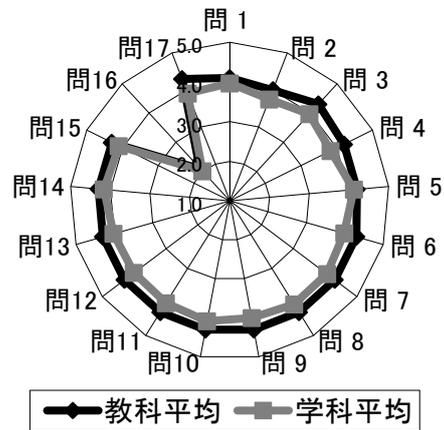
ビジネス実務演習 III

問 17 4.3



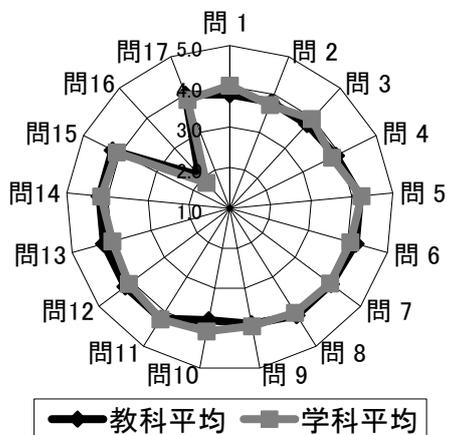
ビジネス実務演習 IV

問 17 4.3



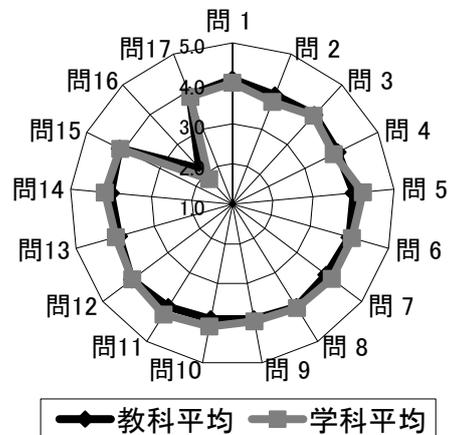
秘書学概論

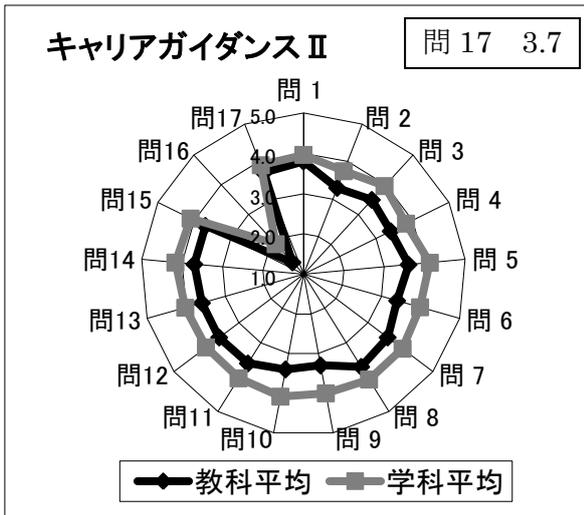
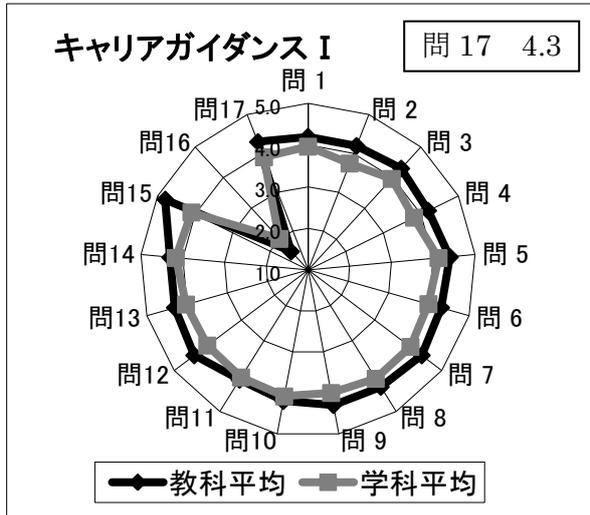
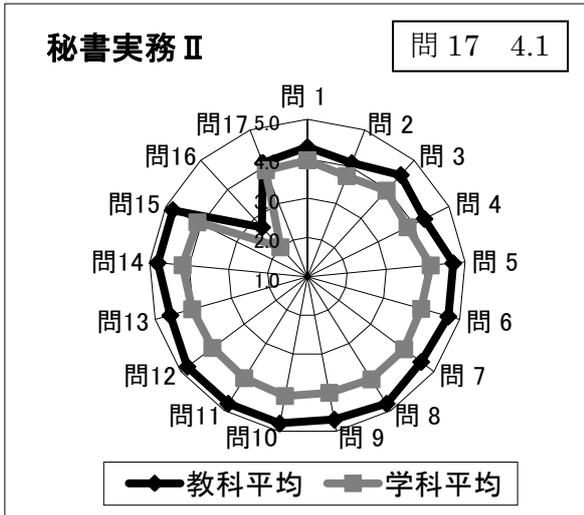
問 17 4.0



秘書実務 I

問 17 3.9





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
ビジネス実務総論Ⅰ	ビジネス キャリア 学科1年	卒業必 修・資格必 修	総合評価が4.2であるが、4.9、4.8、4.7と平均 評価が高いものや、4.0と低いものもある。4.0 は板書の仕方や視聴覚機器の利用の効果につい てなので、板書の仕方やビデオの利用などを考え たい。
ビジネス実務総論Ⅱ	ビジネス キャリア 学科1年	卒業選 択・資格必 修	総合評価は4.1で、平均評価も4.0以上であるが 4.6もある。ビジネスの現場を想定した授業内容 を学生にわかりやすく、興味や関心をもたせるよ うに講義内容の工夫をする。
ビジネス実務演習Ⅰ	ビジネス キャリア 学科1年	卒業必 修・資格必 修	総合平均は4.2で、質問するや自分で調べるが 3.7である。もっと質問の時間をとるなど気をつ けたい。さらに予習・復習が予習・復習が低いの で課題などを出したい。

ビジネス実務演習Ⅱ	ビジネス キャリア 学科1年	卒業必 修・資格必 修	どの項目も平均4以上であり、授業はこれまで同様熱意をもって取り組みたい。授業内容は来客応対などの実技が多くなるため、ロールプレイングを工夫して、わかりやすい実技指導を行う。
ビジネス実務演習Ⅲ	ビジネス キャリア 学科2年	卒業選 択・資格必 修	総合評価は4.3である。実技内容が1年次の基礎的な内容に比較して高度になるので、わかりやすい実技指導を心がけたい。
ビジネス実務演習Ⅳ	ビジネス キャリア 学科2年	卒業選 択・資格必 修	総合評価は4.3である。授業の後半は、社会人になるための心構えを指導しているので、さらにわかりやすくなるように授業の内容を検討する。
秘書学概論	ビジネス キャリア 学科2年	卒業選 択・資格必 修	総合評価が4.0である。秘書についての理解を深めるため、授業の内容をもっとわかりやすくなるように工夫する。
秘書実務Ⅰ	ビジネス キャリア 学科2年	卒業選 択・資格必 修	秘書業務の事例を多く知るために秘書検定の内容を導入し、授業の内容と方法をわかりやすく工夫する。
秘書実務Ⅱ	ビジネス キャリア 学科2年	卒業選 択・資格必 修	平均評価が4.8が6項目、4.7が3項目と高い数値だが、総合評価が4.1である。授業形態としての口の字型で行い、わかりやすい授業を心がけた。
キャリアガイダンスⅠ	ビジネス キャリア 学科1年	卒業選択	総合評価が4.3である。予習・復習以外は全て4以上である。自分のキャリアについて、もっと自分で考えるような授業内容を工夫する。
キャリアガイダンスⅡ	ビジネス キャリア 学科2年	卒業選択	自己のライフプランをイメージし、卒業後のキャリアを自分自身で自発的に考えられるように授業内容を工夫する。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	山下 浩子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
応用栄養学Ⅰ 応用栄養学Ⅱ 栄養指導論 栄養指導演習 栄養士基礎演習（4回） 栄養指導実習 公衆栄養学概論 栄養士総合演習Ⅱ（6回） フードマネジメント（7回） フードインターンシップ 卒業セミナー 子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅱ	フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年	卒業・栄養士必修 栄養士必修 卒業・栄養士必修 卒業・栄養士必修 卒業必修 栄養士必修 栄養士必修 卒業選択 卒業選択 卒業選択 卒業選択 保育士必修 保育士必修
研究分野		
<p>1. 栄養教育・指導論の分野 栄養教育・指導における理論に基づいた方法や技術に関する研究。対象者を自らの意思で行動変容に導くための方法や食育教材について研究している。</p> <p>2. 小児栄養学の分野 小児期の栄養のあり方に関する研究。とくに小児生活習慣病予防のための小児肥満改善について研究している。</p> <p>3. 栄養士養成の分野 栄養士の養成に関する研究。栄養士養成に関するカリキュラム論・方法論について、栄養士養成に携わっている立場から研究を行っている。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 栄養教育・指導論の分野

食教育をテーマに、久留米市内保育所、幼稚園および認定こども園における食育実践の実態について調査研究を行った。

2. 公衆栄養学の分野

『家庭内環境を考慮した女性 3 世代の食習慣と健康状態に関する栄養疫学的横断研究』の本学調査結果の解析には至らなかった。

3. 小児栄養学の分野

久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、受診児の肥満改善のための食事・生活（運動・睡眠）について継続指導を行った。

4. 栄養士養成の分野

平成 28 年度入学生対象の栄養士養成カリキュラムについて検討を継続した。

『入学から卒業までのガイドブック』（七訂版）作成に向けて、内容・構成を検討した。

「栄養士養成研究」（学科共同研究）を継続した。

献立作成および調理に関するテキスト作成に向けての検討には至らなかった。

平成 27 年度の研究の成果

（論文）

1. 「栄養士養成研究（3）生活実態が学習効果に及ぼす影響」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（25～33）

（報告）

1. 「子育て支援講座における食育の取り組み」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（91～97）

（その他）

1. 『入学から卒業までのガイドブック第 6 号』共著 平成 27 年 4 月 フードデザイン学科（総頁 79）
2. 「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第 1 報」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（53～58）

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

（論文）

1. 「行事食に関する調査研究 第 4 報」共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』（27～32）

2. 「栄養士養成研究（2）学習支援に対する効果」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』（41～47）

（発表）

1. 「行事食に関する調査研究 第 4 報」共同 平成 25 年 8 月 日本調理科学会平成 25 年度大会 於：奈良女子大学

（報告）

1. 「栄養士養成研究（1）栄養士としての資質向上に向けての取り組み」共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』（103～107）

（その他）

1. 『入学から卒業までのガイドブック第 4 号』共著 平成 25 年 4 月 フードデザイン学科（総頁 62）
2. 「地産農産物を活用した食教育の効果検証」共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』（69～73）
3. 『入学から卒業までのガイドブック第 5 号』共著 平成 26 年 4 月 フードデザイン学科（総頁 73）
4. 「学生の食事にみる日常食の実際 - 食事調査からの考察 - 」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女

学院短期大学研究紀要第 37 号』(77～80)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 『子どもの健康』共著 開成出版 平成 16 年 3 月
2. 『NEW 栄養教育・指導論 第 4 版』共著 医歯薬出版 平成 17 年 3 月
3. 『NEW 栄養教育・指導実習 第 3 版』共著 医歯薬出版 平成 17 年 3 月
4. 『くるめの元気！食育やさいかるた』食育教材製作 平成 18 年 6 月
5. 「総説 子どもの肥満」共著『久留米醫學會雑誌第 73 卷第 5・6 号別冊』 平成 22 年 6 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本栄養・食糧学会	大会等不参加。
日本栄養改善学会	全国大会参加。
日本家政学会	九州支部学会参加。
日本調理科学会	大会等不参加。
日本小児保健学会	大会等不参加。

平成 28 年度 研究計画

1. 栄養教育・指導論の分野
久留米市内保育所、幼稚園および認定こども園における食教育研究を継続する。
『第 3 次久留米市食育推進プラン』の基礎資料とする、調査・研究に携わる。
2. 小児栄養学の分野
久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、受診児の肥満改善のための食事・生活指導を継続する。
3. 栄養士養成の分野
『入学から卒業までのガイドブック』(八訂版)作成に向けて、内容・構成を検討する。
学科内 FD 活動の一環として、「栄養士養成研究」を継続する。
4. 地域企業等との連携事業
平成 27 年度から取組んだ、CTC-LANKA (企業)、福岡県および久留米市、本学との産官学連携事業「ココナッツの有効成分を利用した健康食品の開発」研究会(通称、「ココナッツ研究会」)の活動を継続する。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度確認</p> <p>【成果の指標】 担当科目（輪講科目除く）の学生による授業評価アンケート、問 2「質問実行」、問 3「授業内容の理解」、問 6「本科目目標・他科目との関連理解」、問 7「毎時のテーマ・目的理解」、問 9「板書等の利用効果」の平均ポイントを指標とする。</p>	<p>○「質問実行」 平成 26 年度 3.4 平成 27 年度 3.1 <u>-0.3</u> ポイント</p> <p>○「授業内容の理解」 平成 26 年度 3.7 平成 27 年度 3.5 <u>-0.2</u> ポイント</p> <p>○「本科目目標・他科目との関連理解」 平成 26 年度 4.0 平成 27 年度 3.8 <u>-0.2</u> ポイント</p> <p>○「毎時のテーマ・目的理解」 平成 26 年度 3.9 平成 27 年度 3.8 <u>-0.1</u> ポイント</p> <p>○「板書等の利用効果」 平成 26 年度 3.7 平成 27 年度 3.5 <u>-0.2</u> ポイント</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
栄養指導論	フードデザイン学科 1 年	平成 27 年 5 月 26 日

自己評価	他者評価
<p>本時の内容は、シラバス 5 回目の「栄養指導と関係法規」の項であり、ねらいは、栄養指導の法的根拠を理解することであった。理解を補う上で、シラバス 9 回目の「栄養指導に必要な基礎事項」の項や『入学から卒業までのガイドブック』を確認しながら授業を進めた。</p> <p>課題は一方の授業形式にならぬよう、学生の回答による各自の理解確認へ導くことである。さらに学生参加型の教授法を工夫しなければならない。</p>	<p>1. 話し方は明瞭で聞き取りやすかった。</p> <p>2. 板書の仕方や随時の要点（キーワード）チェックは、内容理解のために効果的であった。</p> <p>3. 学生が質問したり意見が述べられるように配慮されていた。</p> <p>4. ほとんどの学生が授業に集中していたが、一部居眠りをしていた学生もおり残念だった。</p>
	<p>参加教員 江越和夫教授 石井妙子教授 山村涼子准教授</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

<p>○「総合評価」が下がった科目（前年度評価比） 「子どもの食と栄養Ⅱ」-0.7 「栄養指導実習」-0.5 「子どもの食と栄養Ⅰ」-0.4 「応用栄養学Ⅰ」-0.4 「栄養指導論」-0.3 「栄養指導演習」-0.3 「公衆栄養学概論」-0.2 全担当科目（応用栄養学Ⅱ、輪講科目除く）において総合評価が下がった。とくに演習・実習科目で大きく下がった。評価項目別にみると、問 2「私は、わからないときには質問をしたり、自分で調べたりした」（3.1）の項が、例年同様最も評価が低い。改善策として「学生の学習意欲を引き出す配慮と工夫の実行」を挙げたが、問 12「先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮していた」（3.7）の項は前年比-0.1であった。さらなる授業展開の工夫を試みる。</p>

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度を確保</p> <p>【成果の指標】 学生による授業評価の問 2、3、6、7、9 により、 ①復習②目標明示③要点板書④質問・考察時間確保 ⑤理解度向上の成果をみる。</p>	<p>授業において①前回の復習②今回の目標明示 ③要点の板書④質問・考察時間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。「わかりやすい授業法の工夫」は①復習、②目標明示、③要点板書、⑤まとめを行う。「学生の理解度確保」は毎時の目標に合わせた④質問・考察時間を定時確保および小テストによって⑤理解度の確認に努める。</p>

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
講義Ⅰ「保育における食育の推進」 講義Ⅱ「おいしく、たのしい食事をプロデュース」	27・07・21	大分県保育連合会	大分オアシスタワーホテル
魅力あるおいしい学校給食にするために ～郷土の料理に学ぶ Part 1～	27・08・07 27・08・10	公益財団法人福岡県学校給食会	公益財団法人福岡県学校給食会

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて栄養指導	平成 27 年 4 月～28 年 3 月 (週 1 回)	久留米大学医療センター小児科

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
食と健康 (a)	平成 27 年度前期	久留米大学
食と健康 (b)	平成 27 年度後期	久留米大学

その他特記事項

内容	年 月 日
平成 27 年度学校給食調理技術講習会講師 (福岡県学校給食会)	平成 27 年 8 月 7 日、10 日
平成 27 年度食生活改善推進員養成教室講師 (久留米市)	平成 27 年 9 月 16 日、24 日
平成 27 年度学校給食料理コンクール審査委員長 (福岡県学校給食会)	平成 27 年 10 月 15 日

平成 28 年度 社会的活動計画

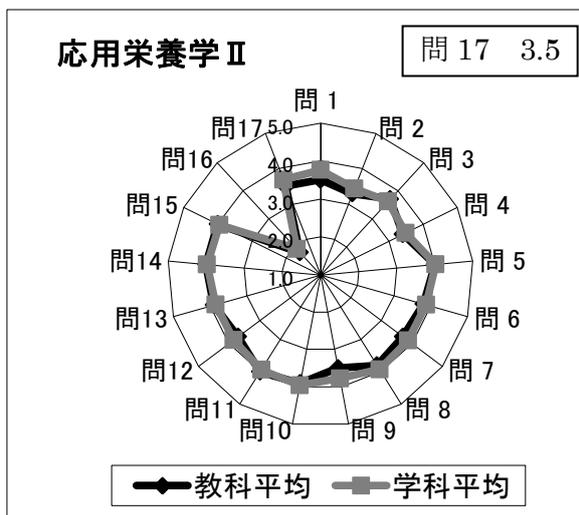
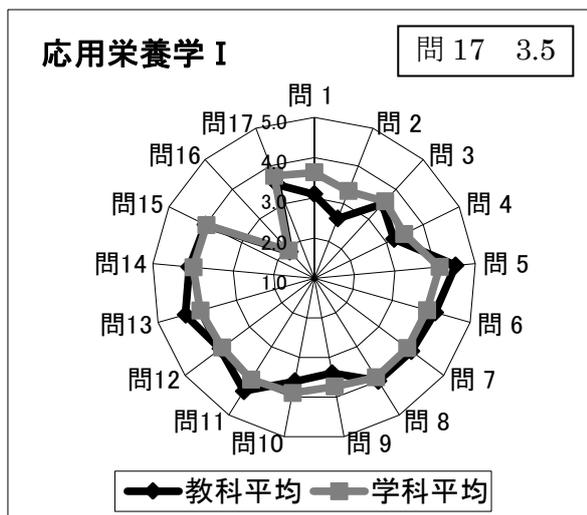
1. 他団体等への協力
 - ①久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来・栄養指導
(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月毎週金曜日午後の予定)
 - ②久留米市食育推進会議副会長 (委員任期:平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)
2. 他大学への非常勤等
 - ①久留米大学「食と健康 (a)」・「食と健康 (b)」 (平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月前期・後期)
3. その他
 - ①平成 28 年度学校給食調理技術講習会講師 (福岡県学校給食会) (平成 28 年 7 月 22 日、29 日)
 - ②平成 28 年度食生活改善推進員養成教室講師 (久留米市) (平成 28 年 8 月 23 日、25 日)

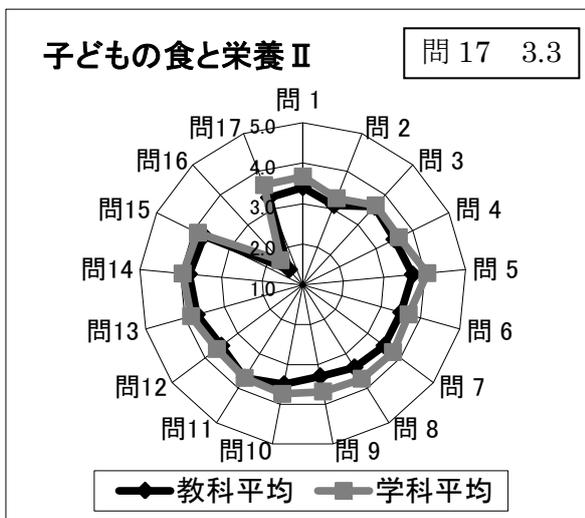
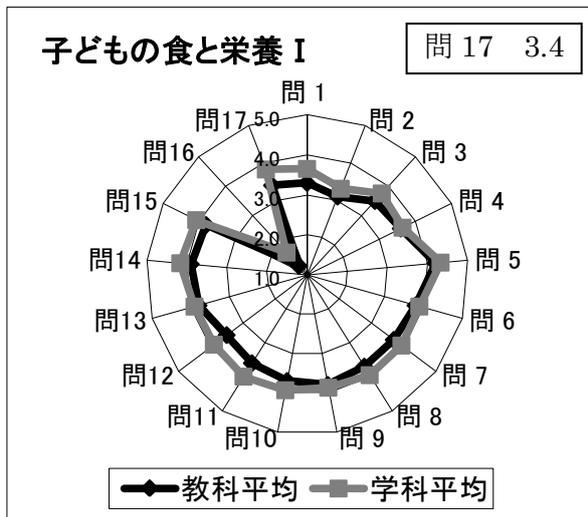
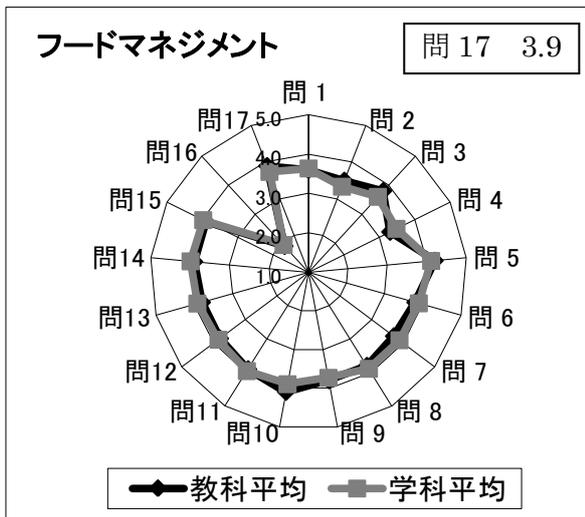
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
応用栄養学 I	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価 3.5 および問 2「わからない時に質問または自分で調べた」(2.6)の結果を受けて、学習意欲が上がる授業改善に努める。わからない点は、授業時や終了時直ぐに、またはオフィスアワーを活用して、いつでも質問してほしい。
応用栄養学 II	フード1年	栄養士必修	総合評価 3.5 および問 2「わからない時に質問または自分で調べた」(3.3)の結果を受けて、学習意欲が上がる授業改善に努める。わからない点は、授業時や終了時直ぐに、またはオフィスアワーを活用して、いつでも質問してほしい。
栄養指導論	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価 3.7 および問 2「わからない時に質問または自分で調べた」(3.0)の結果を受けて、学習意欲が上がる授業改善に努める。わからない点は、授業時や終了時直ぐに、またはオフィスアワーを活用して、いつでも質問してほしい。
栄養指導演習	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価 3.3の結果を受けて、わかりやすい演習指導法の工夫に努める。なお、わからない点は、演習時に積極的に質問してほしい。

栄養士基礎演習	フード1年	卒業必修	総合評価 3.7 および問2「わからない時に質問または自分で調べた」(3.2)の結果を受けて、栄養士養成課程の導入科目として、全項目の評価が上がる授業改善に努める。わからない点、苦手な内容はそのままにせず、各担当教員に積極的に質問してほしい。
栄養指導実習	フード2年	栄養士必修	総合評価 3.4の結果と「先に良い点を褒めてから悪い点を指摘してほしい」とのコメントを受けて、実習内容の指導の仕方をはじめ、学習意欲が上がる言葉かけに努める。
公衆栄養学概論	フード2年	栄養士必修	総合評価 3.6 および問1「この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった」(3.3)の結果を受けて、興味関心が上がる授業改善に努める。
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ	フード2年	卒業選択	総合評価 3.3 および問4「この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」(3.1)の結果を受けて、栄養士養成課程の総復習科目として、学習意欲が上がる授業改善に努める。なお「配布資料は過去問題集など1冊にまとめたものが良い」とのコメントを参考に検討する。
フードマネジメント	フード2年	卒業選択	総合評価 3.9 および問4「この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」(3.3)の結果を受けて、興味関心が上がる授業改善に努める。
子どもの食と栄養Ⅰ	幼教2年	保育士必修	総合評価 3.4の結果と「授業進度にバラツキがある」、「(せ)と(ぜ)の発音が不明瞭」のコメントを受けて、授業進度や明瞭な話し方に注意する。また「講義のみでなく実習が楽しかった」のコメントを受けて、さらに授業内容の充実に努める。
子どもの食と栄養Ⅱ	幼教2年	保育士必修	総合評価 3.3の結果と再度「濁音の発音が不明瞭」のコメントを受けて、明瞭な話し方に細心の注意をする。また「幼児食や料理の基礎が学べてよかった。実習が楽しかった」のコメントを受けて、さらに授業内容の充実に努める。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	石井 妙子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
給食計画論 給食管理実習Ⅰ 給食管理実習Ⅱ 栄養士基礎演習（1回） 臨床栄養学概論 臨床栄養学実習 栄養士総合演習Ⅱ（6回） 校外給食管理実習Ⅱ	フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年	卒業・栄養士必修 卒業・栄養士必修 卒業・栄養士必修 卒業必修 卒業・栄養士必修 卒業・栄養士必修 卒業選択 卒業選択
研究分野		
<p>1. 糖尿病の分野 糖尿病療養支援のために糖尿病療養指導士会（CDEJ と LCDE）の組織運営を通じてその方法や対策について研究。対象者を自らの意思で行動変容に導くための方法や医療従事者相互の連携について研究している。</p> <p>2. 高齢者栄養の分野 高齢者の低栄養や重症化予防対策のための多職種連携や摂食・嚥下についての研究。とくに在宅高齢者支援について研究している。</p> <p>3. 食塩摂取量「見える化」研究の分野 食塩摂取量について、年齢別に対象者を分け調査・研究をしている。</p> <p>4. 栄養士養成の分野 栄養士の養成に関する研究。栄養士養成に関する方法論について、栄養士養成に携わっている立場から研究を行っている。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 糖尿病の分野

「福岡糖尿病療養指導士会 (LCDE)」の中央認定委員として、“ふくおか市民糖尿病教室”の実行委員として中心的活動、“ウォークラリー”や“糖尿病フェア”の企画運営、「福岡 LCDE」認定試験の試験官として活動。「日本糖尿病療養指導士 (CDEJ) 連絡会」では、顧問として定期講演会の企画運営に携わって平成 26 年は 2 回実施。

2. 高齢者栄養の分野

地域連携多職種ケア会議に栄養士代表として毎月会議 (行橋市) に出席。在宅訪問歯科診療に同行し VE による摂食・嚥下評価に基づいて栄養食事指導を実施。「日本在宅栄養管理学会」の九州・沖縄ブロック長補佐として認定栄養士の指導や連絡会や症例検討会を開催

3. 食塩摂取量「見える化」研究の分野

簡易蓄尿器と調査表を用いて、高齢者・勤労者・学生のグループに分けて調査研究を実施。中村学園大学 安武健一郎准教授らとの共同研究。

4. 栄養士養成の分野

栄養士界についての情報とその魅力について学生に伝え、就職支援や援助を積極的に実施。

平成 27 年度の研究の成果

1、昨年度につづき 2 年間実施した調査結果を解析して、高血圧学会、日本栄養改善学会で発表。(共著)

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

なし

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1 「K-2S に変更後、難治性下痢が改善した重症肺炎」共著平成 23 年 3 月日本病態栄養学会雑誌

2 「救命救急センターにおいて、早期経腸栄養剤導入の検討」共著平成 21 年 9 月最新栄養剤のトピックス

3 「脳卒中急性期嚥下障害スクリーニング (GUSS) の有用性」共著平成 21 年 8 月日本摂食嚥下リハビリテーション学会

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本病態栄養学会	学術集会参加。学術評議員。
日本静脈・経腸学会	学術集会参加。
日本在宅栄養管理学会	学術集会参加。九州・沖縄ブロック研修会参加。
日本栄養士会	総会参加。(公)福岡県栄養士福岡支部企画運営委員
日本糖尿病学会・九州地方会	不参加
福岡摂食嚥下カンファレンス	講演会 3 回に参加。世話人

平成 28 年度 研究計画

1. 栄養教育・指導論の分野

久留米市内保育所、幼稚園および認定こども園における食教育研究に参加する。

『第3次久留米市食育推進プラン』策定に向けて、調査・研究に携わる。

2. 糖尿病の分野

糖尿病療養指導士活動の継続。とくに「ふくおか市民糖尿病教室」は栄養士だけではなく、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・運動指導士など多職種との連携事業で、実行委員長の医師とともにコメディカル間の調整を図る立場であるので、昨年より洗練された内容になるように、十分な検討と準備をしたいと考えている。

3. 高齢者栄養の分野

地域連携多職種ケア会議参加と活動継続。在宅高齢者に対する栄養食事指導を実施。地域包括ケアシステムにおける管理栄養士の位置づけが定着するように努力したい。「日本在宅栄養管理学会」活動の継続。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度確認</p> <p>【成果の指標】 担当科目の学生による授業評価アンケート、問1、「居眠り」問2「質問実行」、問3「授業内容の理解」、問6「本科目目標・他科目との関連理解」、問7「毎時のテーマ・目的理解」の平均ポイントを指標とする。</p>	<p>○「居眠り」 平成 26 年度 3.7 平成 27 年度 3.8</p> <p>○「質問実行」 平成 26 年度 3.5 平成 27 年度 3.7</p> <p>○「授業内容の理解」 平成 26 年度 3.8 平成 27 年度 3.8</p> <p>○「本科目目標・他科目との関連理解」 平成 26 年度 4.2 平成 27 年度 4.1</p> <p>○「毎時のテーマ・目的理解」 平成 26 年度 4.3 平成 27 年度 4.1</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
臨床栄養学概論	フードデザイン学科 2 年	平成 27 年 6 月 12 日

自己評価	他者評価
<p>本時の内容は、栄養士として疾病の病態、成因などを理解し担うべき栄養管理の方法について習得することを目的に、さらに多職種連携におけるコミュニケーションに欠かせない基本的の共通用語について学ぶ。シラバス 9 回目「腎臓も構造と働き」であり、前回授業で学習した“腎疾患”と「臨床栄養学実習」での“ナトリウムコントロール食”と関連付けて理解することをねらいとする。学生参加型授業を工夫しているが、「給食管理実習Ⅱ」のあとの授業であるので、疲弊してなおかつ食後でもあるの</p>	<p>1. 話し方は明瞭で聞き取りやすかった。</p> <p>2. ほとんどの学生が授業に集中していたが、一部居眠りをしていた学生もおり残念だった。</p> <p>3. 配布資料は、授業内容理解のために効果的であった。また、例を引いての話など学生が興味を持っていた。板書の字も大きく見やすかった。</p> <p>4. Key word の確認と質問タイムを設けているのは学生の関心を引き起こすのに効果であった。学生は良く回答していた。</p>

で、居眠りが多い。学生の興味をそそる様な授業展開が課題である。	5. 学生が活発に楽しく学んでいた用紙だった。
	参加教員
	山下浩子教授 山村涼子准教授 生地暢講師
学生の授業評価に対する自己評価と改善策	
<p>○「総合評価」</p> <p>平成 26 年度に比較すると、評価が少し下がった点があり分析して改善努力をしたい。</p> <p>評価項目別にみると、問 1、「私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった」問 2「私は、わからないときには質問をしたり、自分で調べたりした」問 16、「授業の予習・復習をした」の項目の評価が低いので改善すべく工夫したい。</p>	
平成 28 年度 教育活動計画	
平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】</p> <p>わかりやすい授業法の工夫 学生の理解度を確認</p> <p>【成果の指標】</p> <p>学生による授業評価の問 1、2、3、6、7 により、 ①復習②目標明示③要点板書④質問・考察時間確保 ⑤理解度向上の成果をみる。</p>	<p>授業において①前回の復習②今回の目標明示 ③要点の板書④質問・考察時間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。「わかりやすい授業法の工夫」は①復習、②目標明示、③要点板書、⑤まとめを行う。「学生の理解度確認」は毎時の目標に合わせた④質問・考察時間を定時確保。⑤理解度の確認に努める。</p>

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
衛生管理と調理	27・07・26	チナミ産業	ホテルマルターレ創生
高齢者の食事	27・06・18	糸島市シルバー人材センター	糸島市健康福祉センターあごら
キレイな子どもの食事	27・06・30	更生保護女性会	西新公民館
転ばぬ先の杖	27・09・12	三菱電機	三菱電機
日本における管理栄養士・栄養士	27・08・22	北京大学他研究班	福岡薬院タタ食堂
公開講座	27・11・05	え〜るピア久留米	え〜るピア久留米
保健推進員全大会	28・01・27	みやま市	山川氏民センター
栄養士研修会	28・02・25	福精協栄養士会	ヒナタ福岡

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
CDEJ 講演会 座長	27・04・05	CDEJ 連絡協議会
福岡 LCDE 認定試験	26・09・06	福岡 LCDE
ふくおか市民糖尿病教室（11月8日）	27・11・08	福岡市医師会他
みやこ多職種連携地域ケア会議	27・04・21～毎月	みやこ医師会
特定健診保健指導	26年05・23-07・29-	トッパン印刷健康保険組合

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
給食管理	平成 27 年度前期	香蘭女子短期大学

その他特記事項

内容	年 月 日
なし	2

平成 28 年度 社会的活動計画

1. 他団体等への協力

①糖尿病療養指導士（福岡 LCDE と CDEJ 連絡会）

- ・「ふくおか市民糖尿病教室」（11月6日）・CDEJ 連絡会講演会（9月25日）
- ・福岡 LCDE 中央認定委員会（11月予定）・福岡 LCDE 認定試験（9月4日）

②特定健診保健指導（不定期）

2. 他大学への非常勤等

香蘭女子短期大学 「給食管理」（平成 28 年 4 月～平成 28 年 9 月前期、月曜日 2・3 限）

3. その他

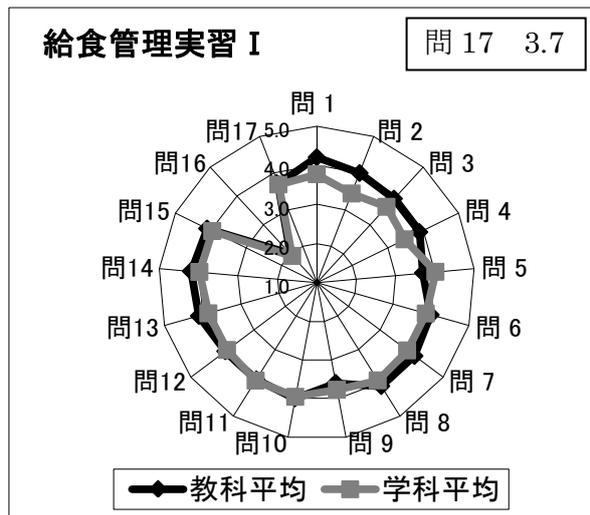
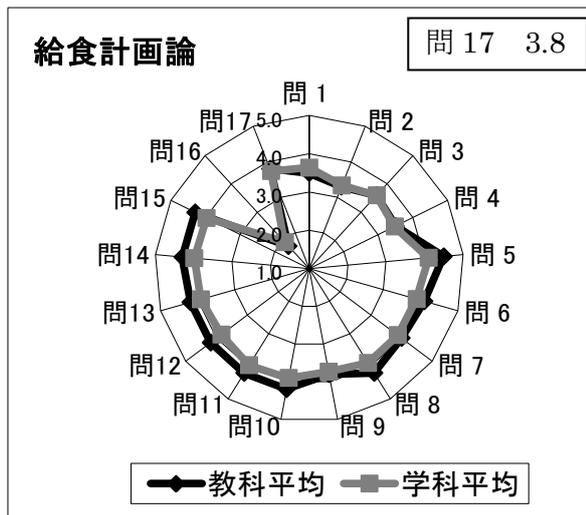
なし

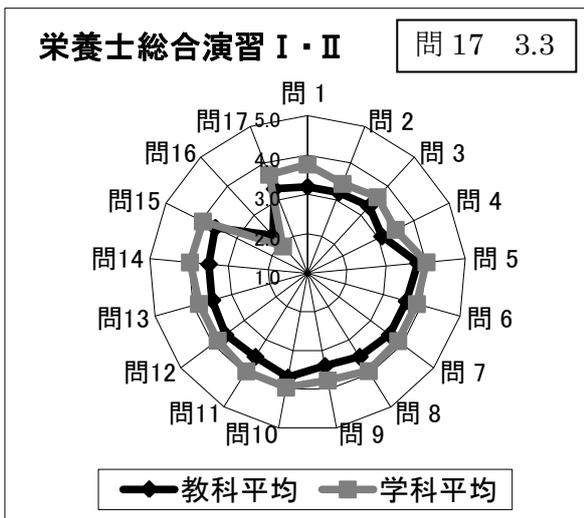
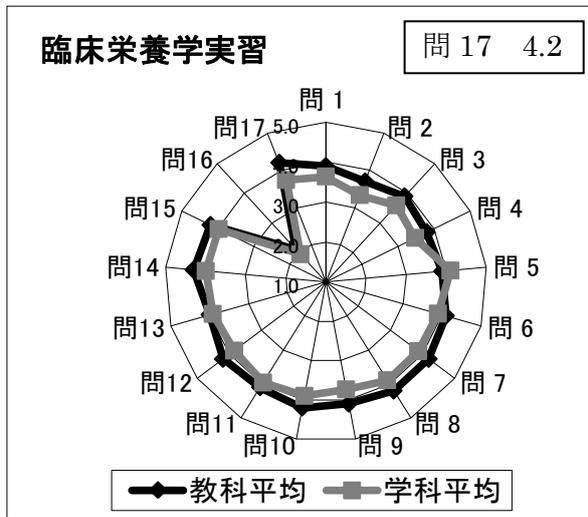
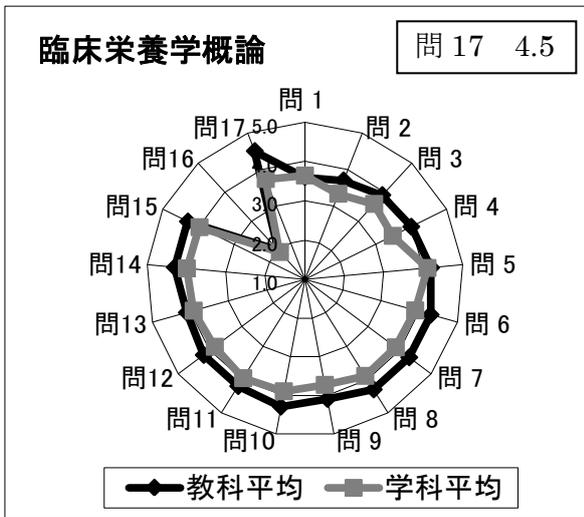
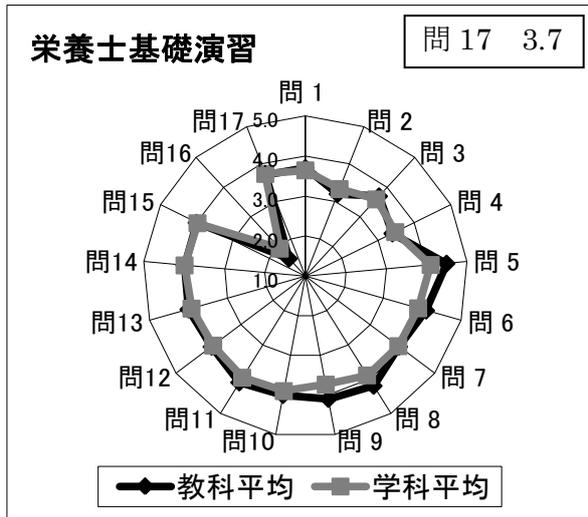
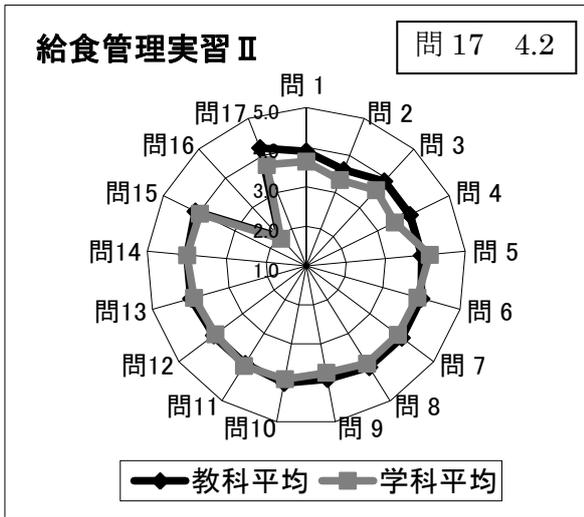
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
給食計画論	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価3.8と昨年の評価より下がり、問2「わからない時に質問または自分で調べた」(3.3)の項は低い結果であり、学習意欲を上げるべく授業改善に努める。さらに、わからない点はオフィスアワーの活用や授業終了後に質問してほしい。

給食管理実習Ⅰ	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価 3.7 問 16「この授業のために予習・復習をした」の項 (2.0) が際立って低かった。実習のために自分の担当など事前に予習をするように促しているが一部の学生任せで実習に臨んでいると推測される。実務に繋がる授業なので予習・復習を通じて知識と技能を身に付けてほしい。
給食管理実習Ⅱ	フード2年	卒業・栄養士必修	総合評価 4.2 問 2「わからない時に質問または自分で調べた」(3.6) の結果を受けて、事業中の限られた時間内で質問に答えることが出来なかった点は、実習後に質問する、または実習の予習の時点で質問するようにしてほしい。そのためには、実習の予習が重要だと思う。
栄養士基礎演習	フード1年	卒業必修	総合評価 3.7 および問 2「わからない時に質問または自分で調べた」(3.2) の結果を受けて、栄養士養成課程の導入科目として、全項目の評価が上がる授業改善に努める。わからない点、苦手な内容はそのままにせず、各担当教員に積極的に質問してほしい。
臨床栄養学概論	フード1年	卒業・栄養士必修	総合評価 4.5 問 2「わからない時に質問または自分で調べた」(3.7) の結果を受けて、比較的興味を持ってくれたと思うが、さらに学習意欲を上げる授業の工夫に勤める。わからない点など出来るだけ速やかに解決するように質問をしてほしい。
臨床栄養学実習	フード2年	卒業・栄養士必修	総合評価 4.2 問 16「この授業のために予習・復習をした」の項 (2.1) は他の教科同様低かった。実習したままにせずに臨床栄養学概論と関連づけて知識の整理をしてほしい。
栄養士総合演習Ⅱ	フード2年	卒業選択	総合評価 3.3 および問 4「この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」(3.1) の結果を受けて、栄養士養成課程の総復習科目として、学習意欲が上がる授業改善に努める。なお「配布資料は過去問題集など 1 冊にまとめたものが良い」とのコメントを参考に検討する。
校外給食管理Ⅱ	フード2年	卒業選択	昨年より希望者が多く、活発に事前課題に関する質問に来ていた。但し実習に臨む熱意に学生間で温度差があったのは残念だった。折角のチャンスを有効に活用するようにしてほしい。

所属学科	職名	氏名
幼児教育	教授	原 浩美
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
ピアノⅠ ピアノⅡ ピアノ演奏法 音楽保育 幼児問題研究セミナー 教育実習事前事後指導	幼児教育学科1年 幼児教育学科1年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科1年・2年	卒業必修・免許選択必修 卒業必修 卒業選択・資格選択必修 卒業選択・資格選択必修 卒業選択・資格選択必修 卒業選択・免許必修資格選択必修
研究分野		
<p>1. ピアノ音楽教育の分野 こどもの音楽において、ピアノ演奏が関わる技術や表現のあり方を研究。こどものピアノコンクールの審査を通して、ピアノが音楽教育に果たす役割とピアノ指導法について研究する。</p> <p>2. ピアノ演奏法の分野 演奏活動を通して表現・技術を深める研究。奏法の研究、作品のアナリゼ、演奏準備（練習）という一連の研究・実践し発表の機会を設けて自己評価する。</p> <p>3. 保育者養成の分野 保育士および幼稚園教諭の養成において、ピアノが関わる分野を研究。保育指導やその生活の中で必要とされるピアノ演奏を習得させるための有効な指導法を研究する。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. ピアノ音楽教育に関する研究
ピアノコンクールの審査を通して、こどものピアノ演奏技術・表現方法技術を考察し、評価した。
2. ピアノ演奏法に関する研究
三瀨町にある演奏会ホールである「クララザール」で演奏活動を行った。さらに地域における演奏活動の場を広げ城島インガットホールや田村音楽スタジオで演奏活動を行った。
3. 保育者養成に関する研究
①学生のピアノ演奏学習と授業評価について検討する会議を、本学非常勤講師と開いた。
②全国大学音楽教育学会、日本保育学会で発表、あるいは参加をして教授方法を研究した。

平成 27 年度の研究の成果

(演奏)

1. 「ムジカ耳納 もみじコンサート」 独奏
音楽家集団「ムジカ耳納」
田村音楽スタジオ 平成 27 年 11 月
- 2 「La Serata Musicale ～音楽の夕べ～」 独奏
クララザール 平成 27 年 11 月

(発表)

1. 「子どもの歌の弾き歌いにおける調性の問題」 共同
日本保育学会第 68 回大会 椋山女子大学（名古屋） 平成 27 年 5 月

(審査)

1. 「2016 Kawai Music Competition こどもコンクール」 単独
カワイ音楽コンクール委員会
石橋文化センター共同ホール 平成 27 年 12 月
2. 「2016 Kawai Music Competition 音楽コンクール」 単独
カワイ音楽コンクール委員会
文化センター共同ホール 平成 27 年 12 月

(その他)

1. 学生のピアノ演奏学習がより充実するように、授業時に活用できるサブテキストを非常勤講師と考案したものを 27 年度から使用。

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

平成 25 年度

(演奏)

1. 「音楽鑑賞講座 2013 (2 公演演奏)」 単独
公益財団法人久留米文化振興会
石橋文化会館小ホール 平成 25 年 7 月
2. 「原浩美ピアノリサイタル～クラヴィーアアーバント vol. 4～」 単独
原浩美ピアノリサイタル実行委員会 エーるピア久留米視聴覚ホール
平成 25 年 9 月
3. 「インガットホールロビーコンサート」 単独
インガットホール活用実行委員会
久留米市城島総合文化センターインガットホール 平成 25 年 9 月

(発表)

1. 「保育士をめざす学生の音楽的嗜好と子どもの歌に対する反応の比較」 共同
日本保育学会第 66 回大会 中村学園大学 (福岡) 平成 25 年 5 月

(審査)

1. 「2014 カワイこどもコンクール」 単独
カワイ音楽コンクール委員会
えーるピア久留米視聴覚ホール 平成 25 年 12 月
2. 「2014 カワイ音楽コンクール」 単独
カワイ音楽コンクール委員会
文化センター共同ホール 平成 25 年 12 月

平成 26 年度

(論文)

1. 「ピアノ実技指導に関する一考察 —短期大学生の実態から—」 単著
久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号 (23~31) 平成 26 年 7 月

(演奏)

1. 「ムジカ耳納の音を紡いで」 単独
音楽家集団「ムジカ耳納」
えーるピア久留米視聴覚ホール 平成 26 年 12 月
2. 「インガットホールロビーコンサート」 単独
インガットホール活用実行委員会
久留米市城島総合文化センターインガットホール 平成 26 年 11 月
3. 「連文コンサート 音楽の贈り物」 単独
久留米連合文化会
えーるピア久留米視聴覚ホール 平成 27 年 2 月

(発表)

1. 「新生児における歌声への反応に関しての一考察」 共同
日本保育学会第 67 回大会 大阪城南女子短期大学 (大阪) 平成 26 年 5 月
2. 「日本の子どもの歌曲集に見る子どもの歌の課題～調性について～」 単独
全国大学音楽教育学会第 30 回全国大会 東京ガーデンパレス (東京) 平成 26 年 8 月

(審査)

1. 「2015 カワイこどもコンクール」 単独
カワイ音楽コンクール委員会
文化センター共同ホール 平成 26 年 12 月
2. 「2015 カワイ音楽コンクール」 単独
カワイ音楽コンクール委員会
文化センター共同ホール 平成 26 年 12 月

(その他)

1. 学生のピアノ演奏学習がより充実するように、授業時に活用できるサブテキストを
非常勤講師と考案し作成した。27 年度から使用。

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

- 1、原浩美久留米市芸術奨励賞 特別賞受賞記念ピアノリサイタル 単独 グループ春の声
文化センター共同ホール 平成 5 年 2 月 24 日
- 2、『芸術のコミュニケーションテクノロジー 創造理論とその展開』共著 創元社
平成 13 年 9 月

- 3、「近・現代日本の「子どもの歌」における特徴的傾向」単著 『国際幼児教育研究 第14号』
平成19年3月
- 4、「邦人作品のピアノ曲についての一考察」単著 『九州公立大学音楽学会音楽研究 創刊号』
平成23年10月
- 5、原浩美ピアノリサイタル～クラヴィーア アーベント vol. 4～ 単独
原浩美ピアノリサイタル実行委員会 えるピア久留米視聴覚ホール
平成25年9月7日

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
国際幼児教育学会	不参加
九州公立大学音楽学会	不参加
日本保育学会	参加、口頭発表
全国大学音楽教育学会（下関）	参加

平成28年度 研究計画

1. ピアノ音楽教育に関する研究
ピアノコンクールの審査を通して、こどもの演奏技術・表現を考察し、研究を継続する。
2. ピアノ演奏法に関する研究
地域に根差した演奏活動を継続する。
3. 保育者養成に関する研究
 - ①共同研究を継続する。日本保育学会、国際幼児教育学会で研究発表する。
 - ②保育指導の中で必要とされるピアノ演奏技術を、ピアノ経験初心者に習得させるための有効な指導法の共同研究を継続する

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度を向上させる。 ・双方向の授業。 ・授業評価項目の問 16 が、全ての科目で評価ポイント 4.0 以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価する機会を数回つくり、学生が自由に意見を述べるができる環境をつくる計画は、確実に実行した。 ・サブテキストを有効に活用し、学生の音楽知識の理解を深め、技術が伴うようにする計画は、毎回の授業の中で活用した。その結果、学生の自己評価にも役立ち理解も深まってくれたと考える。 ・総合評価ポイントでは、ピアノⅠは 4.4、ピアノⅡは 4.1、ピアノ演奏法は 4.3 であった。ピアノⅡでポイントが下がった理由として、問 5、問 6、問 9 が 3 点代で問題であり、特に問 9 の項目への対策が必要との課題が明確化した。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
ピアノⅡ	幼児教育学科 1 年 B クラス	平成 27 年 12 月 17 日 1 校時

自己評価	他者評価
<p>学生一人ひとりの課題曲と向き合い、何が理解できて何が理解できていないのか、どうすれば思うように指を動かし音をリズムと共に正確に弾けるのか？を常に教師側が問題意識を持ち、学生の課題とするところを察し、適確な練習方法を提供するかが大切である。どのように声掛けをして教えるかも一人ひとり違う。従って何を提供するか厳選し続けないと学生は達成感を味わえない。練習は、地味な活動であるけれど、続けないと（積み重ねないと）技能は身につかないことを理解させること、あるいはこちらが言い続けることが弱かったかと、反省している。つつい時間に追われて弾けるようになる方法のみが優先されていたように反省する。予習復習の大切さを今後、強調したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスンのテーマは個人で異なりますが、今回の公開レッスンのテーマは、共有できるテーマ・目的を明確に説明された。 ・十分に学生の言葉を聞いて、学生から気付きを待つ間がとて素晴らしいと感じました。 ・学生の公開レッスンは、とても効果的だと感じました。学生同士に努力を認め合い、先生の指導を聞くことが出来るので得した気分になります。 ・少グループ形式から学生間、学生と教員の双方向授業が実践されていた。 ・共に学ぶ、という課題への取り組みが学生に互いに評価させるなど、よく工夫されていてうまくいっているように感じました。 ・学生は、適度に緊張し、また時々リラックスもして授業にきちんと関わっていたと思います。 <p style="text-align: center;">参加教員</p> <p>眞部真紀子准教授、重永茂准教授、 生地篤講師</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと練習する時間がほしかった」と意見する学生がいた。90 分に 5 人の学生の配置が決まっている現状では、どうすることも出来ないが、特に復習することを次回から強調したいと思っている。 ・問 5 が前期から後期へのポイントが下がった。ほぼ時間通りに始まりほぼ時間通りに終わるといった評価が下がったことを受け、今後一層の時間厳守を遂行しないとイケないと反省します。ただ、どうして

も多数の非常勤講師との打ち合わせなどがあるので、その時間も見直さなければならないと感じている。

・問9 もいつも、ポイントが下がっており、総合評価にも影響するが、個人レッスンで狭い部屋の中では板書はできない。視聴覚機器の使用も頻繁にすると、個人の時間が益々減っていくので、この設問は個人レッスンには、厳しい内容です。しかし、何か他で対応できるような事項を非常勤講師と話し合い、学生に説明が出来るようにしたいと考えている。

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言

- ・学生の向上心が上がる環境づくり。
- ・授業評価の評価ポイントが 4.5 以上になることを目指す。

平成 28 年度の教育力向上のための計画

- ・学生の理解度を常に確認しながら、弾けるようになる練習の方法を具体的に教える。
- ・学生とコミュニケーションを図って、説明と練習方法を確認させ、弾けた喜びを味わう事の出来る授業を心がける。

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米市文化芸術振興審議会委員	平成 26 年 4 月 ～平成 28 年 3 月	久留米市
久留米音楽協会 NPO 理事	平成 26 年 4 月 ～平成 28 年 3 月	特定非営利活動久留米音楽協会
カワイこどもコンクール審査・講評	平成 27 年 12 月	カワイ音楽コンクール委員会
久留米連合文化会理事	平成 26 年 4 月 ～平成 28 年 3 月	久留米連合文化会
久留米シティプラザ記念演奏会「第 9 合唱」ピアニスト	平成 27 年 10 月 ～平成 28 年 5 月	久留米市民オーケストラ

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
音楽Ⅰ・音楽Ⅱ・表現Ⅰ	平成 27 年 4 月 ～平成 28 年 3 月	近畿大学九州短期大学通信教育部
ピアノレッスン	平成 27 年 4 月 ～平成 28 年 3 月	共生館国際福祉医療カレッジ

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 28 年度 社会的活動計画

(他団体への協力)

1. 久留米市芸術振興審議会委員 (奨励賞選考委員)
2. 久留米音楽協会 NPO 理事
3. カワイこども・音楽コンクール審査
4. 久留米連合文化会理事
5. 高等教育コンソーシアム広報交流部会部会長

(他大学への非常勤)

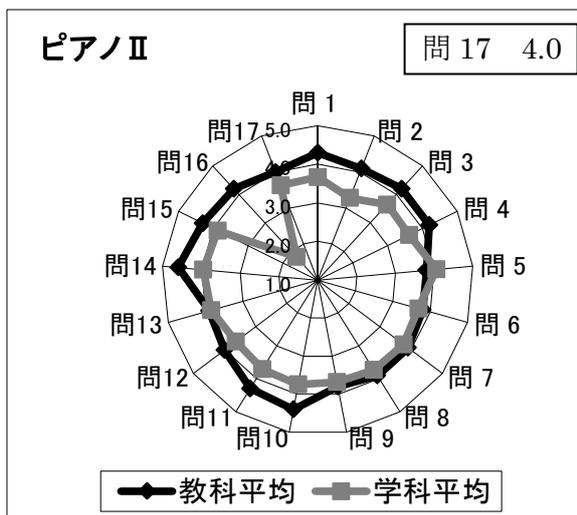
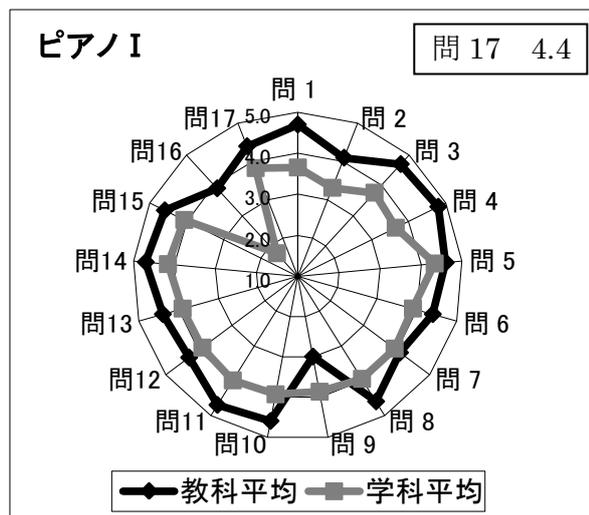
1. 近畿大学九州短期大学通信教育部
2. 共生館国際福祉医療カレッジ

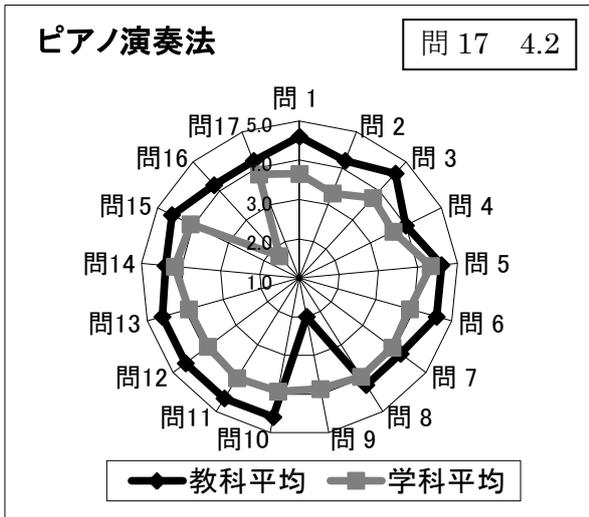
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
ピアノ I	幼児教育 学科 1 年	卒業必修	個々の学生に合わせた指導を行う中で、特にピアノを苦手とする学生の声掛けと練習方法を具体的に指導し苦手意識を取り除くことに重点を置く。
ピアノ II	幼児教育 学科 1 年	卒業必修	保育生活の中で音楽の重要性を理解させ、その手助けのためのピアノ演奏を具体的に指導する。その結果として演奏技能が身につくことを考える。
ピアノ演奏法	幼児教育 学科 2 年	卒業選択 資格選択	保育現場で使用するであろう楽曲（ジャンルは不問）を選択させ、演奏できる喜びや達成感を味あわせる。その上で技術が身につくような配慮をする。
音楽保育	幼児教育 学科 2 年	資格選択 必修	受講生が途中で履修をやめた結果を踏まえて、学生が学びたい内容を取り上げ、学生の興味・関心を引き出せるような授業の工夫をする。

所属学科	職名	氏名
ビジネス キャリア学科	教授	樫山フミエ
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
キリスト教概論 同 上 同 上 生活と文化 (3回)	ビジネスキャリア学科1年 フードデザイン学科1年 幼児教育学科1年 ビジネスキャリア学科1年	卒業必修 卒業必修 卒業必修 選択
研究分野		
<p>1 聖書に関する研究 マタイ福音書のメッセージは何かを研究・考察する。 福音書中、イエスと人々の出会いの場面を考察し、各自の出会いを考察し、実践研究していく。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 聖書に関する研究

本学研究紀要第 39 号に投稿する予定のマタイ福音書の研究をまとめた。

担当科目の聖書（旧約・新約）の研究を推進し、受講者の理解を深めるよう研究した。

平成 27 年度の研究の成果

なし

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「聖書のみことば」について (5) 「疲れた者、重荷を負う者はわたしのもとに来なさい」 単著 平成 26 年 3 月 『和歌山信愛女子短期大学『信愛紀要』第 54 号』(1-6)
2. 「聖書のみことば」について (6) 「あなたはわたしの愛する子」 単著 平成 27 年 3 月 『和歌山信愛女子短期大学『信愛紀要』第 55 号』(1-6)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 「家政現象解明への一視点」 単著 久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 4 号昭和 56 年 3 月
2. 「カトリックの典礼と祭服」 単著 久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 18 号平成 7 年 3 月
3. 「衣生活についての一考察 (3)」 単著 久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 23 号平成 12 年 3 月
4. 「心の教育についての一考察 (4)」 単著 久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 30 号平成 19 年 3 月
5. 「聖書のみことば」について (1) 単著 和歌山信愛女子短期大学「信愛紀要第 50 号平成 22 年 7 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本カトリック教育学会	全国大会参加

平成 28 年度 研究計画

- ・聖書の研究、特にマルコ福音書について研究する
- ・担当科目の教授方法の研究

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
1. 言葉、内容をはっきりさせる 2. 聖書のみことばを実生活に生かすよう理解させる	1. 聖書、キリスト教用語に馴染みのない学生が多く、教える側にその認識が足りなかったということが、授業評価にはっきり出ていた。大いに改善を要することを実感した。アクティブラーニングを試みたが、方法その他工夫が足りず、全然効果がなかった。 2. みことばを生きていく事は生涯の課題であるが、まずは理解させることが大切なので、教授方法の改善に努力することが望まれる。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
キリスト教概論	フードデザイン学科 1 年	平成 27 年 6 月 15 日 (月) 2 校時

自己評価	他者評価
私語の少ないクラスで授業はやり易かった、が、積極的な質問がなかったのはしにくい内容だったからだと思う。専門科目のように具体的に明確な答えが出しにくいという点も、質問の少ない理由だと思う。最後の方で居眠りする学生がいたことは話し方にも問題があったと思う。	・導入部で前回の復習があったので流れがわかりやすくよかった。 ・少し早口になるところがあったが、繰り返し強調されたのはよかった。 ・聖書の本文は複数名読ませると、学生も理解しやすいのではないかと。 ・授業の最後の振りかえりをノートさせたのはよかった。
	参加教員 江越和夫教授 山下浩子教授 眞部真紀子准教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

学生の授業評価に対しては大いに反省させられた。科目の性質上、授業のやり方では常に困難さを実感するが、一方的になり易い内容を、双方向授業にできないかとアクティブラーニングを試行してみたが、全くの失敗であった。大いに改善を要する。改善策としてはマイクを用い、パソコンを活用し、語句の説明も繰り返す事、部分的にアクティブラーニングを取り入れ、自主的な学習も実施していく。全然基礎的知識のない学生たちへの説明は、繰り返すことの大切さを再認識して授業をしていきたい。

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
【目標】 ・聖書に興味・関心を持たせる。そのために授業の中で本文をよく読ませる。 ・馴染みのないキリスト教用語をわかりやすく説明する。 【成果の指標】 問 3 「私は、授業の内容を理解することができた」 問 10 「教科書、参考書・・・は、授業を理解するのに役立った」の項目を向上させる。	視聴覚教材を用い興味、関心を持つよう工夫する。一方的な講義になり易いので、視野を広げさせる工夫をする。

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
なし			

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
なし		

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
なし	

平成 28 年度 社会的活動計画

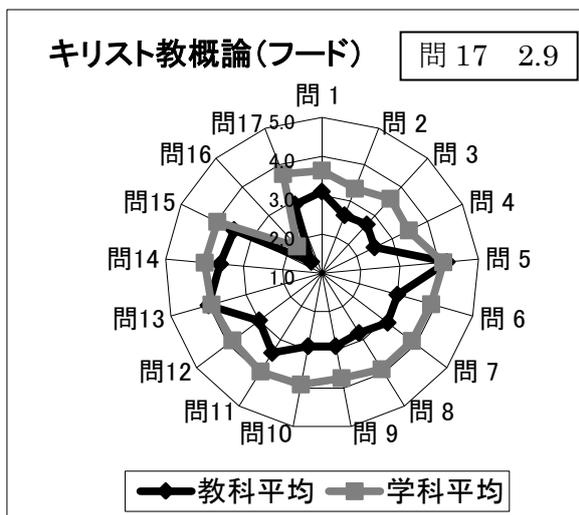
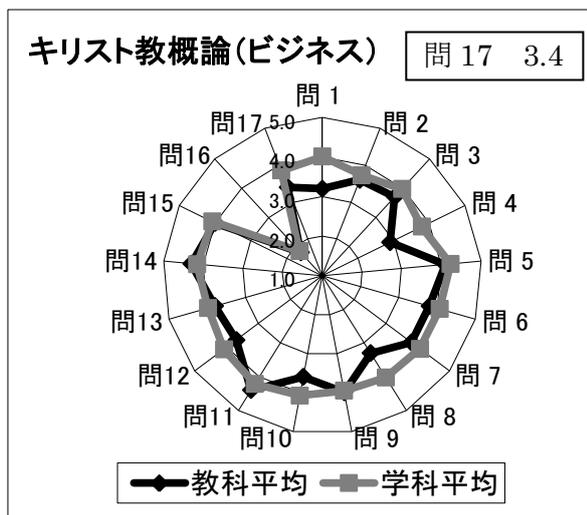
なし

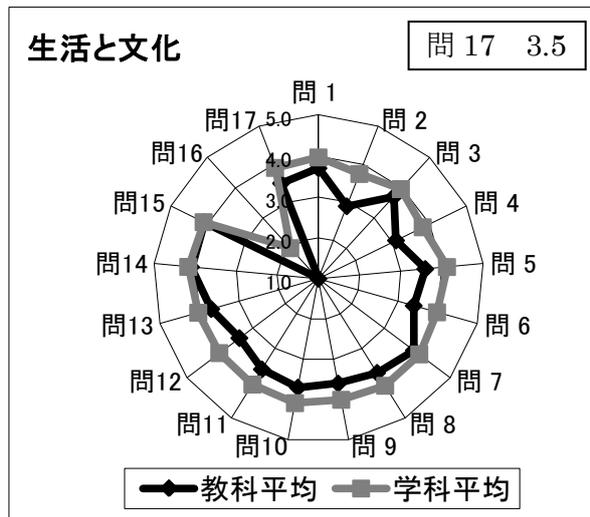
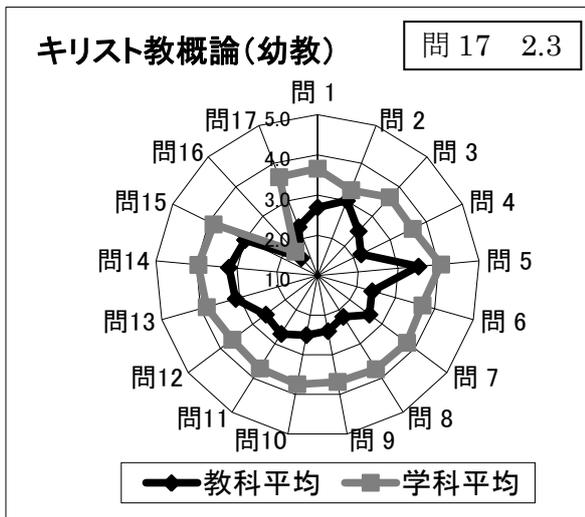
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
キリスト教概論	幼児教育 学科 1 年	卒業必修	マイクを使ってはっきりと話すこと。キリスト教用語に馴染みのない学生なので、繰り返し説明する必要がある。一方的に成り易い科目なので、アクティブラーニングの手法を取り入れたが、双方の理解が不十分で失敗であった。工夫を要する。
キリスト教概論	フードデザイン学 科	卒業必修	専門科目のような必修的感覚がないようで授業に集中させることが困難であった。さらに、聖書の本文と人間性を関連付けて教えていく必要がある。
キリスト教概論	ビジネス キャリア 学科	卒業必修	授業は静かで真面目であったが、専門科目のような興味・関心はないようで勧めても予習・復習はほとんどやっとなかった。工夫を要する。

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	教授	森光義昭
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
保育原理 教育原理 保育方法・原理 教職基礎論 保育・教職実践演習（幼稚園）	幼児教育学科 1年 幼児教育学科 1年 幼児教育学科 1年 幼児教育学科 1年 幼児教育学科 2年	卒業・保育士必修 教職必修 教職必修 教職必修 教職必修
研究分野		
<p>1. 教育学 学校という組織が機能するために、組織成員の役割を明確にし、学務分掌における機能化を図る手立ての研究を行う。</p> <p>2. 保育現場との連携 大学における理論研究と保育現場における実践研究との連携を図ることによって、教材開発を目指し、授業改善を推進していく。</p> <p>3. 自主研修 教育学会における研究テーマと関連しながら保育の在り方を求めて、自らが設定した研究課題に取り組むことによって課題解決を図っていく。</p> <p>4. 保育者養成 保育者にとって最も重要なことは何かを常に自分自身に問いかけることができるような学習課題を設定し、学習課題に取り組ませるための方策を探る。</p> <p>5. 教材開発 保育者養成のために、保育現場とは異なった高等教育機関としての目標に照らした教材の在り方を研究し学生に供する。</p> <p>6. 授業改善 これまで大方大学で行われてきた講義形式の授業にとらわれず、学生が意欲をもって学習に取り組むための授業の在り方を研究する。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 社会の変化に対応した保育観の在り方

教員養成課程における授業改善を図る目的で、現職教員（幼稚園教諭）の保育観の実態把握に努め、現代社会の特徴に照らして教材開発を行う。

平成 27 年度の研究の成果

1 「道徳性を育む日本昔話の教材化」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』（7～15）

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

（論文）

1. 「教員免許状更新講習の役割」共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』（41～50）

2. 「教職における実践的力量形成のための授業実践」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』（59～68）

本教員の主たる研究の成果（5 編以内）

「幼児教育における絵本教材化の観点」（共著）第 33 号研究紀要（P. 41～P. 50）

「幼児教育に関わる認識の実態」（共著）第 34 号研究紀要（P. 75～P. 84）

「保育・教職実践演習（幼稚園）の授業展開と課題」（共著）第 35 号研究紀要（P. 57～P. 66）

「教員免許状更新講習の役割」（共著）第 36 号研究紀要（P. 41～P. 50）

「教職における実践的力量形成のための授業実践」（共著）第 37 号研究紀要（P. 59～P. 68）

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本教育経営学会	不参加
九州教育経営学会	参加

平成 28 年度 研究計画

「保育課題の明確化と主体性を養う授業実践の試み」

現代社会の特徴の一つに豊物社会がある。市場には物が溢れ出し、欲するものはほとんど手に入れることができる時代になっている。そのため、各個人が成育の過程において努力なしに手にしてきた経緯がある。そのような生活習慣から、今の青年は自主的に取り組む姿勢が十分に育っていない傾向にある。したがって、授業を受ける姿勢も与えられた課題には真剣に取り組むが主体的に課題を発見し、その課題に取り組もうとする姿勢が不十分である。そこで、本研究では学生が学習課題を設定して取り組むことを習慣化してく手立てを模索する。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 学習課題を意識し、主体的に学習に取り組むための授業改善を図る。</p> <p>【成果の指標】 授業評価アンケートの間 2「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」 間 3「私は授業の内容を理解することができた」間 16「私はこの授業のために一週間あたり () 分、予習・復習した」の項目の評価を向上する。</p>	<p>学習前の課題意識の把握の仕方にかかわる指導が不足した感がある。今後は改善点をさらに加えることによってさらに学習効果を高めていかなければならない。</p> <p>「保育・教職実践演習（幼稚園）」</p> <p>間 2 平成 26 年度 3.3 → 平成 27 年度 3.4 +0.1</p> <p>間 3 平成 26 年度 3.5 → 平成 27 年度 3.6 +0.1</p> <p>間 16 平成 26 年度 1.3 → 平成 27 年度 1.4 +0.1</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
保育・教職実践演習（幼稚園）	幼児教育学科 2 年 B クラス	平成 27 年 12 月 7 日（月） 1 時限 バイオレット

自己評価	他者評価
<p>本科目は授業形態が「演習」であるので、学生の主体的な活動を重視していく授業展開を試みている。</p> <p>そこで、「演習形態」の授業では発表のベースをつくる目的で個人思考の時間を十分に確保し、発言の根拠となるものを作り出す。</p> <p>さらに、表現力を身につけるためにグループ活動を重視し、積極的に発言できる力を身につける。</p>	<p>学習過程が明確化されており学生は活動の見通しができていた。</p> <p>学習課題の提示が適切であり、効果的な演習がなされた。</p> <p>学生のディスカッションに積極性がみられ、学習効果が高まった。</p>
	<p>参加教員</p> <p>Sr. 阿久根政子教授・原浩美教授・池田可奈子准教授・渡辺由恵講師</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

学生も個人差があり、発言力に差異がある。コミュニケーション力と合わせて、自分の考えを他者に表現する力を養わないと、思っていることを十分に他者に伝えることはできない。現代における若者の実態は、指示待ち人間や想像力や表現力の不足の面が懸念されている。そこで、学生が積極的に活動するための方策を工夫していかなければならない。そこで、個人活動から全体討論に学習過程が移行する段階に中間的に小集団（グループ）活動を取り入れて、発言しやすい雰囲気をつくる。

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>学習方法の在り方を研究し実践する。</p> <p>学生が教職に関わる課題を日常的に関心を持つようにするために、次時の学習内容に関連したことをマスコミ等で取り上げられた内容を授業で活用できるようにする。そのことによって、間 2 の「私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした」の質問項目を 3.0 以上に引き上げる。</p>	<p>グループ討論の時間を設定し、発言しやすい雰囲気をつくって、表現力の向上を目指す。</p>

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
なし			

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
なし		

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
なし	

平成 28 年度 社会的活動計画

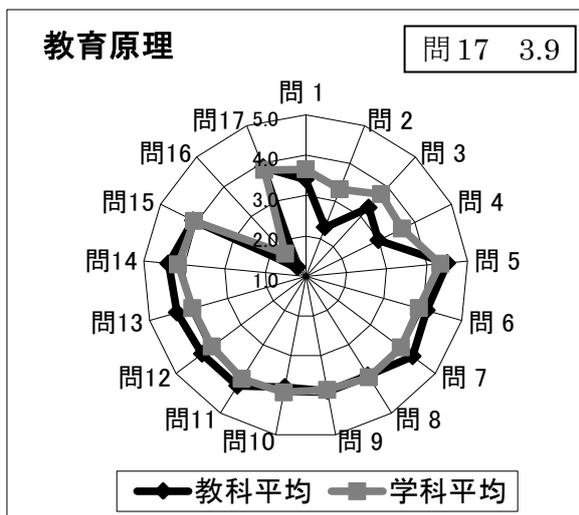
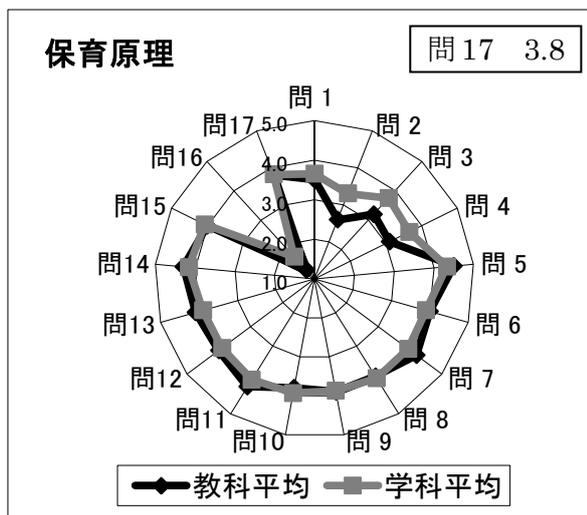
なし

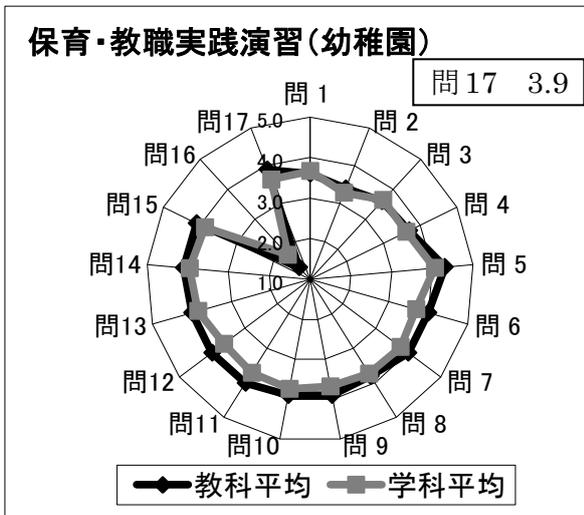
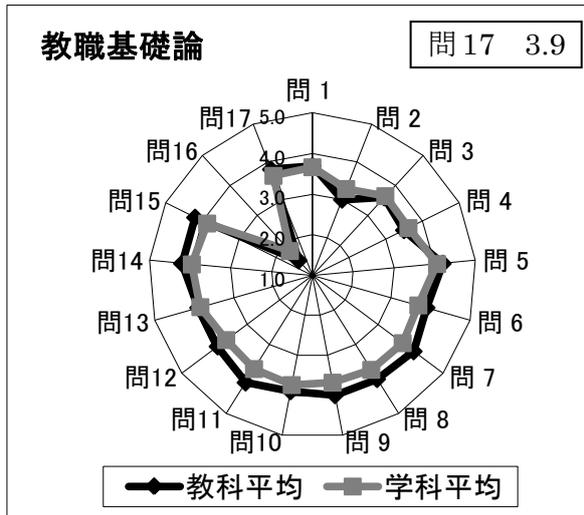
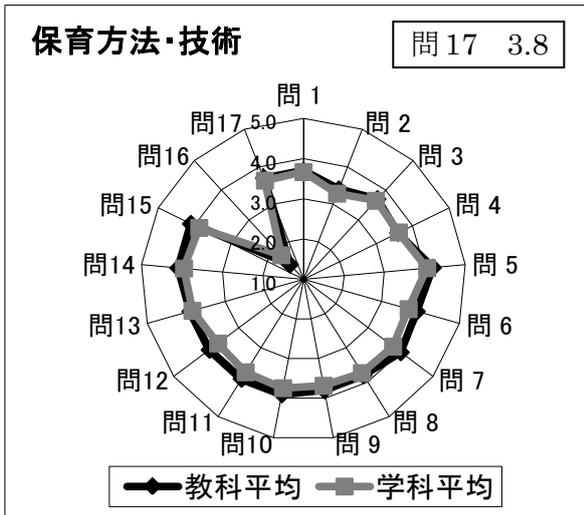
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
保育原理	幼児教育 学科1年	卒業必修 資格選択	学習意欲を喚起するために、信愛幼稚園の実習参加の体験を学習課題として設定した。事前の予習や復習するための工夫をしなければならない。
教育原理	幼児教育 学科1年	卒業選択 教職必修	教育全般にわたる学習課題を設定し、保育現場との課題に関連を持たせて学習を進めたので、学習意欲が増し、積極的に学習に参加することができた。
保育方法・技術	幼児教育 学科1年	卒業選択 教職必修	保育課題を設定し、保育実習の体験をもとに討論を行ったので、話し合いに積極的に参加することができた。今後は発表の機会を木曜にする。
教職基礎論	幼児教育 学科1年	卒業選択 教職必修	教師全般に関わる資質や能力の問題を学習課題に取り上げたので、教師になるための意識づけができた。予習や復習の手立てを考えなければならない。
保育・教職実践演習 (幼稚園)	幼児教育 学科2年	卒業選択 教職必修	保育現場における課題の設定を学習の基盤におき、教育実習及び保育実習の体験を基に学習を進めたので積極的に参加し、討論することができた。

所属学科	職名	氏名
幼児教育	准教授	重永 茂
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
社会的養護内容 児童家庭福祉 社会福祉論 相談援助 社会福祉概論 幼児問題研究セミナー	幼児教育学科2年生 幼児教育学科1年生 幼児教育学科1年生 幼児教育学科2年生 フードデザイン学科2年生 生 幼児教育学科2年生	保育士必修 卒業・保育士必修 保育士必修 保育士必修 栄養士必修 卒業選択
研究分野		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童問題への福祉的アプローチ ・ 障がい児をめぐる動向 ・ ボランティア活動実践の意義 ・ 公的扶助の動向 		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

施設実習に関する学生の意識の変化をもとにした実践課題の考察

平成 27 年度の研究の成果

(報告)

1. 「本学社会人学生とその支援制度に対するアンケート調査」共著 平成 27 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』(69-78)

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(研究ノート)

1. 『施設実習に関する幼児教育学科の意識調査』共著 平成 25 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』(56-61)
2. 『施設実習の前後での本学幼児教育学科学生の意識調査』共著 平成 26 年 7 月
『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』(69-76)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 「幼児教育学科学生のボランティア活動に対する意識と課題」共著 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 34 号』(85-96) 平成 23 年 9 月
2. 「東日本大震災の幼児教育学科学生のボランティア活動に対する意識の変化」共著 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 35 号』(67-81) 平成 24 年 7 月
3. 「施設実習に関する本学幼児教育学科学生の意識調査」共著『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』(55-56) 平成 25 年 7 月
4. 「施設実習の前後での本学幼児教育学科学生の意識調査」共著『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 37 号』(69-76) 平成 26 年 7 月
5. 「本学社会人学生とその支援制度に対するアンケート調査」共著 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』(69-78) 平成 27 年 7 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本地域福祉学会	不参加

平成 28 年度 研究計画

- ・ ボランティア活動の社会的意義
- ・ 公的扶助の在り方をめぐる動向
- ・ 施設実習を通じた意識の変化及び背景

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・双方向授業への工夫 ・理解状況の確認の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目間により上下はあるが「質問」が 2.8～3.1 と低下傾向がみられた。質問しやすい雰囲気への配慮等、工夫した取り組みの必要性を感じた。 ・「理解」は全科目にわたり、2.8～3.2 と特に改善を要する項目と感じている。理解度確認の為のレポート提出等の工夫により、個々の学生、学生共通の理解不足と思える点を中心に補足・再説明等を実施していく。 ・授業開始・終了時の質問タイム、理解度確認は不十分であった。必要に応じた再説明は実践できた。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
社会福祉概論	フードデザイン学科 2 年	平成 28 年 1 月 18 日 (月) 1 講時

自己評価	他者評価
近年の児童家庭福祉の現状の一端として、「障がい児」に関する基本的理解を主眼として授業を行ったが、やや時間的都合から急ぎ足となり、理解の再確認（質問時間等）が不十分であった。	授業開始時の前週のふりかえりとタイムリーな社会的話題が良かった
	参加教員
	S r . 阿久根教授、多田内教授、三原准教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

平成 26 年度の授業評価（児童家庭福祉）では、幼児教育学科 1 年生のクラス単位での講義において、平均値に 1.03 強の差がみられた。シラバスに沿って、同様の内容を心掛けたが、その原因及び改善を期し、公平な内容に基づく理解度の確認を強く感じた。
--

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 27 年度の教育力向上のための計画
【目標】 ・双方向授業への工夫 ・理解状況の確認の徹底 【成果の指標】 問 2 「私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした。」と問 3 「私は、授業内容を理解することができた。」の項目の評価を上げる。	前週の要点を説明と共にふり返し、当該週との関連のもと確かな把握、深い理解へ結びつける。

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
児童福祉論	4月1日～9月30日	熊本大学
社会福祉援助技術論Ⅳ	10月1日～3月31日	熊本大学

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 28 年度 社会的活動計画

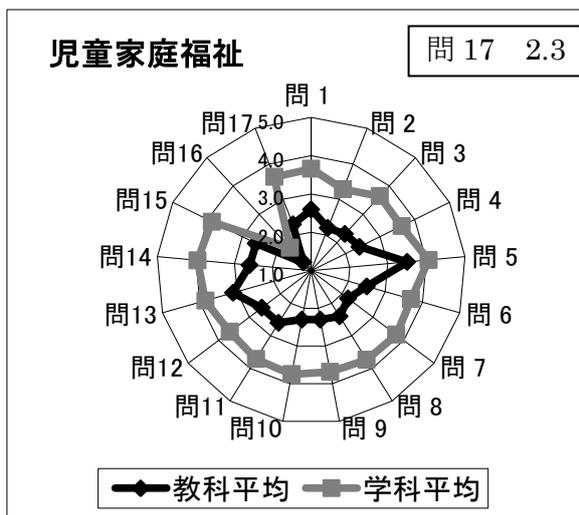
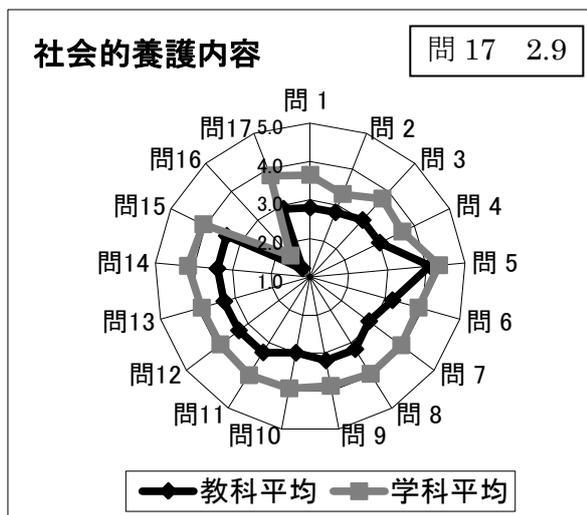
--

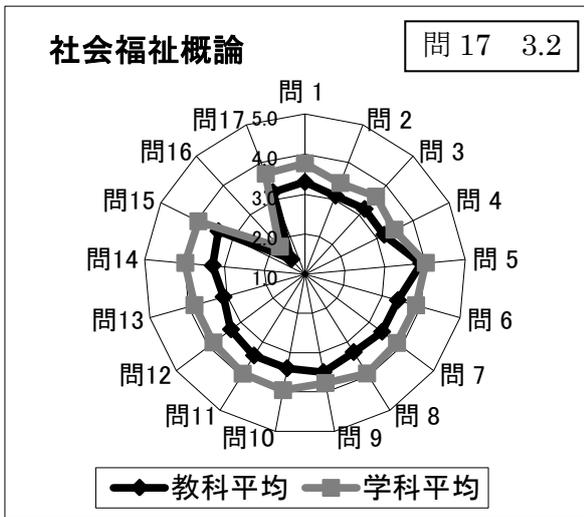
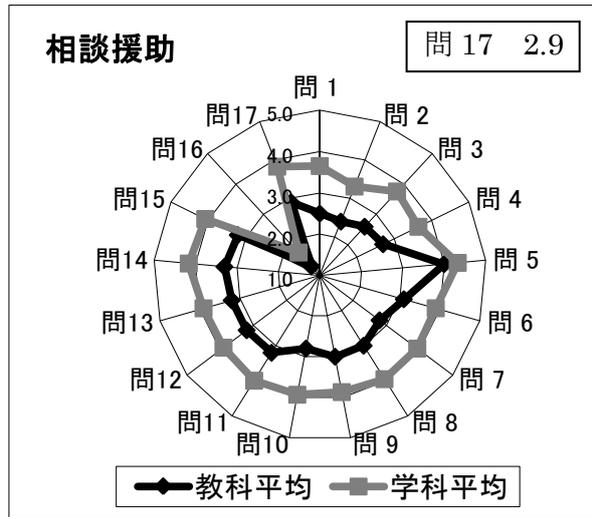
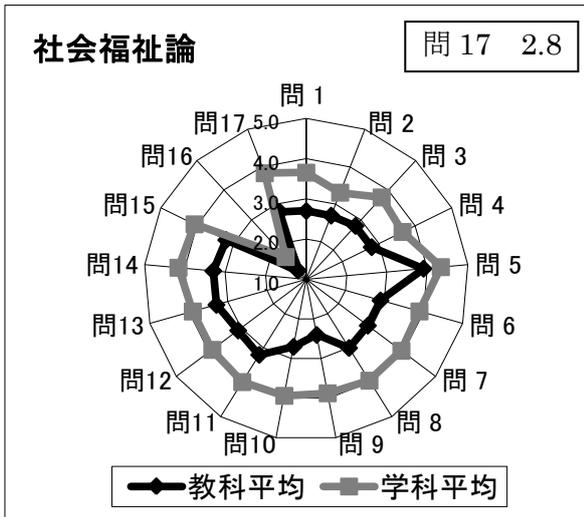
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
社会的養護内容	幼 2	必修	質問に関する平均値が 2.8 と低いことから、質問しやすい雰囲気及びその方法の工夫等を改善し、確かな理解へつなげていきたい。
児童家庭福祉	幼 1	必修	毎回の授業のテーマや目的に関する数値が 2.8 と低いことから、前回との関連等、開始時に時間を割いて効果的な授業へつなげていきたい。
社会福祉論	幼 1	必修	「板書の仕方を解りやすく」というコメントを受け、ポイントを明確にする等、改善・工夫していきたい。
相談援助	幼 2	必修	質問に対する平均値が 2.6 と低かった事から、些細なことも疑問として積み残さないよう質問（再確認）していける雰囲気づくりを心掛けていく。
社会福祉概論	フード 2	必修	他の項目に比べ、質問に関する項目が 3.1 と低めであった事から、自由に、些細な事柄の再確認も含め、質問できる時間を設けていきたい。

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	准教授	進藤 務子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
幼児音楽Ⅰ	幼児教育学科 1年	卒業・教職・保育士必修
幼児音楽Ⅱ	〃 1年	卒業・教職・保育士必修
幼児音楽Ⅲ	〃 2年	卒業・保育士選択
音楽保育	〃 2年	卒業選択・資格選択必修
保育実習Ⅰ	〃 1年・2年	保育士必修
保育実習指導Ⅰ	〃 1年・2年	保育士必修
研究分野		
<p>1.宗教音楽学の分野 カトリック学校における音楽教育に関する研究。人間教育としての音楽の関わり特に、礼拝や教育活動を通しての美育への価値観について研究している。</p> <p>2.パイプオルガン演奏法の分野 日本オルガニスト協会に所属し、オルガン音楽の普及と発展の為に実践的研究を行っている。</p> <p>3.保育者養成の分野 保育士及び幼稚園教諭の養成に関する研究。保育者養成における実習について、保育実習指導を中心に研究を行っている。</p> <p>4.幼児音楽教育の分野 幼児音楽教育法に関する理論研究及び指導法について、保育者養成の視点から研究を行っている。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 宗教音楽教育に関する研究

現代のカトリック学校の使命である「心の教育」の考察を通して、芸術と宗教の重要性に関して研究を進めている。特に、カトリック学校の保育者養成における幼児期の音楽教育について、「心をはぐくむ幼児音楽教育—第 3 章『霊的遺産としての音楽継承』—」を執筆中である。

2. オルガン演奏法に関する実践的研究

日本オルガニスト協会に属し、日本における最近のオルガン仕様及びオルガニストの動向に目を向け、歴史的オルガン演奏法を学びつつ、新時代での創造的演奏法について研究を行った。演奏法に関する実践は、久留米カトリック教会、久留米幼きイエズス修道院、本学の宗教行事及び礼拝時に行った。

3. 保育士養成に関する研究

平成 27 年度から新しい子ども・子育て支援制度が始まり、社会全体からも保育者の質の向上が期待されている。『信愛保育研究会』での研修を深め、「今、保育者に求められているものは何か」「信愛保育とは何か」について学生に学ばせるよう指導法を研究し、実践を行っている。

4. 幼児音楽教育に関する研究

幼児音楽教育法に関しては、テーマ「弾き歌いの実践力アップ」の指導法を継続研究している。また、新しいテーマとして「音楽保育」に関する研究を行った。保育における幼児音楽教育の果たす役割を学生達に学ばせ、自信を持って保育現場に立てるよう指導法の研究を重ねている。さらに学校教育における科目「英語」をめぐる社会の動向について学び、近い将来、幼児期で行われる「歌遊び」としての英語教育について研究を行っている。イギリスやオーストラリア等の幼児音楽教育先進国でのカリキュラム研究を進めている。

平成 27 年度の研究の成果

(研究ノート)

1. 「音楽教育課程における保育者養成の為の実践的指導法」単著 平成 27 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』(59～67)

(報告)

2. 「本学社会人学生とその支援制度に対するアンケート調査」共著 平成 27 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号』(69～78)

(テキスト)

1. 「実習の手引き」 共著 平成 27 年 4 月 改訂

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

本教員の主たる研究の成果（5編以内）

1. 「日本・キリシタン音楽教育の原点—南蛮文化との出会い；イエズス会士 A. ヴァリニャーノによるミッション教育の軌跡の探訪—」単著 平成 19 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 30 号』
2. 「心をはぐくむ幼児音楽教育—第 1 章『創造性と幼児音楽教育』」
単著 平成 22 年 9 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 33 号』（29～34）
3. 「心をはぐくむ幼児音楽教育—第 2 章『子どもの感性と音楽の精神世界』」
単著 平成 24 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 35 号』（41～48）
4. 「パイプオルガンコンサート」（単独演奏会）平成 16 年 5 月広島 世界平和記念聖堂
5. 「ザビエル生誕 500 年記念パイプオルガンコンサート」（単独演奏会）平成 18 年 10 月
久留米信愛女学院短期大学講堂

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本オルガニスト協会（学会）	不参加
キリスト教礼拝音楽学会	不参加
日本音楽教育学会	不参加
全国保育士養成セミナー	不参加

平成 28 年度 研究計画

1. 宗教音楽教育に関する研究
カトリック学校における音楽教育に関して研究を行う。
2. オルガン演奏法に関する研究
パイプオルガンの演奏法に関して実践的研究を行う。
3. 保育士養成に関する研究
保育士養成に関して共同研究を行う。
4. 幼児音楽に関する研究
幼児音楽に関して保育者養成の視点から研究を行う。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>[目標] 学生の実践力アップの授業改善</p> <p>[成果の指標] ・「幼児音楽Ⅰ」「幼児音楽Ⅱ」「幼児音楽Ⅲ」「音楽保育」4つの授業科目の学生による授業評価の間2.「私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした」の項目の評価をアップする。</p>	<p>・幼児音楽Ⅰ 平成 26 年度 4.0 平成 27 年度 4.4 +0.4</p> <p>・幼児音楽Ⅱ 平成 26 年度 4.1 平成 27 年度 3.9 -0.2</p> <p>・幼児音楽Ⅲ 平成 26 年度 4.2 平成 27 年度 4.0 -0.2</p> <p>・音楽保育 平成 26 年度 4.1 平成 27 年度 4.8 +0.7</p> <p>＋の教科もあれば、－の教科もあり、引き続きこの目標を掲げたい。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
幼児音楽Ⅰ	幼児教育学科 1 年 B クラス (必修)	平成 27 年 7 月 7 日 (火)

自己評価	他者評価
<p>・本クラスはこれまでの音楽経験が乏しく、全くピアノが弾けず入学してきた学生(40名)がほとんどである。入学後3ヶ月が経過した本日の学生の様子を参観して頂き、授業の内容及び指導法の問題点、改善策等のアドバイスを頂きたく、あえて公開授業のクラスに選んだ。授業内容は手遊びのグループ発表、本日の課題曲2曲を人前で発表するものである。さらに、来週の課題の練習方法の指導を行い、練習意欲を高めることがねらいである。</p> <p>・自己評価・・・学生は、参観者を意識し、グループ発表及び個人演奏共に、良く準備を行い、日々努力した成果が現れていた。今後、音楽的基礎技能の習得に向け、全学生が初心者である現状を克服していけるかが課題である。</p>	<p>・テーマや目的、アドバイスなどわかりやすい説明であった。</p> <p>・手遊びの媒体やピアノ等、学生がその場のステーションやピアノ演奏に慣れるよう仕込んであって有効だった。</p> <p>・ノートのチェックがなされていて、書き方や良い点の見本を示し参考にさせるなどよかった。</p> <p>・担当者の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。</p> <p>・上達の努力を認めた発言や学生の自主性を引き出す様子が良かった。</p> <p>・保育現場での注意点の説明がよかった。</p> <p>・身体を伴った活動の取り入れた授業であったので、躍動的で活気のある楽しい授業だった。</p> <p>・音楽経験の無かった学生をここまで育てられたのはすごいと思った。一年後、また参観してみたい。</p>
	<p>参加教員</p> <p>石井妙子教授 檜山フミエ教授 森光義昭教授</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

<p>・平成 27 年度は「幼児音楽Ⅰ～Ⅲ」「音楽保育」の科目の授業改善に取り組んだ。特に、授業評価アンケートの間2「私は、わからない時には質問したり、調べたりした」の項目に力を入れた。具体的な改善策として、図書館の利用を促し、ノート作りの充実を計った。歌の意味や背景を知り幼児の発達段階にしっかり注意を払った教材研究や実践的な指導計画を2年間の努力の蓄積として捉え、即戦力を持った保育者として養成する為に、不可欠な要素となる。全学生が音楽経験が乏しく、ほとんどピアノ演奏の初心者である現状を克服し、意欲的に演奏技術習得に向けて努力する姿勢を身に付けさせたいと考えている。</p>
--

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>[目標] 学生の実践力アップの授業改善（継続） [成果の指標] 授業評価アンケートの問 2「私は、わからない時には質問したり、自分調べたりした」の項目の評価を向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート作りを充実させる。 ・練習時間チェックカレンダー作成させる。 ・習熟度に対応した指導を強化する。 ・常に学外実習や就職試験を念頭に置いて授業に臨むよう充分配慮する。 ・図書館と連携をとる。

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携講座「音楽で遊ぼう」 ・高大連携講座「子どもにとっての音楽」 	平成 27 年 6 月 20 日（土） 平成 27 年 8 月 18 日（火）		福岡海星女子学院 高等学校 久留米信愛女学院 高等学校
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
その他特記事項			
内容		年 月 日	

平成 27 年度 社会的活動計画

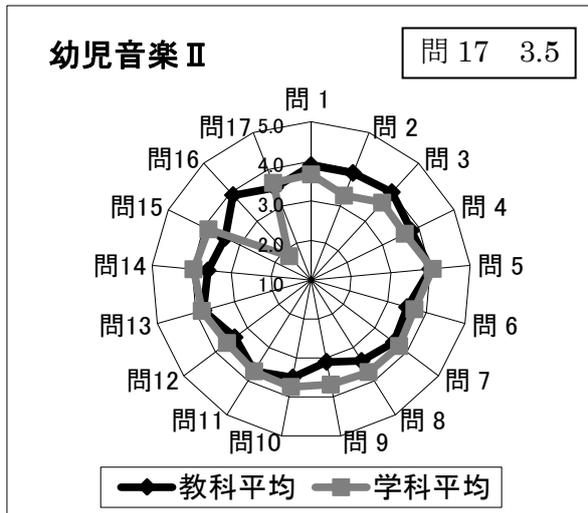
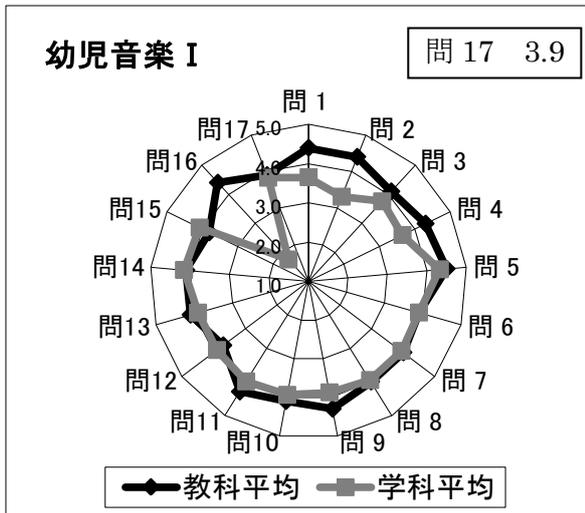
--

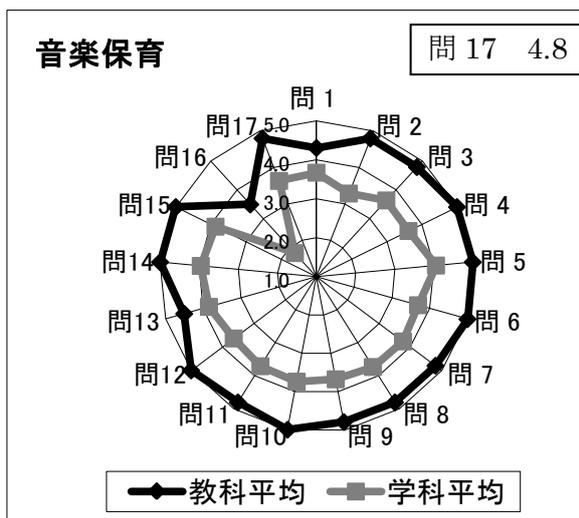
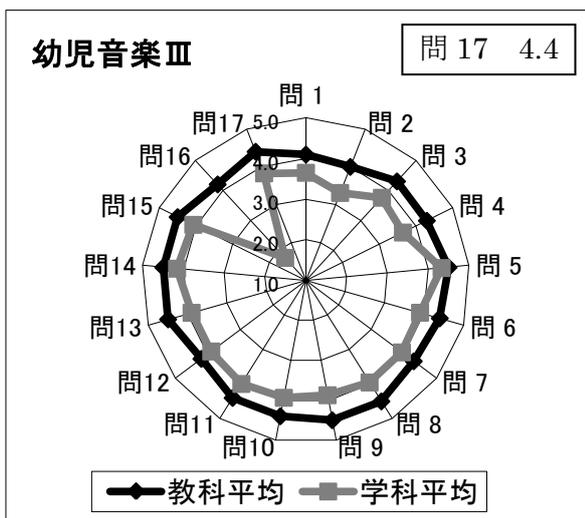
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

＜質問項目＞

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
- 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
- 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
- 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
- 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
- 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
- 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
- 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
- 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
- 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
- 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
- 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
- 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
- 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
- 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

- 5. そう思う（問 16、91分以上）
- 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
- 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
- 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
- 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
幼児音楽Ⅰ	1年前期	必修	授業評価の結果を受け、授業のねらいや意図が学生に伝わっていたと理解した。
幼児音楽Ⅱ	1年後期	必修	授業評価の結果を受け、授業のねらいや意図が学生に伝わっていたと理解した。
幼児音楽Ⅲ	2年前期	必修	授業評価の項目すべてにおいて、4以上の数値であった。各人の職場で実践を深めてほしい。
音楽保育	2年後期	選択	授業評価の数値を見て、創意工夫をしながら、実践力がアップしたと理解した。
幼児問題研究 セミナー	2年通年	選択	授業評価の数値を見て、楽しい授業が展開され、学びが深まったと理解した。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	准教授	山村 涼子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
調理学 栄養士基礎演習（3回） 献立デザイン演習 基礎調理学実習Ⅰ 基礎調理学実習Ⅱ 調理デザイン演習Ⅰ キャリアガイダンスⅠ 応用調理学実習Ⅰ 応用調理学実習Ⅱ 給食実務論 校外給食管理実習Ⅰ 栄養士総合演習Ⅱ（2回） 卒業セミナー キャリアガイダンスⅡ	フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年	卒業・栄養士必修 卒業必修 卒業必修 卒業・栄養士必修 卒業・栄養士必修 卒業選択 卒業選択 栄養士必修 栄養士必修 卒業・栄養士必修 栄養士必修 卒業選択 卒業選択 卒業選択
研究分野		
<p>1. 調理学の分野 学生に対して、食品素材の知識や取り扱い方、調理機能を生かした基本的な調理操作などを習得させるにあたり、師範や指導方法、また指標となるための資料作成などの研究を行っている。</p> <p>2. 食教育の分野 管理栄養士という立場から、健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行っている。</p> <p>3. 栄養士養成の分野 栄養士養成に関する研究。栄養士養成という立場から、カリキュラム論・方法論について研究を行っている。</p> <p>4. キャリア教育の分野 学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系の科目について、より効果的な授業内容や方法等を研究している。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 調理学に関する研究
 - ・調理学や献立作成に関する講義や実習、また新規開講の演習科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行った。とくに新規開講演習科目については初年度の実施内容を見直し、次年度に向けて科目名・内容の検討を重ねた。
2. 食教育に関する研究
 - ・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、患者への食生活指導を継続して行った。
 - ・健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行い、本学研究紀要第 38 号に発表した。
3. 栄養士養成に関する研究
 - ・「入学から卒業までのガイドブック 六訂版」作成に向け、見直し等を学科の教員間で行い、内容・構成を検討した。
 - ・「校外給食管理実習Ⅰ・Ⅱ」実習ノートの見直し等を専門教科担当の教員間で行い、「校外給食管理実習Ⅰ」実習ノートの改訂版を発行した。
4. キャリア教育の分野
 - ・学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行った。

平成 27 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究 (3) 生活実態が学習支援効果に及ぼす影響」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 38 号』(25~33)

(研究ノート)

1. 「久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第 1 報」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 38 号』(53~58)

(報告)

1. 「子育て支援講座における食育の取り組み」共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 38 号』(91~97)

(その他)

1. 「入学から卒業までのガイドブック 六訂版」発行 共著 平成 27 年 4 月 フードデザイン学科
2. 「キャリア形成支援BOOK 2015」発行 共著 平成 27 年 4 月 キャリア形成支援推進室
3. 校外給食管理実習Ⅰ 実習ノート「校外実習(給食の運営)事業所・学校給食」改訂版発行 共著 平成 28 年 2 月 フードデザイン学科

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「行事食に関する調査研究 第 4 報」共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 36 号』(27~32)
2. 「栄養士養成研究 (2) 学習支援に対する効果」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 37 号』(41~47)

(研究ノート)

1. 「地産農産物を活用した食教育の効果検証」共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 36 号』(69~73)
2. 「学生の食事にみる日常食の実態—食事調査からの考察—」共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 37 号』(77~80)

(発表)

1. 「行事食に関する調査研究 第 4 報」共同 平成 25 年 8 月 日本調理科学会 平成 25 年度大会 於 :

奈良女子大学

(報告)

1. 「栄養士養成研究(1) 栄養士としての資質向上に向けての取り組み」共著 平成25年7月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第36号』(103~107)
 2. 「学生の積極的参加を促す授業改善事例集」共著 平成27年3月 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業選定「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」九州・沖縄・山口地域大学グループ/授業改善グループ
 3. 「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト 自己点検・評価報告書(平成24~平成26年度)」共著 平成27年3月 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業選定「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」九州・沖縄・山口地域大学グループ/幹事会
- (その他)
1. 「入学から卒業までのガイドブック 四訂版」発行 共著 平成25年4月 フードデザイン学科
 2. 「キャリア形成支援BOOK 2013」発行 共著 平成25年4月 キャリア形成支援推進室
 3. 「入学から卒業までのガイドブック 五訂版」発行 共著 平成26年4月 フードデザイン学科
 4. 「キャリア形成支援BOOK 2014」発行 共著 平成26年4月 キャリア形成支援推進室
 5. レシピ集「JAくるめ くるめのうまかもんレシピ」監修 平成26年10月 JAくるめ

本教員の主たる研究の成果(5編以内)

(論文)

- ・「小児肥満における腹部CTの有用性」共著『筑後小児科医会会報第12号別冊』平成10年10月
 - ・「保護者の肥満認識と児の生活背景」共著『小児保健研究第58巻第2号』平成11年3月
 - ・「子どもの肥満」共著『久留米医学会雑誌 第73巻 第5・6号 別冊』平成22年6月
- (発表)
- ・「小児生活習慣病外来における肥満改善は可能か」共同 第55回日本小児保健学会 於：札幌 平成20年9月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会	第62回学術総会参加
日本小児保健協会	第62回学術集会不参加
日本調理科学会	平成27年度全国大会不参加 平成27年度九州支部学会不参加

平成28年度 研究計画

1. 調理学に関する研究
 - ・調理学や献立作成に関する講義や実習、また新規開講予定の演習科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行う。
2. 食教育に関する研究
 - ・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、患者への食生活指導を継続して行う。
 - ・健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行う。
3. 栄養士養成に関する研究
 - ・「入学から卒業までのガイドブック」の見直し、および学生への学習支援についての検討を学科の教員間で行う。
 - ・「校外給食管理実習Ⅰ・Ⅱ」の実習内容等の見直しについて、実習担当者間で検討を行う。
4. キャリア教育の分野
 - ・学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行う。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
【目標】 学習意欲の向上 【成果の指標】 学生による授業評価の間 2、問 4 の項目の評価を向上させる。	○問 2「わからない時に質問したり、自分で調べた」 平成 26 年度平均 3.7 → 平成 27 年度平均 3.6 <u>-0.1</u> ○問 4「さらに進んだ勉強をしたい」 平成 26 年度平均 4.0 → 平成 27 年度平均 3.9 <u>-0.1</u> 目標を達成できなかった。次年度の課題としたい。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
応用調理学実習 I	フードデザイン学科 2 年	平成 27 年 6 月 4 日 (木)

自己評価	他者評価
本授業の内容は『西洋料理』実習の中で「ムニエル」や「ルー」の作り方を学び、食材の下処理や取り扱い方法、「ゆでる」・「和える」等の調理操作の復習をすることであった。1 年次に学んだ知識や技術を振り返りながら理解を深め、調理の応用力を身につけることができるような授業計画を行った。 また学外実習や就職に向けて調理技術の向上も課題であり、師範実習の際に当番の学生を参加させるようにしたり、実習班のメンバーを毎回くじ引きで入れ替えるようにして、コミュニケーション能力の向上も意図するところであるが、教授方法も含め、さらなる工夫が必要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のテーマや目的についてわかりやすく説明していたが、板書提示もした方がより明確になる。 ・師範実習に担当学生が参加するのは、学生間の集中力や興味も高まり良いと思った。 ・学生が今までの学びや経験を振り返ることができるような問いかけをしていた点は良かったが、学生からの返答も促すようにした方が良い。 ・学生は良く集中しており、ポイントを見極めて記録を取っていたが、師範実習の後半から私語が増えてきた。
	参加教員 山下浩子教授 生地暢講師 渡邊由恵講師

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

授業評価の間 2、問 4 の学習意欲の結果を受け、問 3「内容を理解できた」と問 12「質問や意見を述べられるよう配慮していた」の評価について、担当科目の平均値を前年度と比較してみると、問 3 は 4.0 → 4.0 (±0)、問 12 は 4.0 → 4.1 (+0.1) と大差なかった。やはり学生の意欲を引き出すような取り組みが必要であり、授業計画や内容の見直しを図り、事前準備の時間を十分確保して授業に臨みたい。

総合評価について、担当科目の平均値を前年度と比較すると 4.0 → 4.0 (±0) であり、全体的に大きな変化はなかった。例年、実習科目よりも講義・演習科目の方が低い傾向にあるが、今回「調理学」は 3.9 → 4.1 (+0.2)、「献立デザイン演習」は 4.0 → 4.1 (+0.1)、「給食実務論」は 3.8 → 4.1 (+0.3) と上がっていた。具体的には、問 6 から問 15 までの教員側の姿勢に関する項目の評価が、すべて 4 点台に上がっており、引き続き丁寧に、誠意を持って授業に臨みたいと思う。

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
【目標】 学生の学習意欲、理解度、技術の向上 (特に栄養士専門科目について) 【成果の指標】 学生による授業評価の間 2、問 3、問 4 の項目の評価を向上させる。	小テスト・実技テストの実施や課題・提出物を設定して、自主学習の機会を与える。 学生に発言や参加の機会を与えるような授業内容を検討する。また授業の中で皆がコミュニケーションを取りやすいような雰囲気作りを心がける。

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
子ども達の健康と食事	27・6・13	遊林愛児園（うきは市）	遊林愛児園
元気いっぱい！子ども達の健康づくり ～肥満とやせの子どもの対策～	27・6・22 27・6・23	南筑後保健福祉環境事 務所	柳川総合庁舎 八女総合庁舎
子ども達の食と健康を考える	27・8・20	筑後地方保育協会	久留米リーチパーク
アイデアレシピ「レタシュウマイ」づくり ましょ！	27・10・24	久留米まち旅博覧会	久留米信愛女学院 短期大学

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
小児生活習慣病外来にて栄養指導（週1回）	27・4・1～28・3・31	久大医療センター小児科
J Aくるめ広報誌「With You」 レシピ掲載	27・1月号～28・3月号	J Aくるめ
久留米市食育推進委員会 地産地消部会員	27・4・1～28・3・31	久留米市
久留米市中央卸売市場 青果取引委員	27・4・1～28・3・31	久留米市
大牟田市中学校給食検討会議委員	27・4・1～27・6・26	大牟田市
西日本新聞くるメディア レシピ掲載	27・4月号～28・3月号	西日本新聞社
福岡県特用林産振興会協議会委員	28・2・16～28・3・31	福岡県農林水産部
「ココナッツの有効成分を利用した健康食品の開 発」研究会	27・11～28・3	株式会社久留米リー チパーク

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
「健康科学実習」	27・5～27・6（前期6回）	久留米大学

その他特記事項

内容	年 月 日
なし	

平成 28 年度 社会的活動計画

○講演等

- ・筑後地方保育協会からの依頼によるもの2回
- ・柳川市保育協会からの依頼によるもの3回

○他団体等への協力

- ・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来・栄養指導（28・4～29・3 毎週金曜日午後）
- ・J Aくるめ広報誌「With You」 レシピ掲載（28・4月号～29・3月号）
- ・久留米市食育推進委員会 地産地消部会員
- ・久留米市中央卸売市場取引委員会 青果取引委員会委員（28・4・1～28・11・30）
- ・西日本新聞くるメディア レシピ掲載（28・4月号～29・3月号）
- ・「ココナッツの有効成分を利用した健康食品の開発」研究会
- ・生活協同組合グリーンコープ連合 商品カタログへのレシピ掲載（28・9月号～29・3月号）

○他大学への非常勤

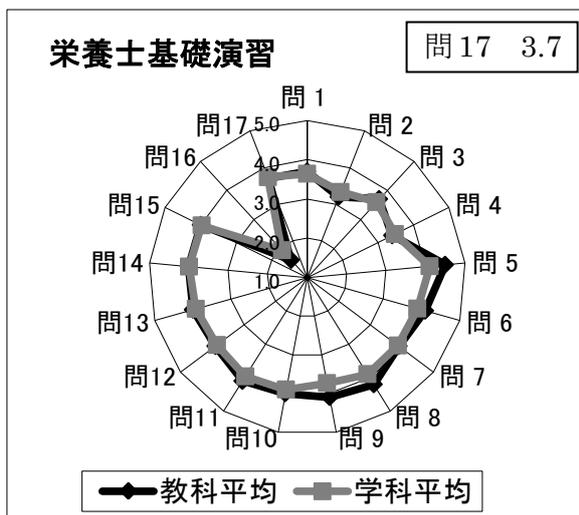
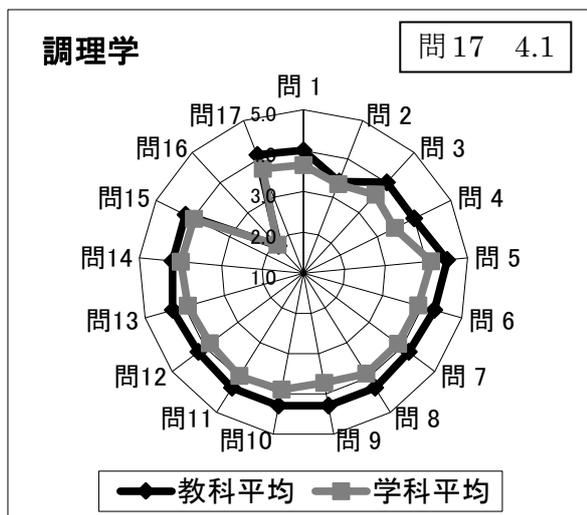
- ・久留米大学「健康教育実習」（28・5～28・6 前期6回）

平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

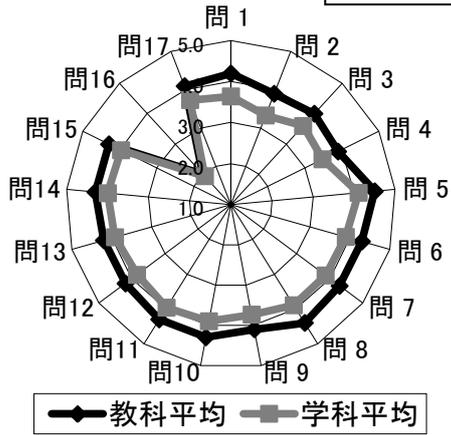
- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）



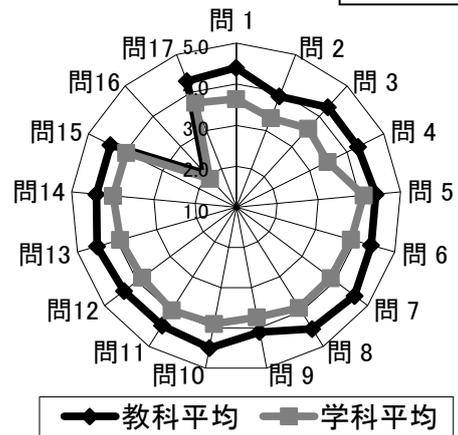
献立デザイン演習

問17 4.1



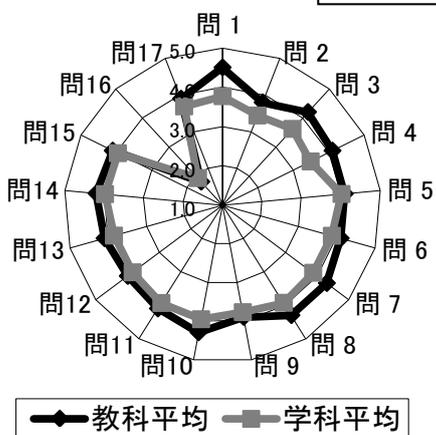
基礎調理学実習 I

問17 4.3



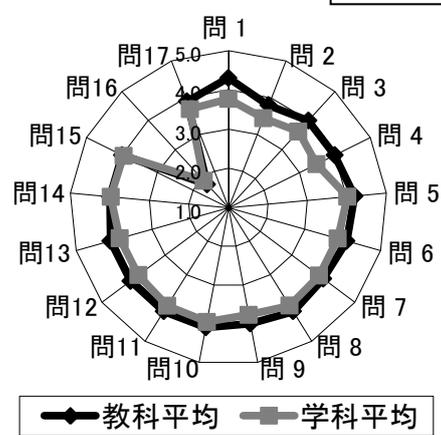
基礎調理学実習 II

問17 3.9



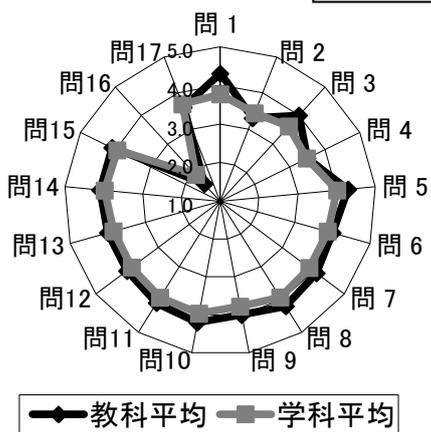
調理デザイン演習 I

問17 3.9



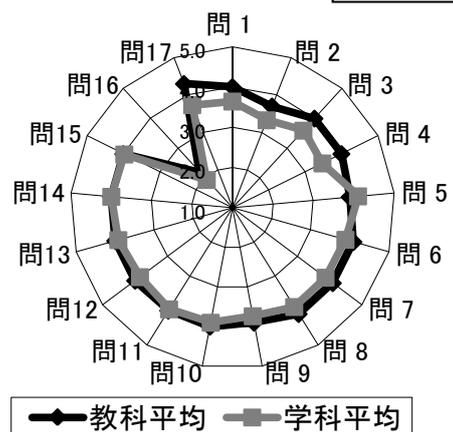
キャリアガイダンス I

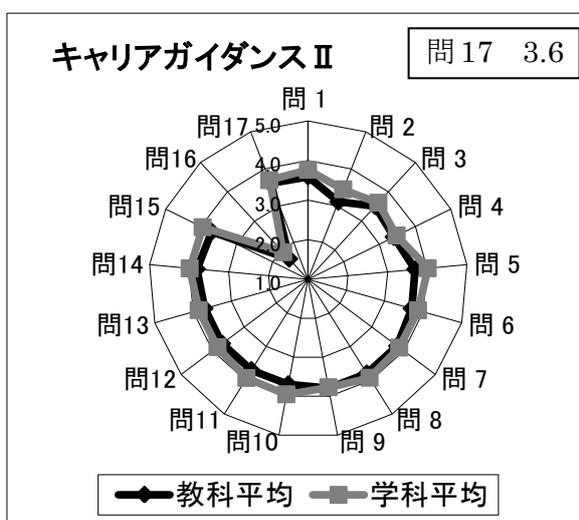
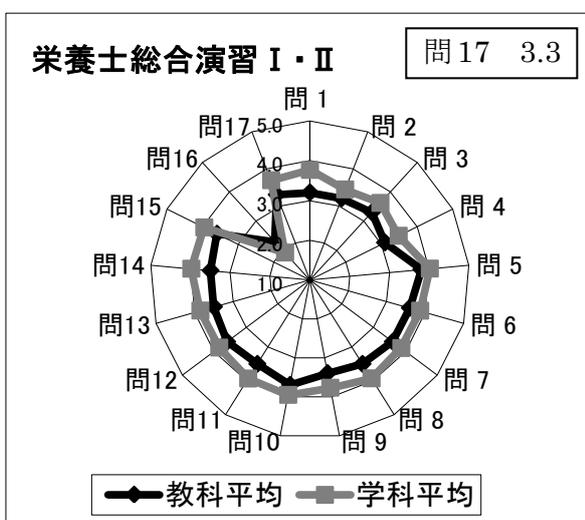
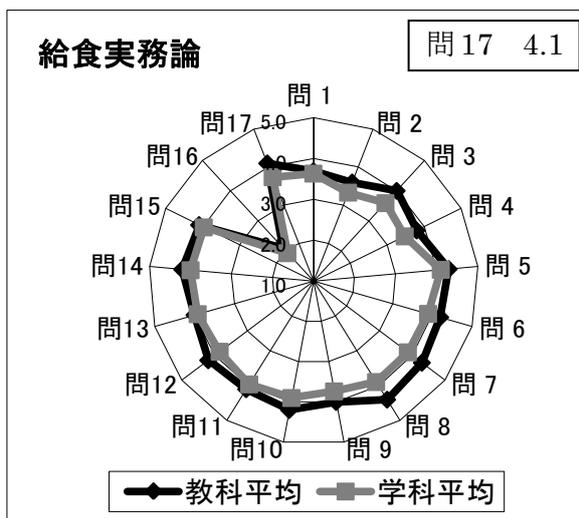
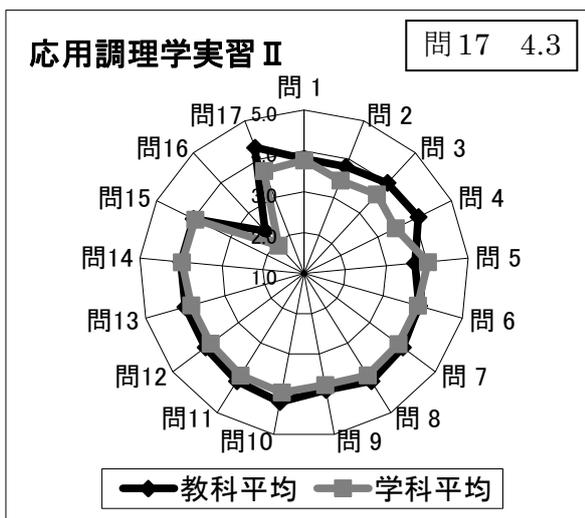
問17 3.6



応用調理学実習 I

問17 4.3





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
調理学	フード 1年	卒業・栄養 士必修	授業評価の問2 (3.4)、問3 (4.0) の結果を受け、単元ごとに確認テストを行うなどして、自主学習の機会を増やし、理解が深まるような工夫をしていきたい。
栄養士基礎演習 (3回)	フード 1年	卒業必修	授業評価の問2 (3.2) の結果を受け、質問しやすい雰囲気作りや授業方法の工夫をしていきたい。
献立デザイン演習	フード 1年	卒業必修	授業評価の問2 (3.9)、問4 (3.9) の結果を受け、学習意欲を引き出せるような工夫を検討したい。なお調理学の講義や実習と関連づけて考えると、より興味を持って学ぶことが可能かと思われる。
基礎調理学実習Ⅰ	フード 1年	卒業・栄養 士必修	授業評価の問2 (3.7) の結果を受け、学習意欲を引き出せるような工夫とともに、課題への取り組みなど自主学習の機会をつくりたいと思う。

基礎調理学実習Ⅱ	フード 1年	卒業・栄養 士必修	「基礎調理学実習Ⅰ」の授業評価での調理班の変更希望のコメントを受け、毎回くじ引きによる班編成を導入した。誰とでもコミュニケーションを取りながら、協力して実習できるよう期待する。
調理デザイン演習Ⅰ	フード 1年	卒業選択	新規開講の科目だったが、総合評価3.9の結果を受け、授業内容や方法を見直し、評価が上がるよう努めたい。
キャリアガイダンス Ⅰ	フード 1年	卒業選択	授業評価での「履歴書の書き方をもっと学びたい」とのコメントを受け、シラバス検討の際「キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ」とともに、これまでより時間数を増やして対応することにした。
応用調理学実習Ⅰ	フード 2年	栄養士必修	授業評価の間2(3.7)の結果を受け、学習意欲を引き出せるような工夫とともに、課題への取り組みなど自主学習の機会をつくりたいと思う。
応用調理学実習Ⅱ	フード 2年	栄養士必修	授業評価の間5(3.7)の結果を受け、実習内容の見直しを図りたい。学生も就職に向けて、効率的な調理作業や技術の向上に努めてほしい。
給食実務論	フード 2年	卒業・栄養 士必修	授業評価の間2(3.6)、間4(3.8)の結果を受け、学習意欲を引き出せるような工夫を検討したい。
栄養士総合演習Ⅱ (2回)	フード 2年	卒業選択	授業評価の間1(3.2)、間2(3.2)、間4(3.1)の結果を受け、栄養士必修科目の総まとめという意図を理解してもらおうとともに、学習意欲を向上させるような工夫を検討したい。
キャリアガイダンス Ⅱ	フード 2年	卒業選択	総合評価3.6の結果を受け、授業内容や方法を見直し、評価が上がるよう努めたい。

所属学科	職名	氏名
ビジネスキャリア	准教授	眞部 真紀子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
コンピュータ応用演習Ⅰ	ビジネスキャリア学科	卒業選択・資格必修
コンピュータ応用演習Ⅱ	ビジネスキャリア学科	卒業選択・資格必修
パソコンスキルアップ	ビジネスキャリア学科	卒業選択
医療事務	ビジネスキャリア学科	卒業選択・資格必修
医療事務演習	ビジネスキャリア学科	卒業選択・資格必修
医療事務実習	ビジネスキャリア学科	卒業選択・資格必修
卒業研究セミナー	ビジネスキャリア学科	卒業必修
情報処理演習	フードデザイン学科	卒業選択・資格必修
栄養士情報処理演習	フードデザイン学科	卒業選択・資格必修
研究分野		
<p>1. 感情音声の分野</p> <p>感情を伴う音声合成モデル作成のために、人間の自然音声を収録し、韻律的な特徴値の解析を行い、それをもとに聴取実験による聴覚的印象をもとにした感情音声の韻律的特徴値を求める。発話者側と聴取者側の両面からのアプローチを行っている。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 感情音声について

科学研究費補助金 基盤研究 (C) (一般) の共同研究者であるが、「脳血流測定」、「音楽」の研究領域が主となり、音声についての研究は進まなかった。

平成 27 年度の研究の成果

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「Accent-Type-Dependency of Agreement Rates of Emotions in Japanese Word Speech」共著 平成 25 年 6 月 『International Journal of Affective Engineering V01.12 No.2』 (185~190)
2. 「種々の度合の感情音声における発話者の意図と聞き手の受容の一致率と韻律的特徴との関係」共著 平成 26 年 7 月 『日本感性工学会論文誌第 13 号 2 号』 (381~390)
3. 「産学官連携地域イベントにおける誘客方策に関する一考察」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 37 号』 (49~57)

(報告)

1. 「実践型授業展開の成果と課題ー地域との協力・連携の強化に向けてー」共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 36 号』 (129~134)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 『社会人に必要な Office2007 の基礎 Word2007, Excel2007, PowerPoint2007 編』共著 開成出版 平成 21 年 4 月
2. 「A Study of Prosodic Features of Emotional Speech Based on the Auditory Impressions」 『近畿大学生物理工学部紀要第 23 号』 平成 21 年 3 月
3. 「Accent-Type-Dependency of Agreement Rates of Emotions in Japanese Word Speech」 『International Journal of Affective Engineering V01.12 No.2 pp.185-190』 平成 25 年 6 月
4. 「種々の度合の感情音声における発話者の意図と聞き手の受容の一致率と韻律的特徴との関係」 『日本感性工学会論文誌第 13 号 2 号』平成 26 年 7 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本音響学会	参加実績なし
日本感性工学会	春季大会参加 (神戸) 3 月 26 日~27 日
日本電子通信学会	参加実績なし
日本家政学会	九州支部大会参加 (長崎) 10 月 2 日~3 日 九州支部事務所会計担当

平成 28 年度 研究計画

1. 食と感性について

嗅覚や視覚に左右される味の印象について、先行研究や資料を収集する。

2. 商店街への調査

卒業研究セミナーで試みた Facebook ページについて、その導入や運用について、商店街に聞き取り調査を行う。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度を把握する。 【指標】授業評価の間 3 を 4.1 とする。 ・学生に科目のねらいや到達目標を意識させる。 【指標】授業評価の間 6 を 4.1 とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度を把握する。 26 年度よりわずかに上がったもの、目標の 4.1 に達することができず、3.8 であった。科目によっては、数回の小テストで学生一人ひとりの理解度を把握することができていたが、学生自身が「わかった」と感じなければならないと思う。 ・学生に科目のねらいや到達目標を意識させる。 平成 26 年度の 3.6 から上がったものの、目標の 4.1 に達することができず、3.9 であった。まだ説明が不十分であることが分かった。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
栄養士情報処理演習	フードデザイン学科 1 年	平成 27 年 12 月 14 日 (月) 2 時限目

自己評価	他者評価
<p>学生一人ひとりのテーマで、パワーポイントを使って「ワンポイント栄養指導」行った。</p> <p>スライドを作り、発表のリハーサルを行い、本番の発表の授業であった。授業では、発表するだけでなく、他者の発表を真剣に聞くことも重視しているため、発表後、学生からのコメントを言わせた。</p> <p>授業時間の都合上、コメントさせるが、それについてその場で詳細な解説ができないので、やりっぱなしになってしまう可能性がある。再度、コメントを受けてのスライド作りや発表ができるような工夫をしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向に配慮されたしどうでした。 ・学生コメントの声が小さく、学生全員に聞こえなかったようだ。学生への指導を徹底することで、学生の協力意識も高まると、もっといいのではないのでしょうか。
	<p>参加教員</p> <p>原 浩美 教授</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

<p>今年度の本科目の総合評価は 3.9 と、昨年度の 3.8 と若干上がったものの、ほとんど変わらなかった。注目すべき点は、問 3「授業の内容を理解することができた」と問 4「この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う」がそれぞれ 0.1 ポイント下がっていることである。学生にとって、「分かった」と思うことが非常に大切であるので、本科目の毎回のテーマについて、ポイントをしっかりと把握させることを意識して進めていく。具体的には、学習するポイントを箇条書きで板書し、その都度確認する。</p>
--

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度を把握する。 【指標】授業評価の間 3 を 4.0 とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎のポイントを板書し、授業の最初に伝え、最後に振り返る。パソコンの機能を使って、各自がどの程度理解できたかアンケートを頻繁に行う。

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
情報処理入門	平成 24 年 4 月～	久留米大学

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 28 年度 社会的活動計画

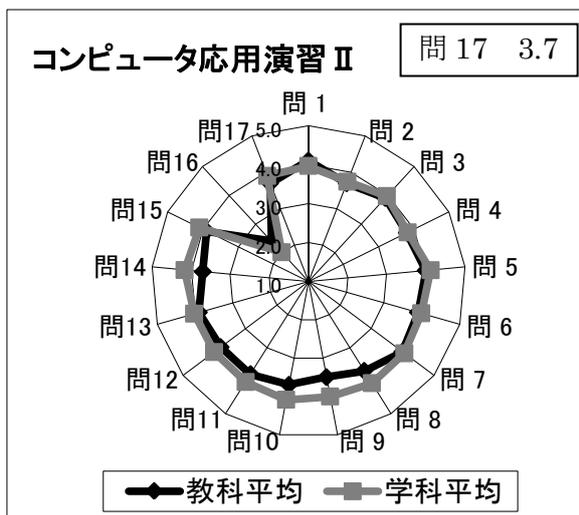
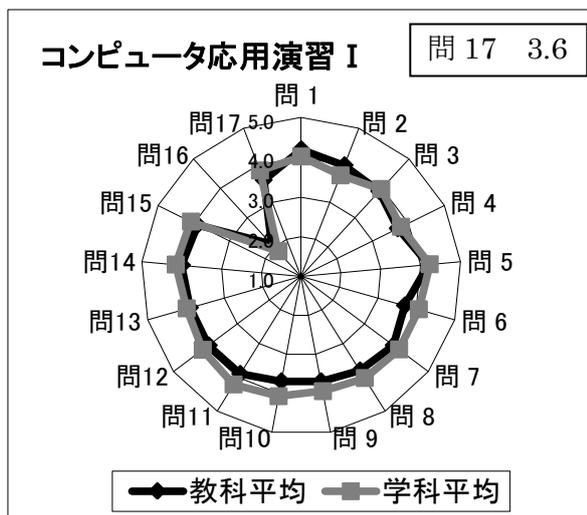
「高等教育コンソーシアム久留米」 e キャンパス部会の委員を務める。

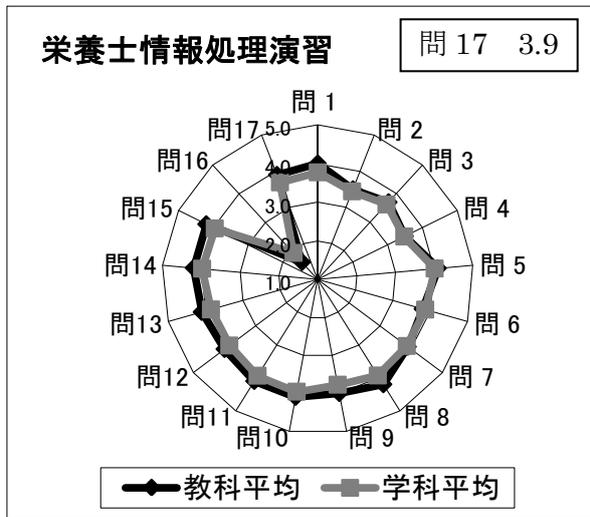
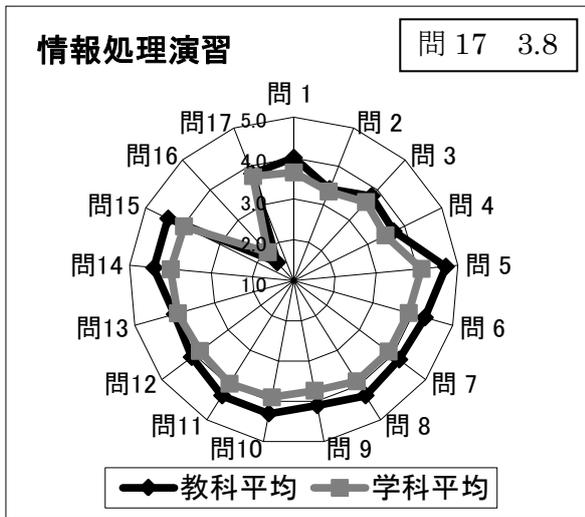
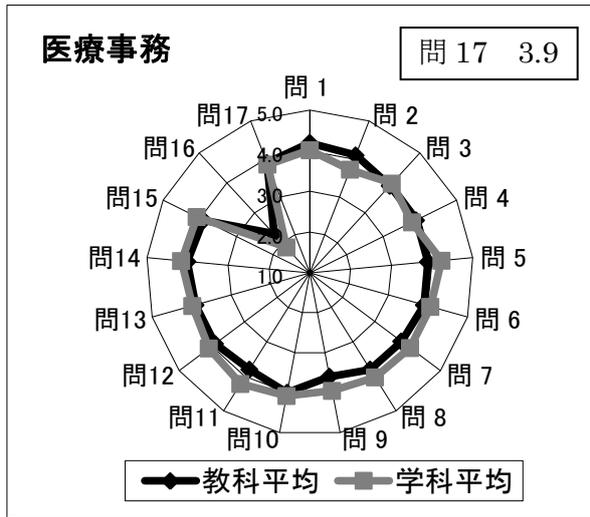
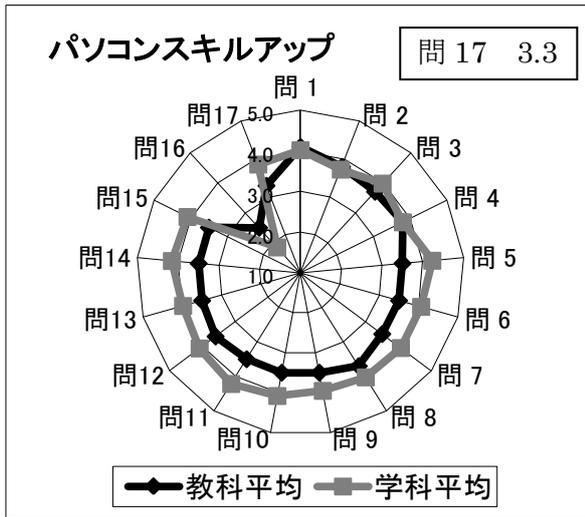
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
コンピュータ応用演習Ⅰ	ビジネスキャリア学科	卒業選択・資格必修	授業評価の問9と問10の数値を見て、伝えたい内容が十分に伝わっていないことが分かった。学習者の立場になって進めるよう工夫していきたい。授業の参考となるものは、学生の回りにもたくさんあるので、積極的に参考にしてほしい。
コンピュータ応用演習Ⅱ	ビジネスキャリア学科	卒業選択・資格必修	授業評価の問9と問10の数値を見て、板書だけでは学習者の理解に不十分だということが分かった。板書に変わる資料を提供し、自主学習時間に参考にしてもらいたい。
パソコンスキルアップ	ビジネスキャリア学科	卒業選択	授業評価の問7の数値を見て、テーマや目的の提示が不十分だと分かった。毎回、ポイントを板書し、学習者に何を学んでいるかを伝えるようにしたい。

<p>医療事務 医療事務演習</p>	<p>ビジネス キャリア 学科</p>	<p>卒業選 択・資格必 修</p>	<p>授業評価の間 11 の数値について、この 2 科目を 1 科目ずつ明確に分けず、連続した授業内で行っているため、評価方法について分かりにくいことは考えられる。この点については、1 回目だけの説明が不十分であることが分かった。授業内で補足説明を行い、学習者への周知を求めたい。</p>
<p>情報処理演習</p>	<p>フードデ ザイン学 科</p>	<p>卒業選 択・資格必 修</p>	<p>「基礎から応用まで学べたと思います。」という学習者コメントを受けて、学習のねらいおよび到達目標が達成できたと理解した。その反面、授業評価の間 3 で「どちらともいえない」の回答者が多いことから、理解度の面からまだ不十分だと分かった。毎回のポイントを板書して「何を学んでいるのか」を把握できるよう工夫したい。</p>
<p>栄養士情報処理演習</p>	<p>フードデ ザイン学 科</p>	<p>卒業選 択・資格必 修</p>	<p>授業評価の間 2 の数値を見て、授業中に質問できる時間を設けるなどの工夫をしたい。授業終了後の時間を活用するなど、学習者が質問する機会を増やしていきたい。</p>

所属学科	職名	氏名
幼児教育	准教授	池田 可奈子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
心理学 保育内容人間関係 発達心理学 保育の心理学 保育相談支援 幼児問題研究セミナー 保育実習Ⅰ（施設） 保育実習指導Ⅰ（施設） 子どもの保健Ⅰ（3回）	全学科1年 幼児教育学科1年 幼児教育学科1・2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科1・2年 幼児教育学科1・2年 幼児教育学科1年	卒業選択必修・資格必修 卒業選択・教職必修 卒業選択・保育士必修・教職必修 卒業必修・保育士必修 卒業選択・保育士必修 卒業選択 保育士必修 保育士必修 卒業必修・保育士必修
研究分野		
<p>主に、発達臨床心理学に関する分野の研究を以下の三つのテーマにもとづき行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達につまずきを示す子どもたちの早期発見と支援に関する研究 発達障害児の社会性の発達等を促すための支援活動を行いながら、どのような援助が有効かについて研究している。また、専門機関を未受診の子ども達とその保護者に対して、地域子育て支援活動の場等においてどのような支援を提供できるかについても検討を行っている。 2. 乳幼児期における社会的コミュニケーション行動の発達に関する研究 乳幼児の社会性の発達を、共同注意の発達プロセスという視点から検討している。 3. 保育者養成校における子育て支援活動の目的と意義に関する研究 保育者養成を担う教育機関として、子育てをする親子のニーズを反映させた質の高い活動をどのように提供していくか、また将来保育者を志す学生に子育て支援の実際的な学びをどのように保障していくか等について検討している。 		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 発達につまずきを示す子どもたちの早期発見と支援に関する研究
久留米幼児教育研究所ポプラ学級で、就学前の親子を対象とした発達支援を継続して行い、その成果を久留米市幼児教育研究所の紀要にまとめた。
2. 保育者養成校における子育て支援活動の目的と意義に関する研究
保育者養成を担う教育機関として、子育てをする親子のニーズを反映させた質の高い活動をどのように提供していくか、また将来保育者を志す学生に子育て支援の実践的な学びをどのように保障していくかについて、平成 27 年度は実際に「保育相談支援」の科目の中で、受講学生全員に子育て支援活動の場を提供する授業実践を行った。

平成 27 年度の研究の成果

(紀要)

1. 「発達に応じた幼児の支援プログラムの開発Ⅳ」 共著
平成 28 年 3 月『久留米市幼児教育研究所 幼研・研究紀要第 59 集』(18～20、26～29)

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(著書)

1. 「心理学 A to B」 共著 平成 25 年 12 月 培風館 (105～122)

(訳書)

1. 「APA 心理学大辞典」 共著 平成 25 年 9 月 培風館
(約 25000 語のうち、主に「心理学統計」の専門用語 50 単語の翻訳を担当した)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

(著書)

1. 『SART：主動型リラクセーション療法』 共著 九州大学出版会 平成 17 年 2 月
2. 『軽度発達障害児のためのグループセラピー』 共著 ナカニシヤ出版 平成 18 年 7 月
3. 『発達のための臨床心理学』 共著 保育出版社 平成 21 年 3 月

(翻訳)

1. 『特別支援教育の理念と実践－早期から望ましい行動を育むために－』 共著 ナカニシヤ出版 平成 18 年 8 月

(論文)

1. 「集団場面における自己調整の援助をねらいとした学習障害児への心理劇適用」 共著
心理劇研究 28 巻 1 号 (2005)

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本心理臨床学会 日本心理学会 日本発達心理学会 日本教育心理学会 日本特殊教育学会 日本リハビリテーション心理学会 国際幼児教育学会	いずれも不参加

平成 28 年度 研究計画

1. 発達につまずきを示す子どもたちの早期発見と支援に関する研究
久留米市幼児教育研究所での実践活動の振り返りを行い、事例をまとめる。
保育現場での発達支援の現状に関する研究を計画し、着手する。
2. 乳幼児期の家族支援に関する研究
乳幼児を育てる養育者の心の健康について、平成 27 年度に幼児問題研究セミナーを受講した学生と一緒に調査したアンケート結果をまとめ、本学紀要に投稿する。
3. 保育者養成校における子育て支援活動の目的と意義に関する研究
保育相談支援の授業の中で、学生に実践的な学びの場を平成 27 年度より実施し始めたので、その教育効果等について学生に調査を行う。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>【目標】 学生の理解度を高めると同時に科目への学生の関心を高め、主体的に学ぶ姿勢を育む。</p> <p>【成果の指標】 問 3・問 4・問 17 で 4.0 以上の値を目標とする。</p>	<p>「保育内容人間関係」と「保育相談支援」の 2 科目については、いずれの項目についても、ほぼ目標数値に達することができた。しかし、「発達心理学」「心理学」「保育の心理学」では、問 17 の総合評価のみ目標数値を達成できたが、問 3 と問 4 においては、3. 8～3. 9 の数値であり、目標を達成することができなかった。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
発達心理学	幼児教育学科 1 年・B クラス	平成 28 年 1 月 14 日

自己評価	他者評価
<p>本科目は専門用語が多く、海外の研究者の理論がそのまま日本語に訳されているため、言葉に対する苦手意識が選考してしまい、本科目の面白さをうまく学生に伝えきれていないところを、担当者として課題に感じていた。実際、居眠りもしくは内職をしている学生も一部存在していた。公開授業を参観くださった先生方から、すでに担当者が行っている工夫点は、学生の興味や集中力を引き出す上で役立っているのご指摘をいただいた。逆に、担当者としてはあまり意識していなかった、内容以前の、授業スタート時の授業に向かわせる学生の基本的な学びの姿勢を促す導入のあり方について助言をいただき、新たな気づきをいただくことができた。</p>	<p>・講義内容が専門的で、難しい言葉が多かったが、学生の集中を引き出す工夫がされていると感じたといったコメントを複数いただいた。 (プリント配布のタイミング、教科書を読ませるタイミング、スライドの記入の仕方など)</p> <p>・しかし、授業開始直後の学生の落ち着きのなさや授業後半の集中力が落ちてくる学生への対応など、講義科目を実施する難しさに対して共感していただくと同時に、教員の課題についてご指摘をいただいた。</p>
	<p>参加教員</p> <p>山村涼子准教授 生地篤講師</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

問 5 から問 15 までの、教員の説明や資料、姿勢などに関する項目は、いずれの項目でも 4.0 以上の数値を得ることができた。また、問 17 の総合評価でも 4.0 以上を得ることができた。その一方で、これまで課題に感じていた、問 1 から問 4 までの、学生自身の授業を受ける姿勢（授業中の居眠りや質問、進んだ学び）に関する項目はなかなか 4.0 を超えることが難しい。今年は、問 1 から問 4 の項目の数値が高い先生方の公開授業に目的を持って積極的に参観させていただき、自分の中で授業改善をする新たな視点を得ることを目標としたい。

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】 学生が授業に集中できる環境作りの工夫を行う。</p> <p>【成果の指標】 問 1 の項目で 4.0 以上の値を目標とする。</p>	<p>・授業の約束事を教員がもう一度整理して学生に明確に伝える。</p> <p>・授業のワークや活動などで必要な学生間の会話と授業に関係のない私語との違いを教員が意識して、学生指導を行う。</p>

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
1. 信愛つどいの広場 子育て支援講座 「言葉を育む親子の関わり」	平成 27 年 10 月 3 日	久留米信愛女学院 短期大学	久留米信愛女学院 短期大学
2. ファミリーサポートセンターくるめ フォローアップ講座 「保護者に寄り添う子育て支援」	平成 27 年 11 月 24 日	ファミリーサポー トセンターくるめ	子育て交流プラザ くるるん
3. 福岡県発達障害者支援センターあおぞ ら啓発事業研修会 「発達障害の基本特性と園での関わり 方について」	平成 27 年 12 月 10 日 (福岡地区) 平成 28 年 2 月 9 日 (筑後地区)	福岡県発達障害者 支援センターあお ぞら	クローバープラザ 石橋文化センター

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米幼児教育研究所 ポプラ学級 訓練スタッフ	平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月	久留米幼児教育研究所

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
1. 教員免許状更新講習会にて「教育の最新事情」の講義を行なった。	平成 27 年 8 月 24 日 平成 27 年 10 月 31 日
2. 高等教育コンソーシアム久留米主催の市民公開講座の講師を担当した。	平成 27 年 12 月 5 日
3. 「信愛つどいの広場」での相談援助活動 スタッフ及び利用者の方を対象に相談援助を行った。	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日

平成 28 年度 社会的活動計画

○他団体等への協力

- ・久留米市幼児教育研究所のポプラ学級で発達障害児とそのご家族への支援を行う。
- ・カトリック幼児教育教職員養成研修会で発達障害に関して講義を行う。

○信愛つどいの広場における活動

つどいの広場を利用する親子に対して相談援助活動を行い、言葉を育む関わりについての視点から子育て支援講座を行う。

○教員免許状更新講習会での講義

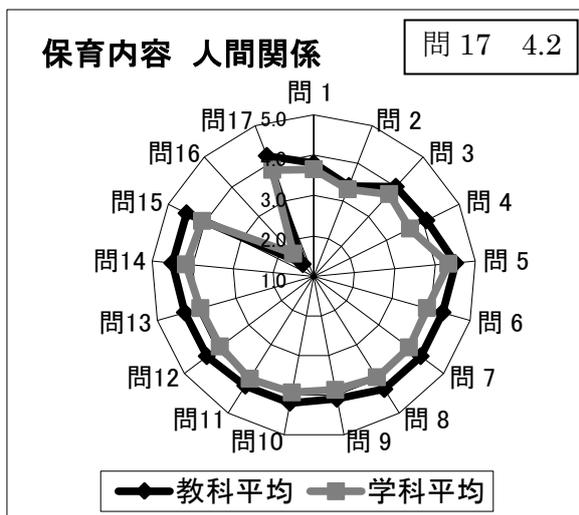
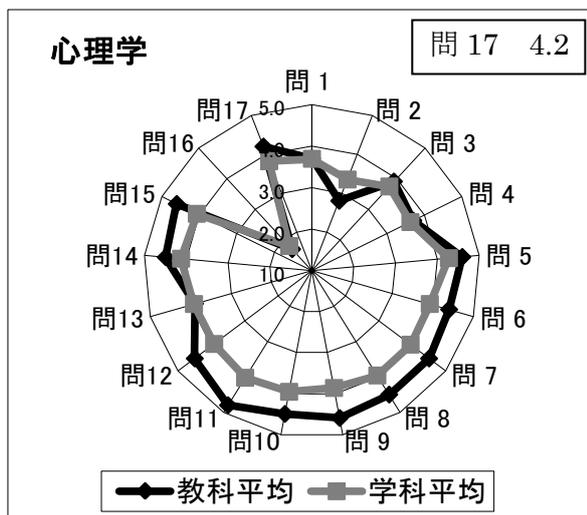
幼稚園教諭の方を対象に、発達に関する教育の最新事情について講義をし、情報提供を行う。

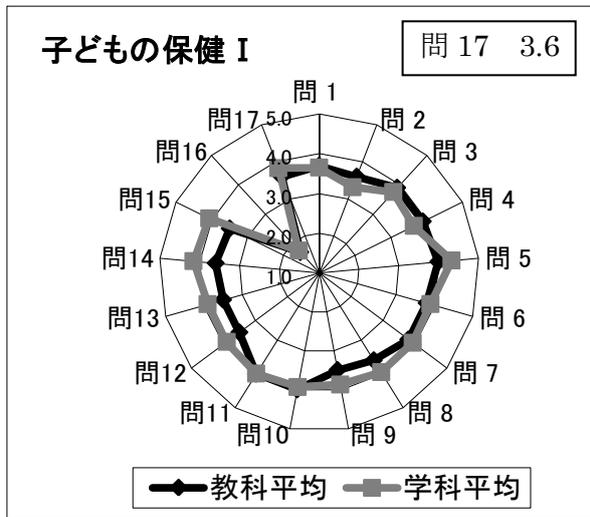
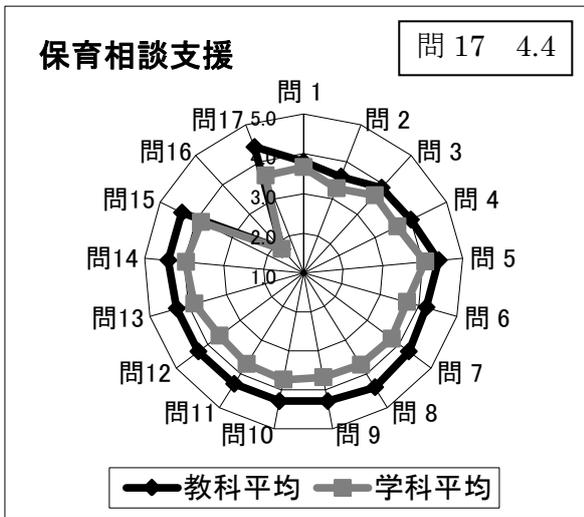
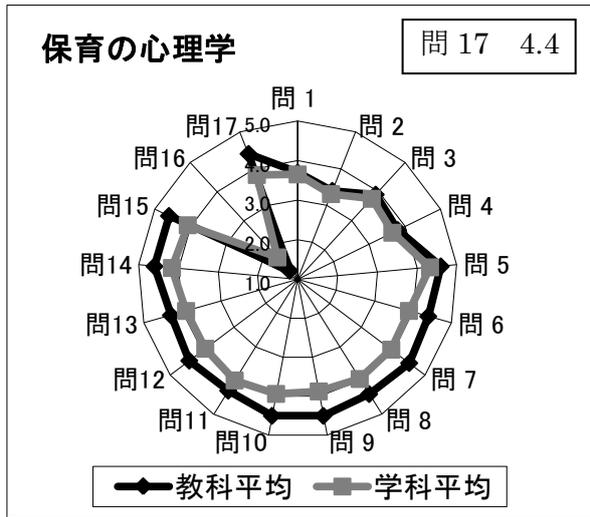
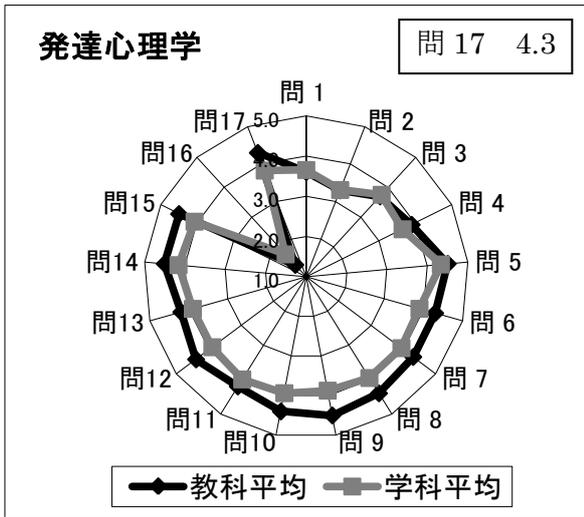
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
心理学	全学科1年	卒業選択必修 資格必修	1年生の前期に実施する科目であったので、授業の目的や評価の方法などを丁寧に伝えることを心がけたところ、問7と問11で、4.5以上の高い評価を得ることができた。心理学という学問を身近に感じ、興味深い授業であったとの自由記述もあった。興味を抱いた学生は関連図書が図書館に多数あるので、今後も是非学びを続けてほしい。
保育内容 人間関係	幼児教育学科 1年	卒業選択 教職必修	問1と問2以外は、4.0以上の安定した数値を得ることができた。今年度より担当し始めた科目であったため、担当者は授業準備等に毎回追われていたが、授業の内容を理解し、この科目への興味を学生に持ってもらうことが良かったと感じている。保育内容の5領域との関連の中にしっかりと位置づけて理解を深めてほしい。

発達心理学	幼児教育学科 1・2年	卒業選択 保育士必修 教職必修	講義科目であるためか、問2の「分からないときの質問や自分で調べた」といった内容を問う項目の数値が3.5未満であった。学生が受け身の姿勢で受ける授業展開にならないよう、改善していきたい。専門用語と具体的な子どものエピソードを常に結びつけながら理解して行ってほしい。
保育の心理学	幼児教育学科 2年	卒業必修 保育士必修	問1から問4以外は、全体的に4.0以上の高い評価を得ることができた。一方で、心理学の知識を保育現場にどのようにいかしていくか、この科目の面白さをもっと学生に伝えていくために、問4の数値が4.0以上になるよう今年さらなる工夫をしていきたい。
保育相談支援	幼児教育学科 2年	卒業必修 保育士必修	つどいの広場での演習を受講学生全員に課したので不安もあったが、全体的に高い数字を得ることができて安堵した。つどいの広場での演習が学生にとって有意義な学びの場になっていることを願うと同時に、参加される親子にとってもプラスの時間になるよう、さらなる授業運営の工夫を重ねていきたい。

所属学科	職名	氏名
ビジネスキャリア学科	講師	大塚史典
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
コンピュータ基礎演習Ⅰ コンピュータ基礎演習Ⅱ コンピュータ基礎演習Ⅲ コンピュータ基礎演習Ⅵ 情報科学 数的理解 基礎統計学 情報管理論 情報社会論	ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 幼児教育学科1年 ビジネスキャリア学科1年 幼児教育学科・フードデザイン学科・ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科2年	卒業必修・資格必修 卒業必修・資格必修 資格必修 資格必修 資格選択必修 選択 資格必修（ビジネスキャリア学科）・選択必修（フードデザイン学科・幼児教育学科） 資格必修 卒業必修・資格必修
研究分野		
<ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー ・情報と社会 ・インターネットにおける情報伝達・伝搬 ・こどもとインターネットとの関係 ・moodleを使ったLMSの構築・運営 ・Raspberry Piを使ったIoT機器を使用する教育 		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

CentOS を用いたサーバーの運営に関して研究を行い、moodle を使った LMS (Learning Management System) の試験運用を行った。

平成 27 年度の研究の成果

平成 26 年度後期の授業を moodle を用いて運営した。この経緯に関しては久留米信愛女学院短期大学紀要第 38 号に報告として掲載された。

(報告)

1. 「VPS への moodle 導入とその効果 (第 1 報)」平成 27 年 7 月 久留米信愛女学院短期大学紀要第 38 号』

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(テキスト)

1. 『コンピューター基礎』単著 平成 25 年 4 月 開成出版 全 128 頁

(報告)

1. 「実践型授業展開の成果と課題」 共著 平成 25 年 7 月 久留米信愛女学院短期大学紀要第 36 号』(93-102)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

(論文)

1. 「C 言語による相関分析のコンピュータプログラミング開発」共著 平成 21 年 7 月『久留米信愛女学院短期大学久留米信愛女学院研究紀要第 32 号』(63-66)

(報告)

2. 「短期大学への Macintosh 導入」単著 平成 23 年 9 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 34 号』(107-110)
3. 「実践型授業展開による地域参画活動—疑似株式会社形式による店舗運営—」共著 平成 23 年 9 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 34 号』(137-145)
4. 「実践型授業導入に関する一考察」共著 平成 22 年 9 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 33 号』(77-85)

(テキスト)

5. 『コンピューター基礎』単著 平成 25 年 4 月 開成出版 全 128 頁

所属学会および参加状況

所属学会

参加状況および役職等

情報処理学会
情報文化学会

参加せず

平成 28 年度 研究計画

平成 28 年度は従来からの研究である LMS の導入に加え、高校理科教育における情報化について研究を行う。

具体的には高校理科の科目において moodle を使った教育の実践を行い、生徒へのアンケートをフィードバックし、理科教育の向上をはかる。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
学生の授業評価において各項目の平均点が学科平均を上回ること	今年度の授業評価では各項目の平均点が多く科目で学科平均を上回っていたが、情報管理論などいくつかの科目において学科平均を下回っている結果が出た。この結果を受けて次年度の改善に役立てたい。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
情報管理論	ビジネスキャリア学科 1 年	平成 28 年 1 月 12 日

自己評価	他者評価
<p>授業の内容についてはビデオなどの視聴覚教材をもちいることで学生が理解しやすい授業ができたと考えている。</p> <p>反面、資料を与えられたと感じる学生が自発的に学習することをやめてしまっているような雰囲気もあり、反省する材料となっている。</p>	<p>わかりやすいというコメントと、授業のプリントとプレゼンテーションの資料とがあり混乱しやすいとのコメントを頂いた。</p>
	<p>参加教員</p> <p>岡部教授・生地（篤）講師</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

平成 27 年度の授業評価は多くの科目で学科平均を超える値となっているが、幼児教育学科の情報科学では問 6（テーマの説明）や問 12（質問の配慮）において学科平均を下回っていた。

これを受け、来年度の授業では学生が質問できる環境作りをするように努力する。また、授業の最初に今日はどのような授業を行い、シラバスを提示するようにしたい。

また、講義科目の基礎統計学では問 1（私語）や問 12（質問の配慮）で平均を超えていた。これより、基礎統計学については一定の効果が見られたと思われる。

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
授業評価の問 14（先生は、熱意を持って授業を行っていた）の項目で学科平均を超えるように努力する。	そのためにはわかりやすい授業プリントを作成したり、授業の初めに前回のふりかえりをするなど、学生が理解できるような雰囲気作りをする。

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
久留米信愛女学院短期大学ビジネスキャリア学科公開講座「親子で作る夏の思い出 DVD」	平成 27 年 8 月 22 日	久留米信愛女学院 短期大学ビジネス キャリア学科	マルチメディアセ ンター

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
情報処理入門 情報処理 A 情報処理演習 II	平成 27 年度 (通年) 平成 27 年度 前期 平成 27 年度 後期	久留米大学商学部 中村学園大学 中村学園大学

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 28 年度 社会的活動計画

1. 他大学への非常勤講師

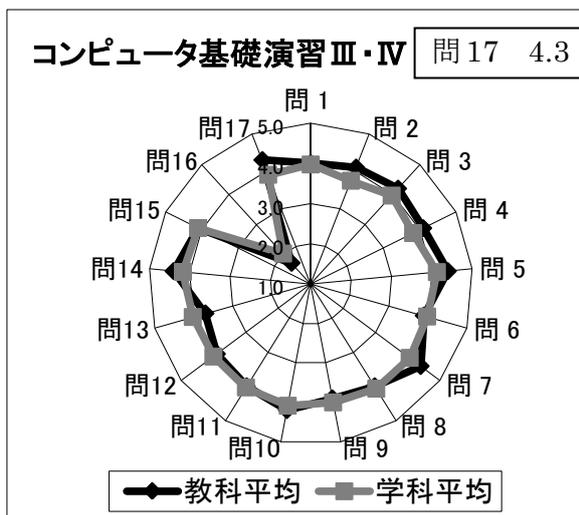
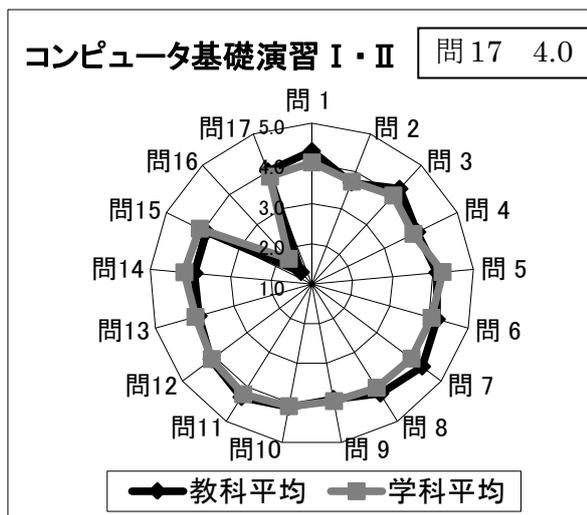
久留米大学「情報処理入門」、中村学園大学「情報処理 A」、情報処理演習 II」

平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

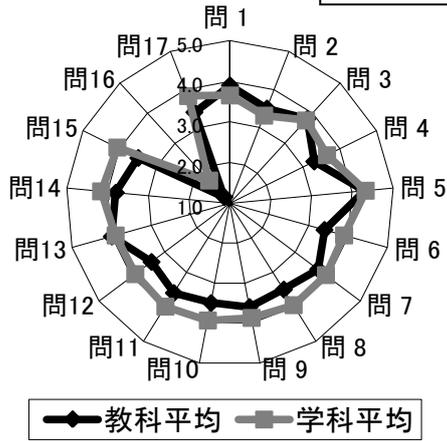
- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）



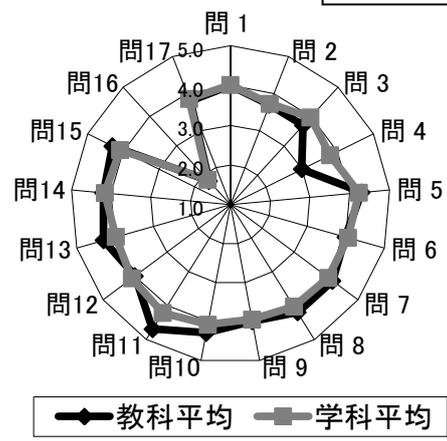
情報科学

問17 3.4



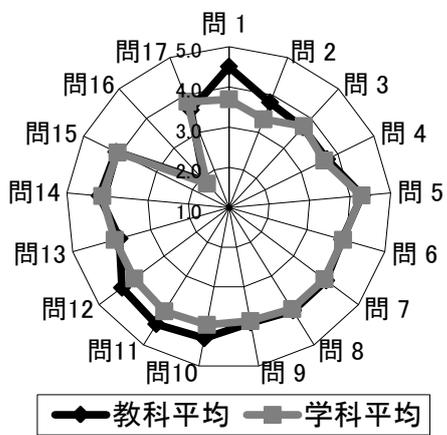
数の理解

問17 3.8



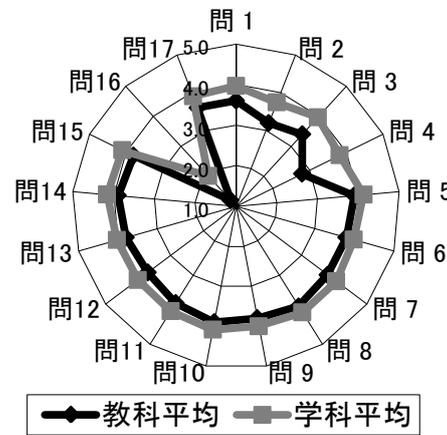
基礎統計学

問17 3.6



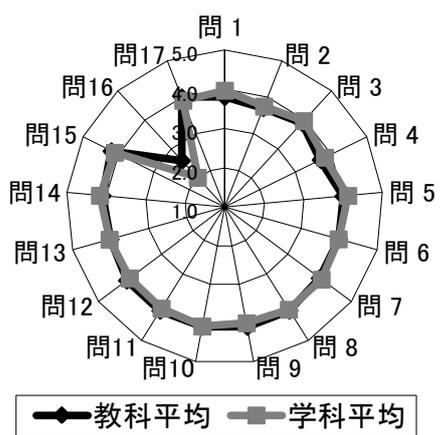
情報管理論

問17 3.6



情報社会論

問17 4.0



科目名	対象	必修・選択	教員コメント
コンピューター基礎 演習Ⅰ・Ⅱ	ビジ1	卒必	問13や14では学科平均の値を上回っていたものの、いくつかの項目で学科平均を下回っていた。
コンピューター基礎 演習Ⅲ・Ⅳ	ビジ1	資格必修	問5、問14は4.4であった。一方で問6、問9、問12は3.9、問13は3.7であった。私語の注意はしていたが、もっときちんと注意すべきだった。
基礎統計学	1年	資格必修 選択必修	講義科目にしては平均点が高く、学習意欲の高い学生が希望して集まっていた結果と思われる。
情報科学	幼1	資格必修	非常に平均点が低かった。ただし、問13は4.0を達成していることから授業態度の悪い学生にちゃんと注意していることは一定の評価があるようだ。
数的理解	ビジ1	選択	平均的に評価が高いものの、問4の評価が非常に低かった。興味を持てる内容を心掛けたい。
情報社会論	ビジ2	卒業必修	平均点は高いものの、問1~4までが4.0未満となっていた。興味を持てる内容を工夫したい。
情報管理論	ビジ1	資格必修	非常に平均点が低い科目であった。すべての間で平均点は4.0未満であった。授業内容や授業の仕方についてもっと工夫していきたい。

所属学科	職名	氏名
幼児教育	講師	生地 篤
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
日本国憲法 企業と法 医療管理学 幼児問題研究セミナー	幼児教育学科 ビジネスキャリア学科 ビジネスキャリア学科 幼児教育学科	教職必修 資格必修 資格必修 資格選択
研究分野		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 成年後見制度について 特に、死後事務や被後見人等の身上監護の研究を中心に。 ・ 憲法改正について ・ 集団的自衛権と憲法との関連について 		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 集团的自衛権と憲法 9 条との関連について研究を進めた。また、平成 27 年 7 月の安全保障法制改正と憲法との関連を広く研究する。
2. 2014 年に我が国が批准した障害者権利条約と成年後見制度との関係について、学会に参加し、研究を進める。

平成 27 年度の研究の成果

(報告)

「集团的自衛権と憲法解釈について」 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 38 号』(85~89)

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「成年後見制度と死後事務についての一考察 — 献体との関わり —」 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 36 号』(33~39)
 2. 「『信愛教育 I~IV』アンケート調査の分析に基づく考察」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 37 号』(7~16)
- (研究ノート)
1. 「建学の精神の具現化に向けての「信愛教育 I~IV」の取り組み — アンケート調査による学生達の反応」 共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 36 号』(83~92)
 2. 「憲法 96 条改正要件の緩和について — 立憲主義の立場から —」 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 37 号』(81~84)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

(論文)

1. 「成年後見人の身上監護義務について」 修士論文 (九州大学) 平成 13 年 1 月
 2. 「成年後見制度と死後事務についての一考察 — 献体との関わり —」 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 36 号』 平成 25 年 7 月
- (研究ノート)
1. 「成年後見人の医療同意権について」 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 31 号』 平成 20 年 7 月
 2. 「憲法 96 条改正要件の緩和について — 立憲主義の立場から —」 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 37 号』 平成 26 年 7 月

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本成年後見学会	学術会議参加 (平成 27 年 5 月)

平成 28 年度 研究計画

1. 成年後見制度について
本年度は、特に近年批准された障害者権利条約と成年後見制度との関わりについて研究する。このテーマについて、『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 39 号』に研究ノートを投稿予定。また、このテーマでの学会にも参加予定。
2. 憲法と集团的自衛権との関係や、安全保障法制全般と憲法との関わりについて研究を進める。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価															
<p>【目標】 学生との双方向の授業を心がける。</p> <p>【成果の指標】 問 12「先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた」の項目の評価を上げる。</p>	<p>問 12</p> <table border="0"> <tr> <td>「日本国憲法」</td> <td>平 26</td> <td>4.1</td> <td>平 27</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>「医療管理学」</td> <td>平 26</td> <td>3.8</td> <td>平 27</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td>「企業と法」</td> <td>平 26</td> <td>3.5</td> <td>平 27</td> <td>3.9</td> </tr> </table> <p>「日本国憲法」は、0.1 下がったが、「医療管理学」は 0.5 上がり、「企業と法」も 0.4 上がった。</p>	「日本国憲法」	平 26	4.1	平 27	4.0	「医療管理学」	平 26	3.8	平 27	4.3	「企業と法」	平 26	3.5	平 27	3.9
「日本国憲法」	平 26	4.1	平 27	4.0												
「医療管理学」	平 26	3.8	平 27	4.3												
「企業と法」	平 26	3.5	平 27	3.9												

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
企業と法	ビジネスキャリア学科 2 年	平成 27 年 12 月 14 日 (月) 1 校時

自己評価	他者評価
<p>おおむねこの授業は、学生もよく聞いてくれたし、確認の小テストもよく出来ていた。ただ、もう少し資料やパワーポイントなどの機器を使って、視覚を通したアプローチが出来れば、と考えている。</p>	<p>授業は、分かり易く学生にも適宜質問をするなど双方向の授業を心がけていた。あまり、私語も多くなかった。</p>
	参加教員
	原浩美教授、三原信彦准教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

総合評価が上がった科目					
「医療管理学」	平成 26 年度	3.8	平成 27 年度	4.0	+0.2
「企業と法」	平成 26 年度	3.7	平成 27 年度	4.2	+0.5
総合評価が下がった科目					
「日本国憲法」	平成 26 年度	4.2	平成 27 年度	4.0	-0.2
総合評価において、特に「日本国憲法」のポイントが下がったので、授業内容や授業の仕方などについて工夫していきたい。					

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】 引き続き、学生との双方向の授業を心がける。</p> <p>【成果の指標】 問 12「先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた」の項目の評価を上げる。</p>	<p>授業中は、適宜こちらから学生に問いかけをもっとするように心がける。学生が、答えやすい問掛けも工夫していきたい。</p>

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
なし			

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
筑紫野市成年後見制度研究会（問題等資料作成及び研究会司会）	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	筑紫野市 (NPO 法人高齢者・障害者安心サポートネット受託)

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
社会科	平成 27 年 4 月～7 月	久留米医師会看護専門学校 准看護科
民法その他	平成 27 年 5 月～10 月	久留米地域職業訓練センター

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 28 年度 社会的活動計画

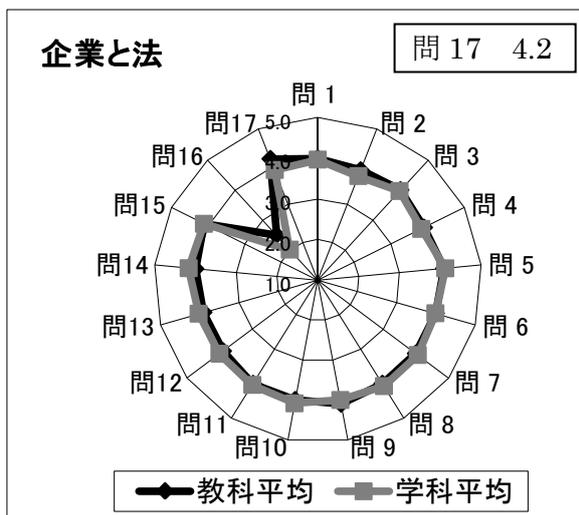
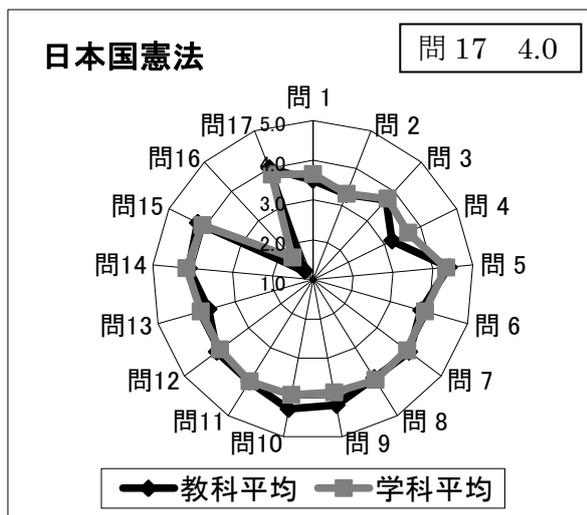
- 1、特定非営利活動法人 高齢者・障害者安心サポートネットの高齢者の後見事務
- 2、久留米医師会看護専門学校准看護科と久留米地域職業訓練センターでの講義。
- 3、筑紫野市成年後見制度研究会事務局として問題等資料作成及び研究会司会。

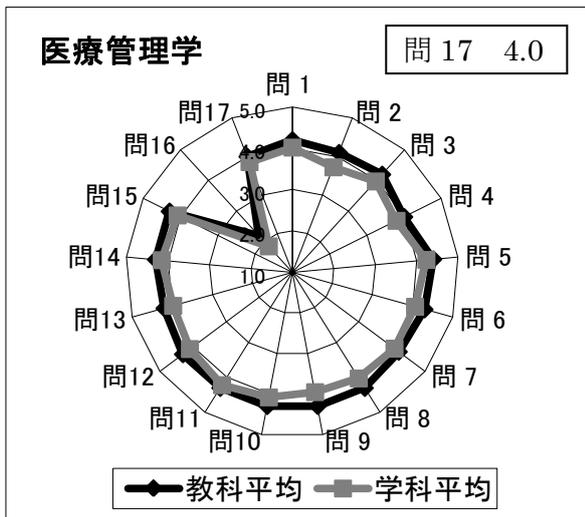
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
日本国憲法	幼児教育 学科	教職必修	授業アンケートの結果から、なかなか授業内容に興味を持てないようなので、興味を持てるような事例や視聴覚教材の使用を心がけたい。
医療管理学	ビジネス キャリア 学科	資格必修	この授業は、資格試験に直結したものであるため、試験に合格するための工夫を今以上に進めて行きたい。
企業と法	ビジネス キャリア 学科	資格必修	授業アンケートの結果から、興味をもう少し持てるような内容にするような工夫と、感想や質問を把握できるような工夫も進めて行きたい。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	准教授	生地 暢
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
栄養士基礎演習(5回) 基礎栄養学Ⅰ 基礎栄養学Ⅱ(8回) 生化学 生化学実験 栄養士総合演習Ⅰ(5回) 卒業セミナー(通年) 医学一般 生命と自然	フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科1年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 フードデザイン学科2年 ビジネスキャリア学科2年 全学科1年	卒業必修 卒業必修・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択・免許必修 卒業選択 卒業選択・資格必修 卒業選択必修
研究分野		
<p>1. 環境生物学分野 身近に存在するに生息する環境生物に関する研究。食環境に影響を及ぼす生物について、その生息状況や環境およびその特性について研究を行っている。特に水圏環境における微生物群集に関する研究を行っている。</p> <p>2. 生理生化学分野 食生活と生理生化学に関する研究。生体成分に対する生化学的アプローチにより、食生活とそれら成分との関わりについて、栄養士養成に携わっている立場から研究を行っている。</p> <p>3. 栄養士養成 栄養士養成に関する研究。学科独自の栄養士として資質向上に対する取り組みを進め、客観的に評価できるように研究を行っている。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

①水圏環境に生息する微生物に関する研究

淡水および海洋を主とする水圏環境における微生物群集に関する調査・研究に従事した。
特に、八代海の微生物群集の変遷およびその特徴について考察した。

②食生活と生理生化学に関する研究

普段の食生活と生体成分との関連性について考察した。また、市販バター・マーガリンに含まれる脂肪に対する *in vitro* での酵素作用について、久留米信愛女学院短期大学紀要にまとめた。

③栄養士養成研究

栄養士の資質向上に向けての取り組みに対する効果を過去 2 年間に於いて、GPA、「栄養士実力認定試験」、「学生による授業評価」の結果を基に、分析・検証したことについて、久留米信愛女学院短期大学紀要にまとめた。また、専門教育科目である『生化学実験』の教材(38 ページ)を作成し、授業で使用した。

平成 27 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究(3)生活実態が学習効果に及ぼす影響」共著.『久留米信愛女学院短期大学紀要.38』(25-33)2015 年7月.
2. 「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出(2)」共著.『久留米信愛女学院短期大学紀要.38』(35-39)2015 年7月.

(その他)

1. 「入学から卒業までのガイドブック六訂版」共著. 2015 年 4 月. 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科.
2. 「生化学実験」テキストノート教材作成(38 ページ)

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究(2)学習支援に対する効果」共著.『久留米信愛女学院短期大学紀要.37』(41-47)2014 年7月.

(報告)

1. 「栄養士養成研究(1)栄養士としての資質向上に向けての取り組み」共著.『久留米信愛女学院短期大学紀要.36』(119-123)2013 年 6 月.

(その他)

1. 「入学から卒業までのガイドブック四訂版」共著. 2013 年 4 月. 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科.
2. 「入学から卒業までのガイドブック五訂版」共著. 2014 年 4 月. 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科.
3. 「生化学実験」テキストノート教材作成(33 ページ)

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. “Characteristics of virus-like growth suppression agents against phytoplankton obtained from seawater at mouth of Funka Bay, Hokkaido, Japan.” Collaboration. *Fisheries Science*,66,38-43. 2000. Feb.
2. “Virus-like particles causing growth-suppression of the red tide forming marine dinoflagellate *Gymnodinium mikimotoi*.” Collaboration. *Marine Biotechnology* 5,435-442. 2003. Oct.
3. “The dynamics of a microbial food web and classical food chain in a coastal sea with special reference to intermittent nutrient supply from bottom intrusion.” Collaboration. *Aquatic Ecology* 38, 485-493. 2004. Aug.
4. 「八代海の植物プランクトンの増殖に与える水温、塩分および光強度の影響」共著.『日本水産学会誌. 76』(34-45) 2010 年 1 月.
5. 八代海におけるラフィド藻 *Chattoenella antiqua* の増殖および栄養塩との関係」共著 『日本水産学会誌.

77』(40-52)2011年1月.(平成23年度日本水産学会論文賞受賞 2012年3月)

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本水産学会	大会参加。
日本微生物生態学会	大会不参加。
日本プランクトン学会	大会不参加。
日本生物工学会	大会参加。
不知火海球磨川流域圏学会	大会不参加。
福岡県環境教育学会	大会不参加。

平成28年度 研究計画

① 環境に生息する生物に関する研究

本学周辺の水圏環境を調査し、その微生物相を把握し、食環境に関わりのある有用な物質産生細菌を探索、その特性を調査、研究する。とくに八代海における微生物群集の変遷を調査し、その特徴を引き続き考察する。

② 食生活と生理生化学に関する研究

生体成分に対する生化学的アプローチにより、食生活とそれら成分との関わりについて考察する。市販されている食品中の栄養分に対する生体内酵素作用について検討し、多岐にわたって販売されている特定健康食品中の栄養学的特性について比較研究する。

③ 栄養士養成に関する研究

栄養士の資質向上に向けての取り組みを客観的かつ数値的な評価を継続するとともに、2年間前後期における学生生活実態が及ぼす影響について久留米信愛女学院短期大学紀要にまとめる。

専門教育科目である『生化学実験』テキストを精査作成する。

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
① 普段の生活との関連性や視聴覚教材による確認等から重要ポイントの明確性を高める。	栄養士必修の講義 3 科目において、平成 26 および 27 年度の授業評価結果を示した。
	問 3 の評価
② 受動的な授業内容だけではなく、能動的な講義内容（他科目との関連性および復習も含む）を織り交ぜて、理解度を高める。	平成 26 年
	平成 27 年
	基礎栄養学 I 2.7 3.6
	基礎栄養学 II 3.1 3.3
	生化学 3.6 3.2
	基礎栄養学 I および II はそれぞれ 0.9 および 0.2 上がったが、生化学は 0.4 下がった。
	問 9 の評価
	平成 26 年
	平成 27 年
	基礎栄養学 I 3.3 4.1
	基礎栄養学 II 3.7 3.6
	生化学 3.4 3.2
	基礎栄養学 I に関しては 0.8 上がったが、基礎栄養学 II および生化学はそれぞれ 0.1 および 0.2 下がった。
	普段の生活の中で、とくにメディアに取り上げられる事柄との関連性を織り交ぜながら、理解度を高めるように努めてきた。学生の中にはメディアへの接触が極力少ない者がおり、SNS のニュースの活用を進めるとともに、他科目との関連性および前講義までの復習に終始した。

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
生化学	フードデザイン学科 2 年	平成 27 年 5 月 26 日(火)

自己評価	他者評価
教材としての教科書以外のプリント類の資料の活用は達せられていたが、さらに理解を深めてもらうために準備していたビデオ等の準備が不十分で次回に回してしまった。(次回にビデオ視聴は出来た。) 授業の内容は遺伝子に関することであつたので、普段の生活の中での遺伝子との関わりを GM 食品および病気診断等で興味を持てるように努められた。	重要箇所の確認とアンダーライン、星印などの指示されており教科書でのポイントがわかりやすかつた。
	受講学生への質問や意見などの反応を促していたが、反応が薄く、残念であつた。
	参加教員
	江越和夫教授 石井妙子教授 山下浩子教授

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

「問 17: この授業を総合的に評価すると 5 点満点で何点ですか」について、担当している栄養士必修科目 4 科目の平均点は、平成 25 年度 3.8、平成 26 年度 3.6、平成 27 年度 3.3 と推移した。また、「問 2: 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした」の評価は、平成 25 年度 3.8、平成 26 年度 3.3、平成 27 年度 3.2 と推移した。「問 3: 私は、授業の内容を理解することが出来た。」の評価は、平成 25 年度 3.7、平成 26 年度 3.2、平成 27 年度 3.4 と推移した。さらに、「問 6: 先生は、この科目の目標や他の科目との関連性をわかりやすく説明した。」の評価は、平成 25 年度 3.8、平成 26 年度 3.5、平成 27 年度 3.6 と推移した。

担当する科目は非常に普段の生活の中での関連性を示すには困難な科目ばかりであるため、学科平均(問 17: 平成 25 年度 4.2、平成 26 年度 3.9、平成 27 年度 3.7) よりも低い評価傾向はあるものの、ポイント差は 0.4 と一定のものであつた。年度ごとの学生の学習意欲より評価の変動があるものの、全体と同様の傾向・推移が見られ、学習意欲を増すように、重点ポイントの明確性を高めてきた結果である

と自己評価する。さらに、授業内容の理解度を増すために、担当する科目を学ぶにあたり、普段の生活の中でどのように関連性を持つものであるかを例示できるように努めていきたい。

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
① 普段の生活との関連性や視聴覚教材による確認等から重要ポイントの明確性(問 9)を高める。 ② 受動的な授業内容だけでなく、能動的な講義内容(他科目との関連性および復習も含む)を織り交ぜて、理解度(問 3)を高める。	① 重要ポイントを絞り込み、能動的に講義に取り組めるように、テキストでの重要ポイント箇所の確認および普段の生活の中の応用を考えてもらうようにする。

平成 27 年度 社会的活動報告

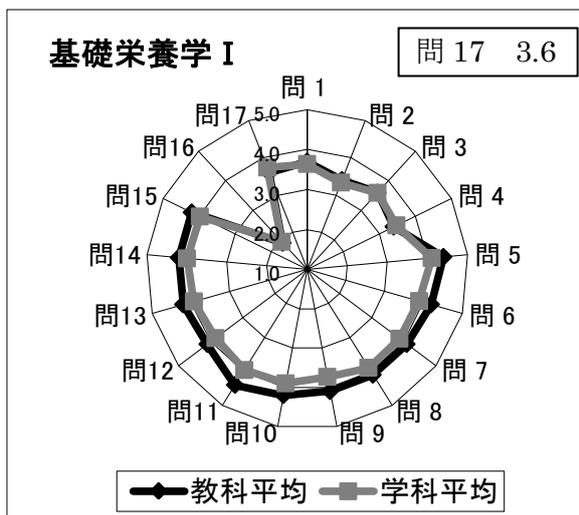
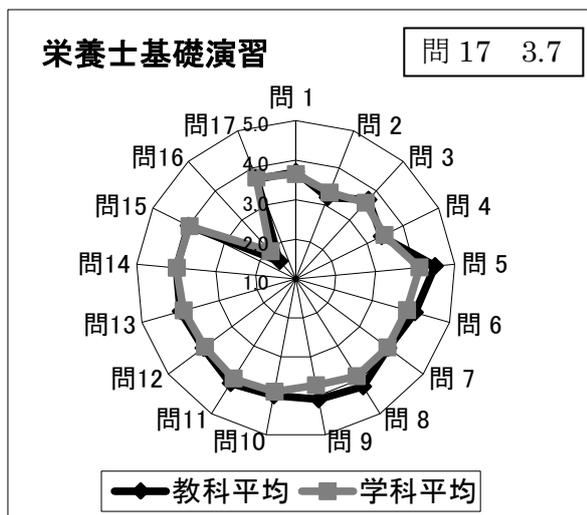
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
共同講義「久留米のまち・ひと・しごと創生」 「久留米の水資源を考えてみよう」	平成 27 年 10 月 9 日(金)	高等教育コンソーシウム久留米	くるめりあ六ッ門 6 階みんくる会議室 1・2
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
久留米市 5 高等教育機関単位互換科目「生命と自然」の講義	平成 27 年 4 月～7 月	久留米市 5 高等教育機関	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
なし			
その他特記事項			
内容		年 月 日	
高等教育コンソーシウム久留米・高等教育連携部会委員		平成 21 年 7 月～	
平成 28 年度 社会的活動計画			
① 高等教育コンソーシウム久留米・高等教育連携部会委員 ② 平成 28 年度第三者評価機関(一般財団法人短期大学基準協会)評価委員			

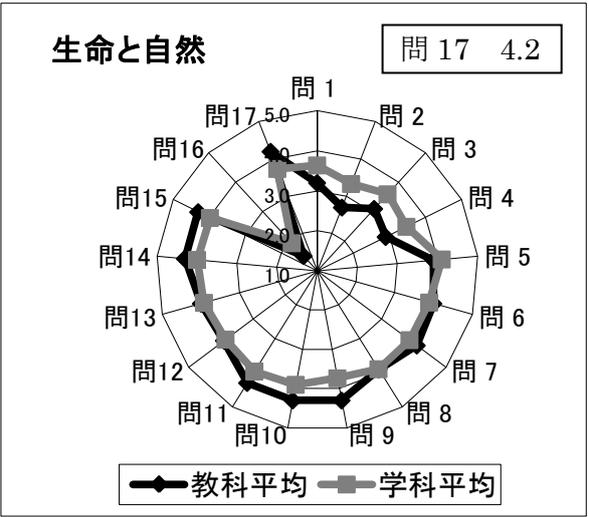
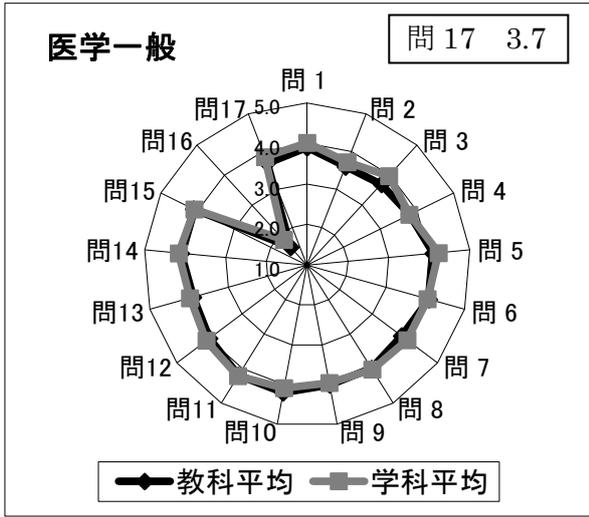
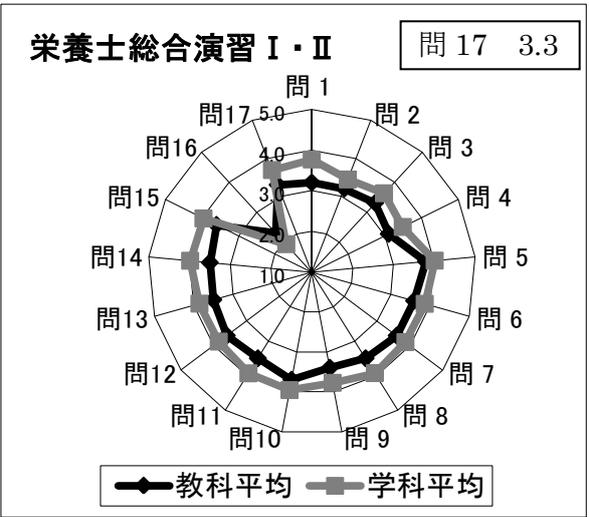
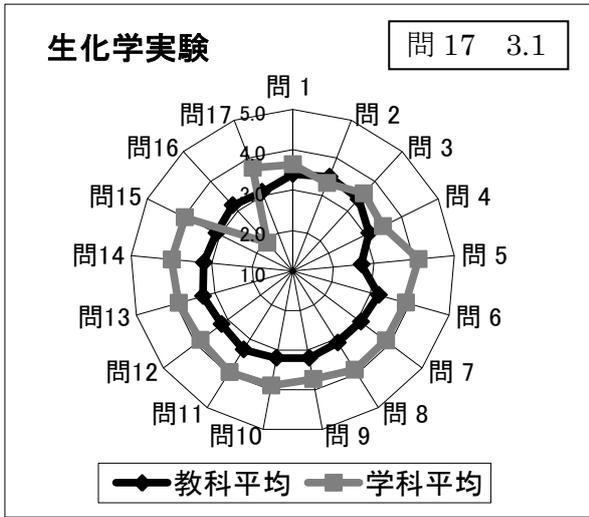
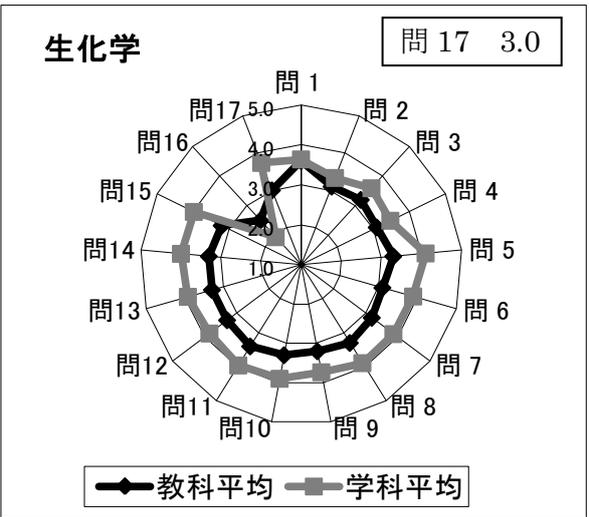
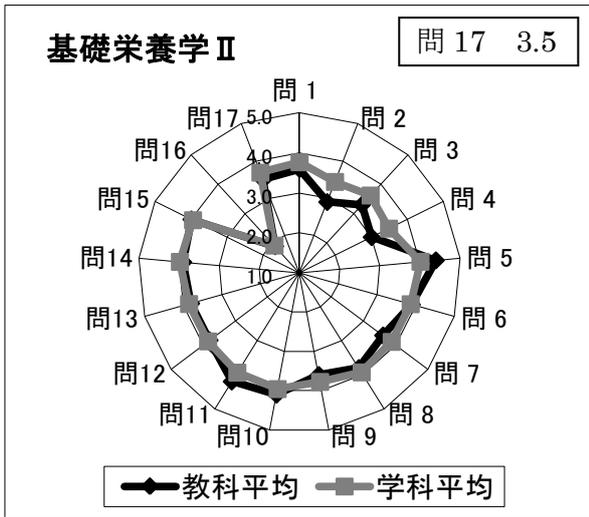
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
栄養士基礎演習(5回)	フードデザイン学科1年	卒業必修	問9の結果を受け、板書の仕方や視聴覚機器の利用が効果的であったことが理解できた。さらに、視聴覚教材が効果的な利用が出来るように努めたい。

基礎栄養学 I	フードデザイン学科 1年	卒業必修 免許必修	問 3 と 4 の結果を受け、受動的な学習ではなく、能動的に学べるように、普段の生活の中の事柄に関連づけながら、解説していきたい。
基礎栄養学 II (8 回)	フードデザイン学科 1年	卒業選択 免許必修	問 3 と 4 の結果を受け、受動的な学習ではなく、能動的に学べるように、普段の生活の中の事柄に関連づけながら、解説していきたい。
生化学	フードデザイン学科 2年	卒業選択 免許必修	問 3 と 4 の結果を受け、受動的な学習ではなく、能動的に学べるように、普段の生活の中の事柄に関連づけながら、この科目は生化学 I と II に分割されるので、ゆっくり時間をかけて、解説していきたい。
生化学実験	フードデザイン学科 2年	卒業選択 免許必修	問 4 と 6 の結果を受け、食品学、基礎栄養学などの関連科目との総まとめとしての実験であることの理解が不足していることと理解した。実験結果から何が分かるかを実験の前中後に何度も解説していきたい。
栄養士総合演習 I (5 回)	フードデザイン学科 2年	卒業選択 免許必修	問 4 の結果を受け、各科目の要点、基本的事項を理解しているだけでなく、さらに研鑽を深めてほしいと感じた。
医学一般	ビジネスキャリア学科 2年	卒業選択 資格必修	問 9 の結果を受け、ビデオなどの視聴覚教材利用が人体の構造を理解するのに効果的であったので、普段の生活と関連づけて、理解が進むようにしたい。
生命と自然	フードデザイン学科 1年	卒業選択 必修	問 6 の結果を受け、教養科目である本授業の目的は伝わっていたと思う。さらに、他科目の関連性について理解を深められるよう努めたい。

所属学科	職名	氏名
幼児教育	講師	渡邊 由恵
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
保育内容総論	幼児教育学科 1年	卒業選択、免許・資格必修
保育課程論	幼児教育学科 1年	卒業選択、免許・資格必修
保育指導法Ⅰ	幼児教育学科 2年	卒業選択・免許必修資格選択必修
保育指導法Ⅱ	幼児教育学科 2年	卒業選択・免許必修資格選択必修
保育・教職実践演習(幼稚園)	幼児教育学科 2年	卒業選択、免許・資格必修
教育実習指導	幼児教育学科 1年	卒業選択・免許必修資格選択必修
教育実習	幼児教育学科 1年	卒業選択・免許必修資格選択必修
幼児問題研究セミナー	幼児教育学科 2年	卒業選択、資格選択必修
キャリアガイダンスⅠ	幼児教育学科 1年	卒業選択
キャリアガイダンスⅡ	幼児教育学科 2年	卒業選択
研究分野		
<p>主に、保育学に関する分野の研究を質的な研究方法を用いて行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 木育に関する研究 乳幼児期の木育体験の意義について、実践を行いながらエスノグラフィーを研究手法に研究を行っている。 2. 子育て支援に関する研究 保護者の子ども理解、遊び理解に関する支援について実践を行いながら研究を行っている。 3. 子どもの遊びと遊びの環境に関する研究 保育現場、子育て支援の場において、子どもの豊かな経験となる質の高い遊びとその環境構成について、研究を行っている。 4. 保育者対象の研修に関する研究 現職保育者対象の研修において、保育の質を高めるための研修内容について検討を行っている。 		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 木育に関する研究

木育子育て支援施設においてエスノグラフィーを用いて、木育環境における父親の特性について質的に分析を行った。また、八女市黒木町笠原地区における木育の取り組みに関する研究に着手した。

2. 子育て支援に関する研究

子育てサークルに参加する母親のサークル継続の意識に関して、インタビューデータを S C A T 分析を用いて分析を行った。

4. 保育者対象の研修に関する研究

保育者対象の研修(主任研修・あそびの研修・園内研修等)について、実践を行いながら研修内容について検討を行った。

平成 27 年度の研究の成果

(発表)

1. 「自主運営子育てサークルに参加する保護者のサークル継続への意識」平成 27 年 5 月
日本保育学会第 68 回大会 梶山女学園大学
2. 「木育子育て支援施設を利用する親子のモノとの出会いに関する一考察ー父親の子どもとモノへの関わりに着目してー」平成 27 年 9 月 全国保育士養成協議会第 54 回研究大会 ロイトン札幌
(テキスト)
1. 「実習の手引き」 共著 平成 26 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科
(報告)
1. 「本学社会人学生とその支援制度に対するアンケート調査」共著 平成 27 年 7 月
久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 38 号 PP.69~78

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「地域に子育てサークルが継続することの意義 - 子育てサークル A での保護者の関係性に着目してー」修士論文 平成 26 年 3 月 西南学院大学大学院人間科学研究科
- (発表)
1. 「子育てサークルにおける保護者間の関係性についてー保護者間で運営する子育てサークルに着目してー」平成 25 年 11 月 日本乳幼児教育学会第 23 回大会 千葉大学
 2. 「子育てサークルにおける参加者同士の関係性についての一考察」共同(筆頭発表者)
平成 26 年 5 月 第 67 回日本保育学会 大阪総合保育大学

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

(論文)

1. 「地域に子育てサークルが継続することの意義 - 子育てサークル A での保護者の関係性に着目してー」修士論文 西南学院大学大学院人間科学研究科 平成 26 年 3 月
- (発表)
1. 「子育てサークルにおける保護者間の関係性についてー保護者間で運営する子育てサークルに着目してー」日本乳幼児教育学会第 23 回大会 千葉大学 平成 25 年 11 月
 2. 「子育てサークルにおける参加者同士の関係性についての一考察」共同(筆頭発表者)
第 67 回日本保育学会 大阪総合保育大学 平成 26 年 5 月
 3. 「自主運営子育てサークルに参加する保護者のサークル継続への意識」
日本保育学会第 68 回大会 梶山女学園大学 平成 27 年 5 月
 4. 「木育子育て支援施設を利用する親子のモノとの出会いに関する一考察ー父親の子どもとモノへの関わりに着目してー」全国保育士養成協議会第 54 回研究大会 ロイトン札幌 平成 27 年 9 月

所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本保育学会	平成 26 年度～平成 27 年度大会口頭発表
日本乳幼児教育学会	平成 26 年度大会口頭発表 平成 27 年度不参加
こども環境学会	平成 27 年度不参加
日本生活体験学習学会	平成 27 年度不参加
平成 28 年度 研究計画	
<p>1. 木育に関する研究 平成 27 年度から継続して、木育子育て支援施設におけるエスノグラフィー研究、八女市黒木町笠原地区における木育への取り組みに関する研究を行う。また、保育実践の場における木育の取り組みに関する研究に着手する(保育者へのアンケート・施設長へのインタビューを実施する)。</p> <p>2. 学生の保育環境や保育内容への理解に関する研究 学生が保育の環境や内容をどのようにとらえ理解しているのか、質的に研究を行う。</p>	

平成 27 年度 教育活動報告

平成 27 年度の F D 宣言とその評価

F D 宣言	自己評価
<p>(目標) 学生が発言しやすい風土作りをする。 学生が現場を感じられる授業内容を検討する。</p> <p>(指標) 授業評価アンケート問 2、問 12 の項目の評価を向上させる。</p>	<p>保育内容総論における授業評価アンケート項目問 2 について、平成 26 年度 2.7 から、平成 27 年度は 3.0 に改善したが、保育指導法 I は平成 26 年度 3.5 から平成 27 年度 3.1 に下がった。保育指導法 I は毎回グループワークでの発表は行っているが、個人が発言する機会が少ないことが反省点である。また自ら問題意識を持てるような内容への改善が必要である。学生が現場を感じられる授業内容に関しては、授業内の感想等でも一定の評価を得ていると感じている。</p>

公開授業とその評価

公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
保育課程論	幼児教育学科 1 年 B クラス	平成 27 年 12 月 22 日(火) 4 時限目

自己評価	他者評価
<p>本科目は講義科目であるが、内容が学生にとっては座学では内容の理解が困難であるため、グループワークや実践を取り入れている。本時はラベルトーク法を用いたアクティブラーニングを取り入れ、指導案における「ねらい」と「指導の意図」についてグループ内で検討を行った。本時の前に実際に遊びを体験しているため、子どもの姿からねらいや内容を導き出すことができていた。参加教員からの評価にもあるように、学生の理解に応じて進めると授業内では十分な実践ができないので、他の科目との連携が必要である。</p>	<p>・一部の学生の私語が気になった ・学生に質問をするなどして双方向の授業を心掛けていた ・グループ演習では各自が積極的に参加していた ・講義科目だが途中演習もあり、一方的な座学形式ではなく、学生に考えさせる授業形態の導入が良いと思った ・2 月の実習までに間に合うのか</p> <p style="text-align: center;">参加教員</p> <p>関聡学長(教授)、藤村やよい教授、山下浩子教授、山村涼子准教授</p>

学生の授業評価に対する自己評価と改善策

保育現場の写真や映像を使用した内容は学生からもわかりやすいとの評価を受けている。今後も現場の今を伝えられるよう保育現場でのフィールドワークを実践して、内容を精査していきたい。全ての科目において質問項目の問 2 「私は、わからない時には質問したり自分で調べたりした」(3.0~3.7)と問 16 「私は、この授業のために 1 週間あたり () 分、予習・復習をした」(1.3~2.8)が低いので、学生が問題意識を持ち自発的に調べたり質問したりできるような問題提示をしていきたい。

平成 28 年度 教育活動計画

平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画
<p>【目標】 学生の理解度を高める授業内容の工夫 学生が主体的な学びを促す工夫</p> <p>【成果の指標】 授業評価アンケート項目問 2・問 16 の項目を向上させる</p>	<p>授業内で問題意識を持てるよう投げかけるとともに、課題や提出物等で自学自習の場を設ける。 学生が発言しやすい風土づくりをする。</p>

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
北九州市教育センター幼稚園主任研修会講師	平成 27 年 5 月 19 日	北九州市教育センター	北九州市教育センター
夏の芸術教育学校「0, 1, 2 歳の表現活動入門セミナー 0～2 歳児、未就園児の手作りおもちゃ」講師	平成 27 年 8 月 4 日	芸術教育研究所	アクロス福岡
曽根幼稚園園内研修講師	平成 27 年 8 月 28 日	西福岡学園	そね幼稚園
福岡市立姪浜幼稚園園内研究保育講師	平成 27 年 11 月 11 日	福岡市立姪浜幼稚園	福岡市立姪浜幼稚園
信愛つどいの広場子育て講座「身近な素材で手作りおもちゃのお弁当を作ろう」	平成 27 年 12 月	信愛つどいの広場	久留米信愛女学院短期大学

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
夏の芸術教育学校福岡会場運営チーフ 「木育キャラバン in 笠原」賛助	平成 27 年 8 月 4 日～6 日 平成 27 年 5 月～9 月	芸術教育研究所 木育キャラバン in 笠原実行委員会
笠原祭（木育おもちゃのブース出展）	平成 27 年 11 月 15 日	きのこ村協議会
西日本短期大学保育学科保育フェスタ Vol.2 木育キャラバンボランティアスタッフ	平成 28 年 2 月 6 日 7 日	西日本短期大学保育学科
未就園児クラス指導・助言	平成 28 年 3 月 4 日	白鳩幼稚園

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
芸術教育研究所客員研究員 福岡グッド・トイ委員会代表	平成 25 年 4 月 1 日～現在 平成 25 年 4 月 1 日～現在

平成 28 年度 社会的活動計画

1. 保育者・教諭(中学校)向け研修会および園内研修講師

平成 28 年 5 月 18 日 北九州市教育センター幼稚園主任研修 講師

平成 28 年 5 月 20 日 糸島市私立幼稚園協会 主任研修会 講師

平成 28 年 6 月 29 日 糸島市私立幼稚園協会 教師研修会 講師

平成 28 年 7 月 25 日 北九州市私立幼稚園連盟教師研修大会分科会 助言者

平成 28 年 8 月 1 日 福岡県教育センター研修会「中学校家庭における幼児と触れ合う活動」講師

平成 28 年 8 月 3 日 夏の芸術教育学校 講師

平成 28 年 8 月 20 日 京築私立幼稚園連盟教師研修会「保育に生かす木育」 講師

その他 園内研修・教師研修会講師予定

2. 他大学への非常勤等

西南学院大学人間科学部児童教育学科「乳児保育 I」平成 28 年 4 月～8 月

3. 子育てサークルへの賛助

福岡市内子育てサークルでの講師

4. 木育に関するイベントへの賛助

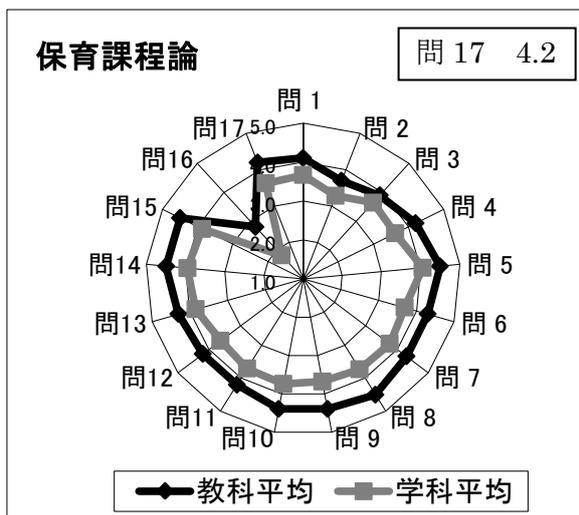
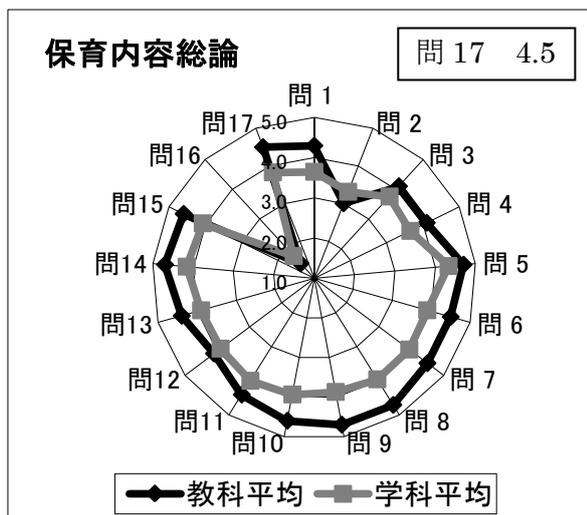
うきは市・他大学主催の木育キャラバンへの賛助

平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

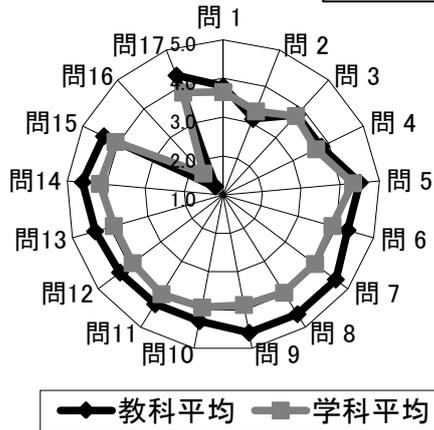
- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）



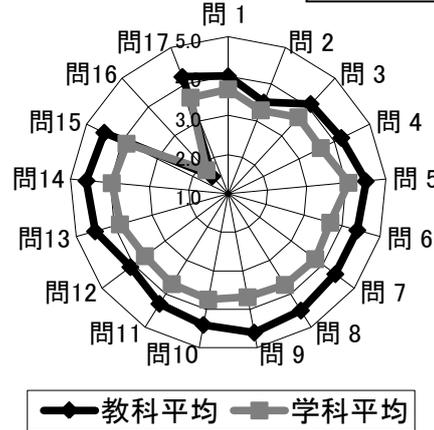
保育指導法 I

問 17 4.3



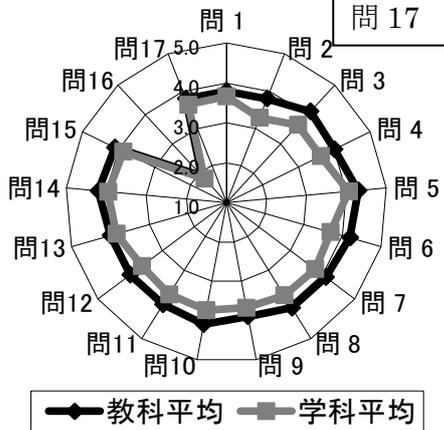
保育指導法 II

問 17 4.2



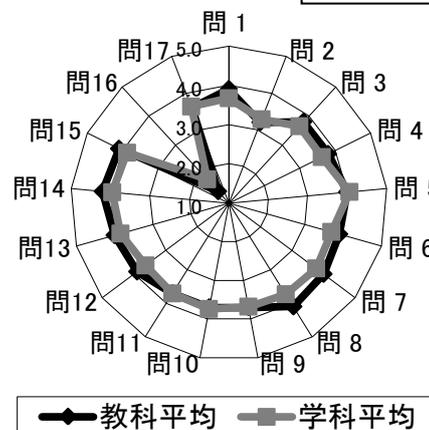
保育・教職実践演習(幼稚園)

問 17 3.8



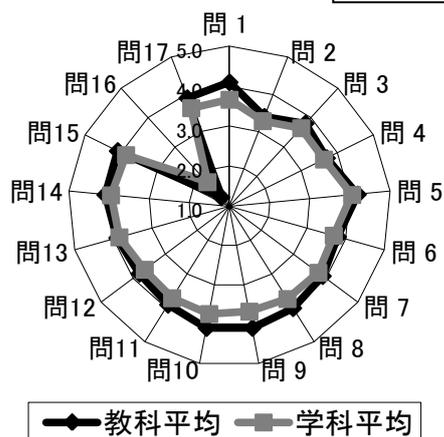
キャリアガイダンス I

問 17 3.6



キャリアガイダンス II

問 17 3.9



科目名	対象	必修・選択	教員コメント
保育内容総論	幼教1年	免許・資格 必修	「写真などを見ながら教えてもらうのでわかりやすい」「プリントが毎回あったので見直しもしやすく助かった」との学生コメントを受け、内容を精査してより理解を高める授業内容を検討したい。
保育課程論	幼教1年	免許・資格 必修	総合評価 4.2 他の科目よりも課題が多かったためか、問2. 16の項目が高い。他の科目と連携して学生の実践力を高めたい。
保育指導法Ⅰ	幼教2年	免許必修 資格選択	総合評価 4.4 問1のみ3点台(3.9)なので、4点台に上がるよう内容を検討したい。
保育指導法Ⅱ	幼教2年	免許必修 資格選択	総合評価 4.2 指導案立案から実践・評価までの課題を出しているが、問16が1.6である。他の回でも予習・復習の時間を持てるよう内容を検討したい。
キャリアガイダンスⅠ	幼教1年	卒業選択	総合評価 3.6 「2年生や外部の人の話を聞いて良かった」との学生コメントを受け、今後も多くの刺激をあたえられるような外部講師・ゲストティーチャーについて検討していきたい。
キャリアガイダンスⅡ	幼教2年	卒業選択	総合評価 3.9 学生が受け身になってしまいがちなので、主体的に学べるよう内容を検討したい。

所属学科	職名	氏名
ビジネス キャリア	講師	西田 明紀
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
現代経済論 経営学 プロジェクトワーク インターンシップ マーケティング論 プロジェクトマネジメント 金融実務論	ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科1年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科2年 ビジネスキャリア学科2年	卒業必修、資格必修 卒業必修、資格必修 卒業選択、資格必修 卒業選択 卒業選択、資格必修 卒業選択、資格必修 卒業選択必修
研究分野		
<p>1. マーケティングに関する研究 産官学民連携による地域戦略の研究 ダイバーシティや女性視点からのマーケティング研究、新規事業創出</p> <p>2. ダイバーシティ、女性活躍、組織開発に関する研究 経営戦略としてのダイバーシティ推進、それに伴う組織開発に関する研究 女性のキャリアデザインや、女性の活躍推進に関する研究</p> <p>3. PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）手法に関する研究 地域課題をアクティブラーニングの手法で学ぶPBLに関する研究</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. マーケティングに関する研究

産官学民連携による地域戦略の研究

ダイバーシティや女性視点からのマーケティング研究、新規事業創出

2. ダイバーシティ、女性活躍、組織開発に関する研究

経営戦略としてのダイバーシティ推進、それに伴う組織開発に関する研究

女性のキャリアデザインや、女性の活躍推進に関する研究

平成 27 年度の研究の成果

(レポート)

「ダイバーシティ志向のリーダーシップ」共著 平成 27 年 10 月『九州アジア経営塾レポート Vol.45 』
(10~17)

(ポスター発表)

「ダイバーシティの観点から女性向けマーケティングの逆効果についての検証」 平成 27 年 11 月
日本マーケティング学会 第 4 回マーケティングカンファレンス 2016 早稲田大学

(その他)

「女性社員を活かす経営」監修 平成 28 年 3 月 福岡県男女共同参画センターあすばる

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

(ポスター発表)

「ダイバーシティの観点から女性向けマーケティングの逆効果についての検証」 日本マーケティング学会 第 4 回マーケティングカンファレンス 2015 早稲田大学 平成 27 年 11 月

(その他)

「女性社員を活かす経営」監修 平成 28 年 3 月 福岡県男女共同参画センターあすばる

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本マーケティング学会	カンファレンス 2015 参加、ポスターセッション報告
組織学会	2015 年度研究発表会大会参加
大学生研究フォーラム	大学生研究フォーラム 2015 参加

平成 28 年度 研究計画

1. マーケティングに関する研究

産官学民連携による地域戦略の研究

ダイバーシティや女性視点からのマーケティング研究、新規事業創出

2. ダイバーシティ、女性活躍、組織開発に関する研究

経営戦略としてのダイバーシティ推進、それに伴う組織開発に関する研究

女性のキャリアデザインや、女性の活躍推進に関する研究

平成 27 年度 教育活動報告		
平成 27 年度の F D 宣言とその評価		
F D 宣言	自己評価	
公開授業とその評価		
公開授業の科目名	学年・クラス	実施日時
経営学	ビジネスキャリア学科 1 年	平成 28 年 1 月 19 日
自己評価	他者評価	
<p>卒業必修科目であり、どのような組織で働くにあたって「経営学」の基礎知識は必要であるため、身近な事例から理解を進めることを目標とした。</p> <p>今回の授業は経営学の中でも「マーケティング」についてであり、自分たちが日常的に購買消費している商品は、どのように企業が経営戦略を考え企画されているのかを実感する内容であった。ワークショップ形式は一部の学生は盛り上がるが、全員に主体的に参加してもらおうよう更なる工夫が必要であると感じた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な例や写真を出しており良かった。 ・ワークショップを授業に取り入れ、学生同士、学生と先生との双方向の授業が行われていた。 ・分かりやすいテキストが使われていた。 ・日常生活の商品を取り上げ、学生の関心や興味を上手に利用していた。 	
	参加教員	
	阿久根政子教授、大塚史典講師、生地篤講師	
学生の授業評価に対する自己評価と改善策		
<p>学生評価の平均をみると「この授業のために一週間あたりに（ ）分、予習・復習した」が殆どの科目で 1 点台であり、もう少し事前の予習や、講義後の復習に時間をかけるようなカリキュラムに変更したいと思う。実習科目では、実習やイベントの準備に時間を割いているのだが、講義科目のような「予習・復習」という概念に当てはまらず点数が低い面もあると思われる。</p> <p>「この授業に関して、さらに勉強をしたいと思う」4. 1、「先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した」4. 2、「先生の板書の仕方や視聴覚機器の利用が効果的であった」4. 3（いずれもプロジェクトワーク）などにより、講義科目での学びを演習科目で実践する形は概ね学生に理解されていた。</p>		
平成 28 年度 教育活動計画		
平成 28 年度の F D 宣言	平成 28 年度の教育力向上のための計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の出欠状況に留意する ・授業中に、復習のポイントを伝え、学生の理解を深める。 ・【指標】 授業評価 問 16 の評価を 3 点台とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動で欠席しがちになる学生をフォローする。 ・授業の最後に、復習ポイントを伝える。 ・予習復習もセットとなる授業構成とする。 	

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
好奇心が女子力をあげる HAAPY なわたし であるたえのエッセンス	27 年 6 月 12 日	西日本シティ銀行	JR 九州ホール
ダイバーシティ時代におけるリーダーシ ップの在り方	27 年 6 月 27 日	九州アジア経営塾	電気ビル共創館
福岡だからできる暮らし方	27 年 7 月 7 日	福岡市・FDC	天神地下街
働き方シフトチェンジ!	27 年 9 月	アヴァンティ	(紙面特集)
女性活躍概論	27 年 9 月 30 日	あすばる	アクロス福岡
共同講義 (久留米のまち・ひと・しごと創 成)	27 年 10 月 13 日	高等教育コンソー シアム久留米	くるめりあ みんな くる会議室
経営戦略としてのダイバーシティ推進の導 入	28 年 1 月 16 日	厚生労働省	天神ビル
採用面接担当者セミナー	28 年 2 月 22 日	宮崎県経営者協会	宮崎県経営者協会
ライフキャリアレインボーを考えよう	28 年 3 月 12 日	連合福岡	天神ビル
WorkStyle Café	28 年 3 月～	テンジン大学ゼミ	

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
福岡地域戦略推進協議会 フェロー	26 年 9 月～	福岡地域戦略推進協 議会
福岡県男女共同参画審議委員、第 4 次計画部会	26 年 4 月～28 年 3 月	福岡県
広川町地方創成総合戦略策定審議委員	27 年 6 月～28 年 2 月	福岡県広川町
福岡県男女共同参画センターあすばる男性管理職の ための女性活躍推進セミナー統括コーディネーター	27 年 9 月～28 年 1 月	福岡県
株式会社正興電機製作所女性リーダー研修	27 年 10 月～12 月	正興電機製作所
西日本鉄道株式会社ブランド委員会レディスPJアド バイザー	28 年 2 月～6 月	西日本鉄道

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先

その他特記事項

内容	年 月 日

平成 28 年度 社会的活動計画

(他団体等への協力)

「福岡地域戦略推進協議会 フェロー」

「福岡県人づくり・県民生活男女共同参画推進課 女性活躍推進室 委員」

「西日本鉄道株式会社ブランド委員会レディスPJアドバイザー」

(他大学への協力)

「北九州市立大学 地域創成学群 ESD 実習」

輝く女性のキャリアアカデミー 担当

(講演など)

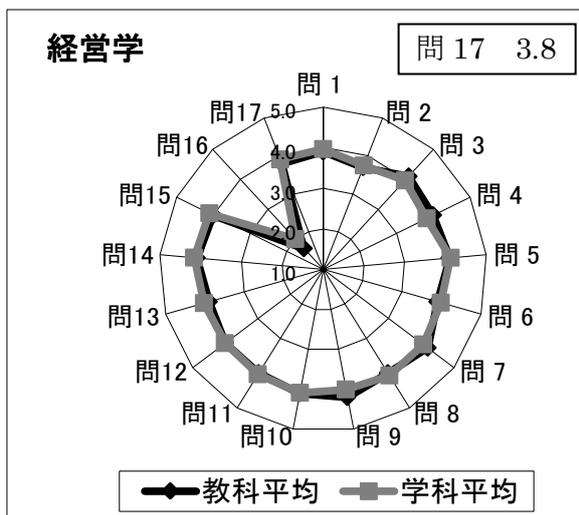
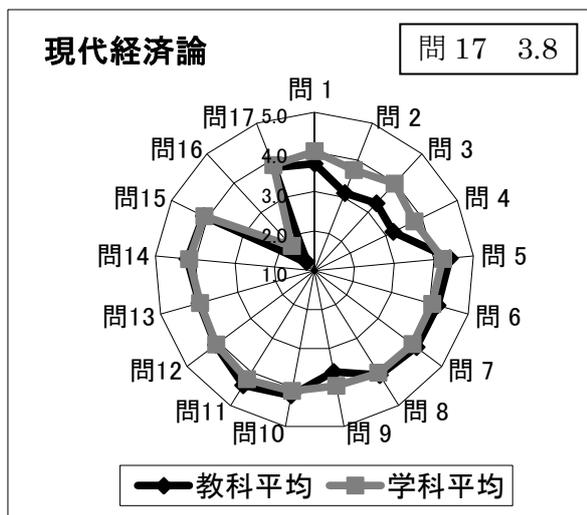
「宮崎県経済連合会」「宮崎県経営者協会」講演

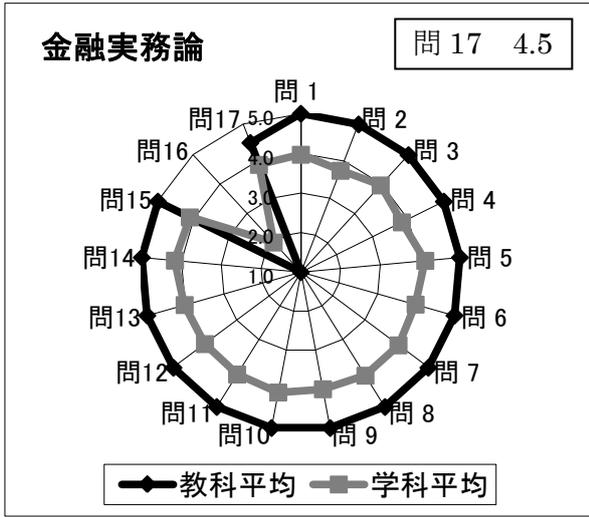
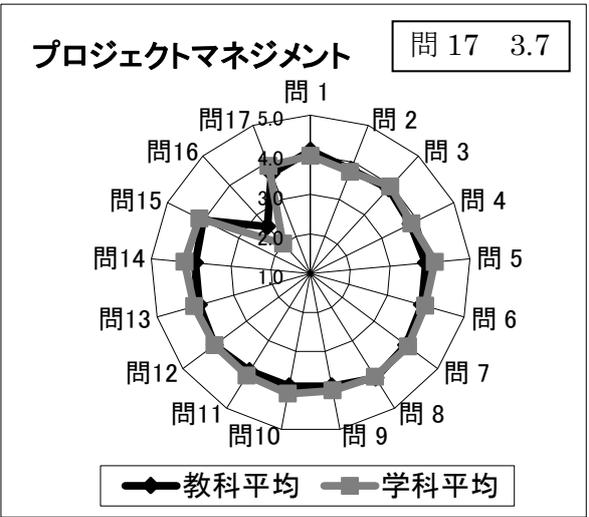
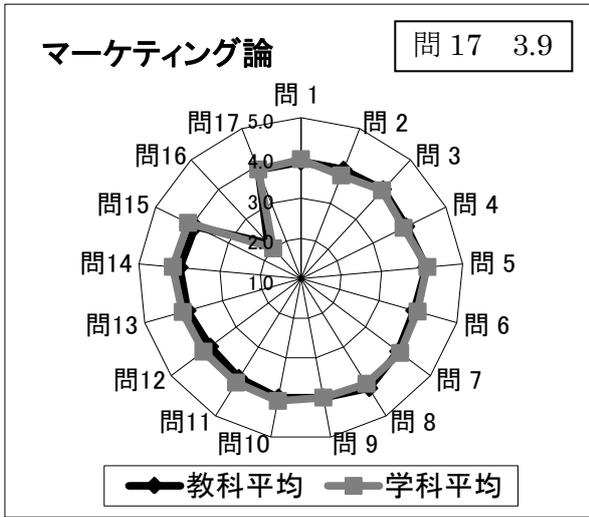
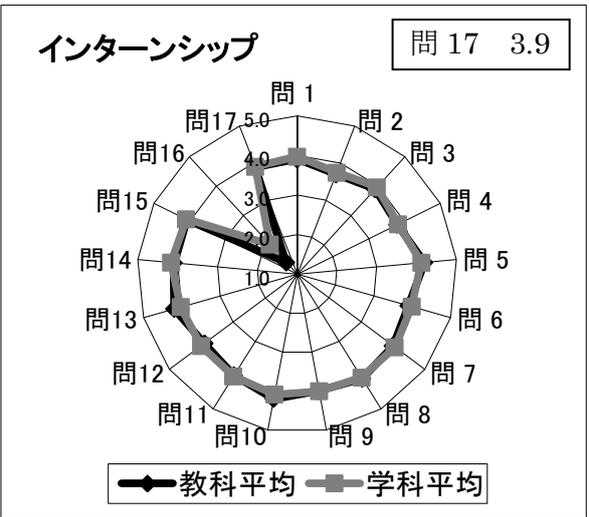
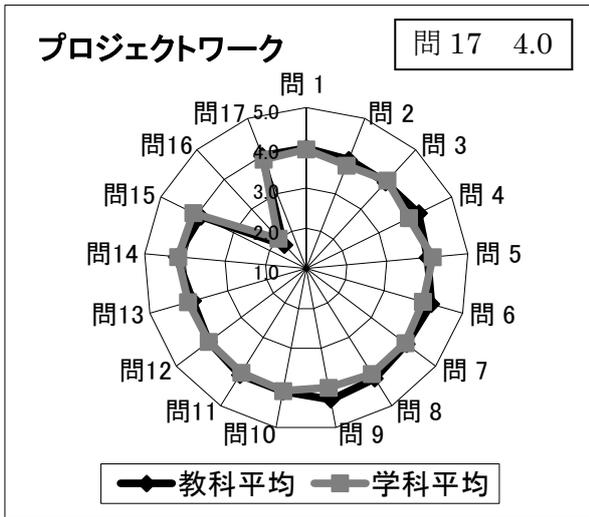
平成27年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私は、この授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった
 問 2 私は、わからない時には質問したり、自分で調べたりした
 問 3 私は、授業の内容を理解することができた（または実力がついた）
 問 4 私は、この授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う
 問 5 授業は、ほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった
 問 6 先生は、この科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した
 問 7 毎回の授業の、テーマや目的はわかりやすかった
 問 8 先生の、話し方は明瞭で、聞き取りやすかった
 問 9 先生の、板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった
 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役だった
 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった
 問 12 先生は、授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた
 問 13 先生は、学生の私語や授業態度について、適切に注意していた
 問 14 先生は、熱意を持って授業を行っていた
 問 15 先生は、学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた
 問 16 私は、この授業のために一週間あたり（ ）分、予習・復習した
 問 17 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか

5. そう思う（問 16、91分以上）
 4. どちらかといえばそう思う（問 16、61～90分）
 3. どちらともいえない（問 16、31～60分）
 2. どちらかといえばそう思わない（問 16、1～30分）
 1. そうは思わない（問 16、0分）





科目名	対象	必修・選択	教員コメント
現代経済論	ビジネス 1年	卒業必修、 資格必修	授業評価 問3の結果数値から、学ぶ目的や到達目標をより明確に示す工夫を行いたい。

経営学	ビジネス 1年	卒業必修、 資格必修	授業評価 問4の結果数値のように、社会人生活との関連性を重点的に伝えたい。
プロジェクトワーク	ビジネス 1年	卒業必修、 資格必修	授業評価 問2の結果数値から、学生一人一人が主体的に参画する意識を持つような工夫をした い。
インターンシップ	ビジネス 1年	卒業選択	授業評価 問10の結果数値からも、実習前に実習先を研究する点が学生からも評価された。
マーケティング論	ビジネス 2年	卒業必修、 資格必修	授業評価 問16の結果の数値向上のために、時々予習や復習を課す形式に変更し、理解を深める。
プロジェクト マネジメント	ビジネス 2年	卒業必修、 資格必修	授業評価 問12の結果の数値からも、学生が主体的に参画する形式を継続してとり たい。
金融実務論	ビジネス 2年	卒業選択 必修	少人数であったため、双方向のやりとりを重点的に行った。実務的な知識習得により重点をおきた い。

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	助手	岡 輝美
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
研究分野		
<p>食品衛生学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変異原性物質は、高タンパク質食品を加熱すると産生し（焼肉・焼き魚）、健康な人の血液から検出される。この物質による危害の軽減を目指して、「抗変異原性を有する食品の検索」、「食没繊維や乳酸菌による変異原性物質の吸着」に関する研究をしている。 ・「身体の黄色ブドウ球菌分布」を調べている。 ・「ジャガイモのクロロフィル含量とソラニン・チャコニン量との関連性」を調べている。 <p>食品学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食と健康」の観点から、各種食品中の機能性成分（メラトニン、EPA、DHA、ポリアミン等）の分析研究をしている。 <p>食品加工学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「衛生的な乳加工品」の製造方法を確立するため検討している。 <p>生理生化学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体成分に対する生化学的アプローチにより、食生活とそれら成分との関わりについての食生活と生理生化学に関する研究をしている。 <p>栄養士養成分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士養成校として、栄養士の資質向上に向けての取り組みや学生支援等の栄養士養成に関する研究をしている。 <p>キャリア形成支援分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアガイダンス及び就職支援・学生支援等に関する研究をしている。 		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

食品衛生学分野

- ・フードデザイン学科 1 年生 3 4 名を対象に黄色ブドウ球菌検査を実施した。検出率は、31%で、昨年(17%)より高かった。このデータを含め黄色ブドウ球菌検査に関して過去の結果をまとめ研究紀要に投稿した。

食品学分野

- ・穀類のメラトニン量を調べるについては、米飯中のメラトニンの定量法(2012年、日本食品科学工学会誌に投稿)を利用し、蕎麦のメラトニン量を分析したが、妨害成分が多く、正確なメラトニン量を測定できなかったため、抽出方法の検討が必要だと考えられた。
- ・EPA・DHA及びポリアミンの定量方法を検討するについては、検討しなかった。
- ・計画には挙げていなかったが、「蛍光標識した納豆アミノ酸の分析法」について検討した。

食品加工学分野

- ・平成 27 年度福岡県製品開発プロジェクト研究会事業「ココナッツの有効成分を利用した健康食品の開発」研究に関わる「菓子(キャラメル・ケーキ)のレシピの開発」を行った。

生理生化学分野

- ・普段の食生活と生体成分との関連性について調べた。
- ・市販バター・マーガリンに含まれる脂肪に対する *in vitro* での酵素作用について調べ、研究紀要に投稿した。

栄養士養成分野

- ・学科全員で栄養士の資質向上に向けての取り組みとして「入学から卒業までのガイドブック六訂版」に向けて検討した。
- ・栄養士養成に関する研究については、学科全員で検討しまとめ、研究紀要に投稿した。
- ・専門教育科目「食品学実験(36頁)」・「生化学実験(38頁)」・「食品衛生学実験(23頁)」・「食品加工学実習(23頁)」の教材を作成し、授業で使用した。

キャリア形成支援分野

- ・「キャリア形成支援BOOK 2015」の見直し及び「キャリア形成支援BOOK 2016」の作成に向けて担当者全員で検討した。

平成 27 年度の研究の成果

(論文)

1. 「高速液体クロマトグラフィーによる果実中メラトニンの定量分析」(共著)平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 38 号』(1~6)
2. 「栄養士養成研究(3)生活実態が学習支援効果に及ぼす影響」(共著)平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 38 号』(25~33)
3. 「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出(2)」(共著)平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 38 号』(35~39)

(その他)

1. 「入学から卒業までのガイドブック六訂版」(共著)平成 27 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学 フードデザイン学科発行
2. 「キャリア形成支援BOOK 2016」(共著)平成 27 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学 キャリア形成支援推進室発行
3. 専門教育科目「食品学実験(36頁)」・「生化学実験(38頁)」・「食品衛生学実験(23頁)」・「食品加工学実習(23頁)」のファイル付教材プリント作成

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「大腸菌群陰性の自家製アイスクリームに関する食品加工研究」(共著)平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 36 号』(21~26)

2. 「米のメラトニン含量」(共著) 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 37 号』(17~22)
3. 「栄養士養成研究(2) 学習支援に対する効果」(共著) 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 37 号』(41~47)
(報告)
1. 「栄養士養成研究(1) 栄養士としての資質向上に向けての取り組み」(共著) 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学 研究紀要 第 36 号』(103~107)
(その他)
1. 「入学から卒業までのガイドブック四訂版」(共著) 平成 25 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学
フードデザイン学科発行
2. 「SHUSHOKU GUIDE 2013」(共著) 平成 25 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学
就職部発行
3. 「入学から卒業までのガイドブック五訂版」(共著) 平成 26 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学
フードデザイン学科発行
4. 「キャリア形成支援BOOK 2014」(共著) 平成 26 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学
キャリア形成支援推進室発行

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 「不溶性食物繊維によるヘテロサイクリックアミンの吸着」(共著)『食品衛生学雑誌 37 巻 2 号』(1996)
2. 「Adsorption of Heterocyclic Aromatic Amines by Low Molecular Weight Cellulose」
(共著)『Journal of Food Hygienic Society of Japan, Vol. 38, No. 6』(1997)
3. 「ラット排泄物中での Trp-P-1 及びその代謝物の挙動」(共著)『食品衛生学雑誌 42 巻 4 号』(2001)
4. 「穂先タケノコの有効利用」(共著)『日本調理科学会誌 35 巻 3 号』(2002)
5. 「HPLC による生乳中メラトニンの定量」(共著)『日本食品科学工学会誌 54 巻 3 号』(2007)

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本調理科学会	大会等不参加
日本家政学会	大会等不参加
日本栄養改善学会	大会等不参加
日本食品衛生学会	大会等不参加

平成 28 年度 研究計画

食品衛生学分野

- ・「女子短期大学生における黄色ブドウ球菌の分布」というテーマで研究紀要に投稿する。
- ・「ジャガイモのクロロフィル含量とソラニン・チャコニン量との関連性」について検討する。

食品学分野

- ・アイスクリームの気泡の大きさと滑らかさについて検討する。
- ・薄層クロマトグラフィーによる EPA・DHA 及びポリアミンの定量方法を検討する。

食品加工学分野

- ・「ココナッツオイル抽出残渣の有効利用」に関する研究は継続する。

生理生化学分野

- ・「乳・乳製品に含まれる脂肪の酵素作用による検出(3) 乳化作用強化による影響」というテーマで研究紀要に投稿する。

- ・生体成分に対する生化学的アプローチにより、食生活とそれらの成分との関わりについて調べる。
- ・食品中の栄養分における生体内酵素作用について及び特定健康食品中の栄養学的特性について比較研究する。

栄養士養成分野

- ・「栄養士養成研究（４）学習支援効果に対する効果の２年間の分析」というテーマで研究紀要に投稿する。
- ・「入学から卒業までのガイドブック六訂版」の見直し及び「入学から卒業までのガイドブック七訂版」の作成を学科全員で行う。
- ・専門教育科目「食品学実験」・「生化学実験」・「食品衛生学実験」・「食品加工学実習」のテキストの内容を再検討・修正し、充実させる。

キャリア形成支援分野

- ・「キャリア形成支援 BOOK 2016」の見直し及び「キャリア形成支援 BOOK 2017」の作成を担当者全員で行う。

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
なし			

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
久留米信愛女学院短期大学同窓会役員報告会	平成 27 年 6 月 27 日	久留米信愛女学院短期大学 同窓会
久留米市内 5 大学等連携による市民公開講座	平成 27 年 10 月 24 日	高等教育コンソーシアム久留米
筑後川河川美化「ノーポイ」運動	平成 27 年 10 月 25 日	久留米市役所 都市建設部河川課（久留米市）
久留米市内 5 大学等連携による市民公開講座	平成 27 年 10 月 31 日	高等教育コンソーシアム久留米

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先
なし		

その他特記事項

内容	年 月 日
なし	

平成 28 年度 社会的活動計画

- ・地域参画推進団体への協力
- ・ボランティア活動への協力
- ・久留米信愛女学院短期大学同窓会への協力

所属学科	職名	氏名
フードデザイン学科	助手	眞谷智美
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
研究分野		
<p>1. 幼児・子どもの健康と食生活に関する調査研究 久留米市食育プランへの取り組みの一環としてアンケート調査を実施 子どもの食育に関する事業の推進を図り保護者に対する健康教育に活用する基礎資料作成</p> <p>2. 地域特産物を利用した食育教材開発 久留米市内の保育園・幼稚園児の保護者、保育施設、地域社会と連携し、食と農に関する教育と健全な食生活への理解を促進する目的で地域農作物を使った食育教材作成</p> <p>3. 行事食に関する調査研究 栄養士・保育士養成課程の学生へ年中行事や通過儀礼の認知度・経験、その際の行事食について、喫食経験、喫食状況、調理状況、食べ方などの喫食経験等をアンケート調査 食文化の継承に繋がる食教育法についての資料として調査研究を実施</p> <p>4. 地域特産物を活用した食教育の効果検証 久留米市食育推進プランにおける食育事業への参画および農業団体や食品関連事業者等との協力活動を通して食育を実践 その成果を踏まえ栄養士養成カリキュラムにおける「地産農産物を活用した食教育」への取り組みを行った</p> <p>5. 栄養士としての資質向上に向けての取り組み 栄養士養成の立場で学生が栄養士養成課程に必要な知識および技術に関する基本的事項を習得するために学科全教員でガイドブックを作成 本学科独自の学習支援および進路支援を実施</p> <p>6. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関するアンケート調査 久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際について把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするためアンケート調査を実施</p> <p>7. 乳幼児とその保護者への食育に関する研究 「子育て支援講座」において乳幼児の保護者およびその関係者へ望ましい食習慣を確立することを目的とし講座・調理実習を実施、その食育の取り組みについて報告</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 栄養士としての資質向上に向けての取り組み

栄養士養成の立場で学生が栄養士養成課程に必要な知識および技術に関する基本的事項を習得するために学科全教員でガイドブックを作成 本学科独自の学習支援および進路支援を実施
また、生活実態が学習支援効果におよぼす影響について報告

2. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関するアンケート調査

久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際について把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするためアンケート調査を実施

3. 乳幼児とその保護者への食育に関する研究

「子育て支援講座」において乳幼児の保護者およびその関係者へ望ましい食習慣を確立することを目的とし講座・調理実習を実施、その食育の取り組みについて報告

平成 27 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究 (3) 生活実態が学習支援効果におよぼす影響」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』(25-33)

(研究ノート)

1. 「久留米市の保育園・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第 1 報」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』(53-58)

(報告)

1. 「子育て支援講座における食育の取り組み」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』(91-97)

(その他)

1. 『入学から卒業までのガイドブック第 6 号』 共著 平成 27 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「行事食に関する調査研究 第 4 報」 共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 36 号』(27-32)

2. 「栄養士養成研究 (2) 学習支援に対する効果」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 37 号』(41-47)

(発表)

1. 「行事食に関する調査研究 第 4 報」 共同 平成 25 年 8 月 日本調理科学会 平成 25 年度大会 奈良女子大学

(研究ノート)

1. 「地産農産物を活用した食教育の効果検証」 共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 36 号』(69-73)

2. 「学生の食事にみられる日常食の実際」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 37 号』(77-80)

(報告)

1. 「栄養士養成研究 (1) 栄養士としての資質向上に向けての取り組み」 共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 36 号』(103-107)

(その他)

1. 『入学から卒業までのガイドブック第 4 号』 共著 平成 25 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科

2. 『入学から卒業までのガイドブック第5号』 共著 平成26年4月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科

本教員の主たる研究の成果（5編以内）

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会	第62回日本栄養改善学会学術総会参加
日本調理科学会	大会等不参加
日本家政学会	平成27年度日本家政学会九州支部公開学術講演参加

平成28年度 研究計画

1. 栄養士養成に関する研究

「入学から卒業までのガイドブック」の改定を学科内教員で行う

「栄養士養成研究(4) 学習支援に対する効果の2年間の分析」 共著 久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第39号 投稿予定

2. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関するアンケート調査

久留米市の保育園・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第2報 共著 久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第39号 投稿予定

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
信愛つどいの広場 子育て支援講座「親子クッキング」	平成 28 年 2 月 20 日	久留米信愛女学院短期大学	久留米信愛女学院短期大学

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
J A くるめ広報誌「With You」レシピ掲載 くるめ食育フェスタ 2015	平成 27 年 1 月号～平成 28 年 3 月号 平成 27 年 11 月 14 日	J A くるめ ふるさとくるめ農業まつり実行委員会

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先

その他特記事項

内容	年 月 日
久留米大学「食と健康」調理実習 助手	平成 27 年 6 月 6 日・27 日 10 月 10 日・11 月 21 日

平成 28 年度 社会的活動計画

1. 「信愛つどいの広場」子育て支援講座 講師
2. J A くるめ広報紙「With You」へ久留米農産物を使った料理レシピ掲載
3. ふるさとくるめ農業まつりへの協力
4. 久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育に関するアンケート調査集計報告
5. 久留米大学「食と健康」調理実習 助手
6. グリーンコープ「GREENふらす」への料理レシピ掲載

所属学科	職名	氏名
フードデザイン学科	助手	高松幸子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
研究分野		
<p>1. 幼児・子どもの健康と食生活に関する調査研究 久留米市子どもの健康と食生活に関する実態調査を受けて、基礎資料の作成や朝食摂取とその他の要因の関連について研究している。</p> <p>2. 行事食に関する調査研究 栄養士・保育士養成課程の学生へ福岡県の郷土料理の喫食経験等をアンケート調査し、食文化の継承に繋がる食教育法についての資料として継続して調査研究している。</p> <p>3. 栄養士養成に関する研究 学科全教員でガイドブックを作成し、栄養士としての資質向上に向けての取り組み等を研究している。</p> <p>4. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関する研究 久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際についてアンケート調査による把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするための研究をしている。</p> <p>5. 乳幼児とその保護者への食育に関する研究 「子育て支援講座」において乳幼児の保護者およびその関係者へ望ましい食習慣を確立することを目的とし講座・調理実習内容等を研究している。</p>		

平成 27 年度 研究報告

平成 27 年度の研究の概要

1. 栄養士養成に関する研究

栄養士の資質向上に向けての取り組みとして、学科全教員で『入学から卒業までのガイドブック』の内容検討し作成した。学科学生へのアンケートを実施、生活実態の学習支援効果について報告した。

2. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関する研究

久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際について把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするためアンケート調査を実施した。

3. 乳幼児とその保護者への食育に関する研究

「子育て支援講座」において乳幼児の保護者およびその関係者へ望ましい食習慣を確立することを目的とし講座・調理実習を実施、その食育の取り組みについて報告した。

平成 27 年度の研究の成果

(論文)

1. 「栄養士養成研究 (3) 生活実態が学習支援効果におよぼす影響」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』(25-33)

(研究ノート)

1. 「久留米市の保育園・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第 1 報」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』(53-58)

(報告)

1. 「子育て支援講座における食育の取り組み」 共著 平成 27 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 38 号』(91-97)

(その他)

1. 『入学から卒業までのガイドブック第 6 号』 共著 平成 27 年 4 月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科

平成 26 年度及び 25 年度の研究の成果

(論文)

1. 「行事食に関する調査研究 第 4 報」 共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 36 号』(27-32)
2. 「栄養士養成研究 (2) 学習支援に対する効果」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 37 号』(41-47)

(発表)

1. 「行事食に関する調査研究 第 4 報」 共同 平成 25 年 8 月 日本調理科学会 平成 25 年度大会 奈良女子大学

(研究ノート)

1. 「地産農産物を活用した食教育の効果検証」 共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 36 号』(69-73)
2. 「学生の食事にみられる日常食の実際-食事調査からの考察-」 共著 平成 26 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 37 号』(77-80)

(報告)

1. 「栄養士養成研究 (1) 栄養士としての資質向上に向けての取り組み」 共著 平成 25 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第 36 号』(103-107)

(その他)

1. 『入学から卒業までのガイドブック第4号』 共著 平成25年4月 久留米信愛女学院短期大学
フードデザイン学科
2. 『入学から卒業までのガイドブック第5号』 共著 平成26年4月 久留米信愛女学院短期大学
フードデザイン学科

本教員の主たる研究の成果 (5編以内)

所属学会および参加状況

所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会 日本調理科学会	第62回日本栄養改善学会学術総会参加 大会等不参加

平成28年度 研究計画

1. 栄養士養成に関する研究
『入学から卒業までのガイドブック第7号』 共著 久留米信愛女学院短期大学 フードデザイン
学科 改定発行予定
「栄養士養成研究(4) 学習支援に対する効果の2年間の分析」 共著 『久留米信愛女学院短期
大学研究紀要 第39号』 投稿予定
2. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関する研究
「久留米市の保育園・幼稚園・認定こども園における食育推進の実際 第2報」 共著 『久留米
信愛女学院短期大学研究紀要 第39号』 投稿予定

平成 27 年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
信愛つどいの広場 子育て支援講座「親子クッキング」	平成 28 年 2 月 27 日	久留米信愛女学院 短期大学	久留米信愛女学院 短期大学

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
J A くるめ広報誌「With You」レシピ掲載 くるめ食育フェスタ 2015	平成 27 年 1 月号～ 平成 28 年 3 月号 平成 27 年 11 月 14 日	J A くるめ ふるさとくるめ農業 まつり実行委員会

他大学への非常勤等

科目名	期間	出向先

その他特記事項

内容	年 月 日
久留米大学「食と健康」調理実習 助手	平成 27 年 6 月 6 日・27 日 10 月 10 日・11 月 21 日

平成 28 年度 社会的活動計画

1. 「信愛つどいの広場」子育て支援講座 講師
2. J A くるめ広報紙「With You」へ久留米農産物を使った料理レシピ掲載
3. ふるさとくるめ農業まつりへの協力
4. 久留米市の保育所・幼稚園・認定こども園における食育に関するアンケート調査集計報告
5. 久留米大学「食と健康」調理実習 助手
6. グリーンコープ「GREENプラス」への料理レシピ掲載

平成 27 年度第 1 回教員研究会要旨

平成 27 年 9 月 9 日 13:00～

於：バイオレットホール

幼児教育学科 渡邊 由恵

「保育現場とのつながり」

本研究会では、筆者の保育者としての現場経験等の経歴から現在の研究活動、社会活動について発表を行った。

現在社会活動として、保育者対象研修会の講師として園内外の研修会に携わっており、その研修内容の一部を紹介した。保育実践の場で保育者の課題としてあげられるのが、子ども理解と記録の取り方である。この 2 つは保育の質の向上のために必要不可欠な要素であり、保育者養成の場でもこの課題を踏まえ、学生指導の充実を図っていくことが重要であると考えます。

また、質的研究法の 1 つであるエスノグラフィーの紹介を行った。エスノグラフィーとは、調査対象の人々の自然な姿を捉え、その意味世界を行為者の視点で理解することを目指す研究方法であり、筆者が A 市子育てサークル B で行ったエスノグラフィーについて、分析法や結果を提示しながら説明をした。質的研究は調査対象者を数として捉える量的研究とは違い、一人一人の経験や主観を重視することを基本としている。保育や看護等の臨床の場において、その個人を理解するために有益な研究方法である。

最後に、現在筆者が研究テーマとしている木育について、木育の理念を説明するとともに、筆者の木育推進のための活動について紹介を行った。現在、木育おもちゃを使用した子育てサロン「木もれびひろば」の開催、木育に関する講演等を行うとともに、木育子育て支援施設においてフィールドワークを行っている。また、八女市黒木町笠原地区の木育推進にも賛助している。今後は筑後地域の木育推進に向けて学内外でも活動を行い、筑後地域に愛着を持ち、その特性を活かした保育を展開することができる保育者養成に努めていきたいと考える。

平成27年度第2回教員研究会 要旨

平成27年9月16日(水) 13:00~14:00

場所: バイオレットホール

ビジネスキャリア学科 榎山フミエ

テーマ: 「マタイ福音書」について

本学では基礎教育科目は外国語、体育科目以外16科目設定されているが、そのうち「キリスト教概論」と「信愛教育Ⅰ～Ⅳ」は卒業必修科目として設定されている。それは建学の精神の核になるものとして考えられているからである。

そこで、キリスト教の中心といえる新約聖書の中から「マタイ福音書」についてその成り立ち、読み方について説明した。成り立ちとしては現在私たちが手にしているマタイ福音書の資料、著者、年代、場所、対象、中心的な教え、形成している四つの要素すなわち宣教的要素、護教的要素、教訓的要素、典礼的要素があることを説明し、読み方としてはそのひとつの方法として構造的に全体をひとつのものとして読むと、そのメッセージがわかりやすいということを説明した。

マタイ福音書はイエス・キリストの説教と出来事が交互に組み合わせられ、まとめられており理解しやすい。

最後に、学生たちに「キリスト教概論」で強調していることは、こうしたイエス・キリストの教えを学ぶのは、それを知ってそれを生きていく、すなわち本学の建学の精神を身につけるよう努力していく事であって、単なる知識の習得ではないということである。もちろん、どの教科目も単なる知識、技能の習得ではなく、それを役立てていくためのものであるが、この科目は、はっきり目に見えた形でできたということが難しく、生涯かけて身につけていく、自分づくりの内容だけに教え方、説明していくことの困難なことを付言した。

平成 27 年度 第 3 回 教員研究会

テーマ「新しい学力観に基づく学習指導」

平成 28 年 2 月 24 日 バイオレットホール

幼児教育学科 森 光 義 昭

前世紀は「モノづくり」としての「物質文明」の 100 年であったといえるが、科学技術の発展には知識の習得は不可欠の要因であり、そのことは大きな役割を果たしてきたと言える。ところで、現在の教育課程は「教科」（科目）、「道徳」、「特別活動」の 3 つの領域と「総合的な学習の時間」の一つの時間によって構成されている。この 3 領域 1 時間は相互に関連し合いながら実践されてきた。しかし、個々の「領域」や「時間」は必ずしも所期の目的を達成しているとは言えないのではないかと。特に「教科」（科目）について述べると、20 世紀後半、学歴社会をつくり出した社会的背景から、学校における学習指導は知識の詰め込み教育が中心的な位置を占めてきたように思われる。このことの根底には入学試験制度が大きく関係していると考えられるが、学習者の立場から言えば、学習は入学試験のためのものであり、知識を暗記することが目的であると認識されてきたように思われる。そのため、解答を導き出すための過程を重視することなく、速やかに正解を出すための方法的技法の習得に力が注がれ、学習者にとってはテストの点数こそが重要であると認識されてきた。本来、学習の目的は学習課題を系統的に思考し、課題を解決し、物事の仕組みを理解し、生活に活用できる力を身につけることにある。つまり、学習課題の解決にあたっての過程を重視することこそが重要な要件である。今世紀に入り、「ヒトづくり」としての「精神文明」へ移行した今、学習指導は人間の持っている知恵や個性を如何に育て、伸ばしていくかに掛かっているように思われる。現在、行われている「新しい学力観」に基づく学習指導はこれまでの諸々の課題を踏まえて、社会の状況に対応するための創造力、実践力、協働力を養うことをねらいとしたものである。また、この学力観は生涯学習としての自己の生き方を問い続ける力を身につけることもそのねらいとしているところである。

テーマ 「今までの取組みと研究及び実践について」

複数の企業組織での経験から、組織文化の課題と変革の糸口について「ダイバーシティ（多様性）・女性活躍推進」や、「組織と個人の関係性・キャリアデザイン」などの研究を行っている。またマーケティング業務の実践経験から、組織の在り方やキャリアデザインにもマーケティングのフレームワークを組み込んだ内容で、学生への授業はもちろん、さまざまな企業や行政組織への講演や研修を行っている。

中でもマーケティングに関しては、フィリップ・コトラー教授(2010)により「マーケティング 4.0」が発表され、従来の①製品中心、②顧客志向、③価値主導のマーケティングから、④自己実現欲求のマーケティングへと変化しているという考えから、そこにマズローの5段階欲求の5番目にあたる「自己実現欲求」との関係性について、研究を行っている。

授業での実践は、主にマーケティングなど経営学の要素の知識をもとに、「プロジェクトマネジメント」科目にてPBLを行っている。学生は、①製品中心や②顧客志向のマーケティングで使われてきた、従来のマーケティングのフレームワークを学んだ上で、③価値主導マーケティングの価値とは何かをプロジェクトを通じ学んでいく。次年度も企業の協力のもと、継続してPBL授業を推進していく。

その他、所属している福岡地域戦略推進協議会(Fukuoka.D.C)の概要説明や、久留米市との関係性、取組み内容についての発表を行った。

学生の授業評価に基づく優秀科目

次の科目は「学生による授業評価アンケート」において、「総合評価」の評価が高かったので、「優秀科目」として称えます。(アンケート回答者数が5名以上の科目を表彰の対象とします)
同順の科目は回答者数の人数が多い順に掲載しています。

平成 27 年度前期

順位	科目	対象	指導形態	必修・選択	担当者	解答者数	総合評価点
1	モンテッソーリ教育法Ⅰ	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択・ 資格選択必修	関	7人	4.7
2	保育内容総論	幼児教育学科 1年	演習	卒業選択・免許必 修・資格必修	渡邊	73人	4.5
2	臨床栄養学概論	フードデザイン 学科2年	講義	卒業選択・ 免許必修	石井	27人	4.5
2	英語Ⅲ	全学科2年	演習	卒業選択必修・ 資格選択必修	阿久根	6人	4.5
5	幼児音楽Ⅲ	幼児教育学科 2年	演習	卒業必修・ 資格選択必修	進藤	62人	4.4
5	保育の心理学	幼児教育学科 2年	演習	卒業必修・ 資格必修	池田	45人	4.4
5	ピアノⅠ	幼児教育学科 1年	演習	卒業必修・ 免許選択必修	原	10人	4.4
8	保育指導法Ⅰ	幼児教育学科 2年	演習	卒業必修・免許必 修・資格選択必修	渡邊	51人	4.3
8	発達心理学	幼児教育学科 2年	講義	卒業選択・免許必 修・資格必修	池田	45人	4.3
8	基礎調理学実習Ⅰ	フードデザイン 学科1年	実習	卒業必修・ 免許必修	山村	34人	4.3
8	応用調理学実習Ⅰ	フードデザイン 学科2年	実習	卒業選択・ 免許必修	山村	27人	4.3
8	ビジネス実務 演習Ⅲ	ビジネスキャリア 学科2年	演習	卒業選択・ 資格必修	藤村	15人	4.3

平成 27 年度後期

順位	科目	対象	指導 形態	必修・選択	担当者	解答 者数	総合 評価点
1	モンテッソーリ教育法Ⅱ	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択・ 資格選択必修	関	9人	4.7
2	保育相談支援	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択・ 資格必修	池田	51人	4.4
2	音楽保育	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択・ 資格選択必修	椎山	5人	4.4
4	応用調理学実習Ⅱ	フードデザイン 学科2年	実習	卒業選択・ 免許必修	山村	25人	4.3
4	ビジネス実務 演習Ⅳ	ビジネスキャリア 学科2年	演習	卒業選択・ 資格必修	藤村	15人	4.3
4	コンピュータ基礎 演習Ⅲ・Ⅳ	ビジネスキャリア 学科1年	演習	卒業選択・ 資格必修	大塚	9人	4.3
4	ビジネス実務 演習Ⅱ	ビジネスキャリア 学科1年	演習	卒業必修・ 資格必修	藤村	9人	4.3
4	キャリア ガイダンスⅠ (ビジネス)	ビジネスキャリア 学科1年	演習	卒業選択	藤村	9人	4.3
9	保育課程論	幼児教育学科 1年	講義	卒業選択・ 資格必修	渡邊	72人	4.2
9	保育指導法Ⅱ	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択・免許必 修・資格選択必修	渡邊	53人	4.2
9	企業と法	ビジネスキャリア 学科2年	講義	卒業選択・ 資格必修	生地篤	14人	4.2

平成27年度 教育と研究

平成28年 7月20日 印刷

平成28年 8月 1日 発行

発行所 久留米信愛女学院短期大学

〒839-8508 福岡県久留米市御井町 2278-1

TEL : 0942-43-4532

FAX : 0942-43-2531

印刷所 多田印刷株式会社 〒830-0037 福岡県久留米市諏訪野町四丁目 2432 番地